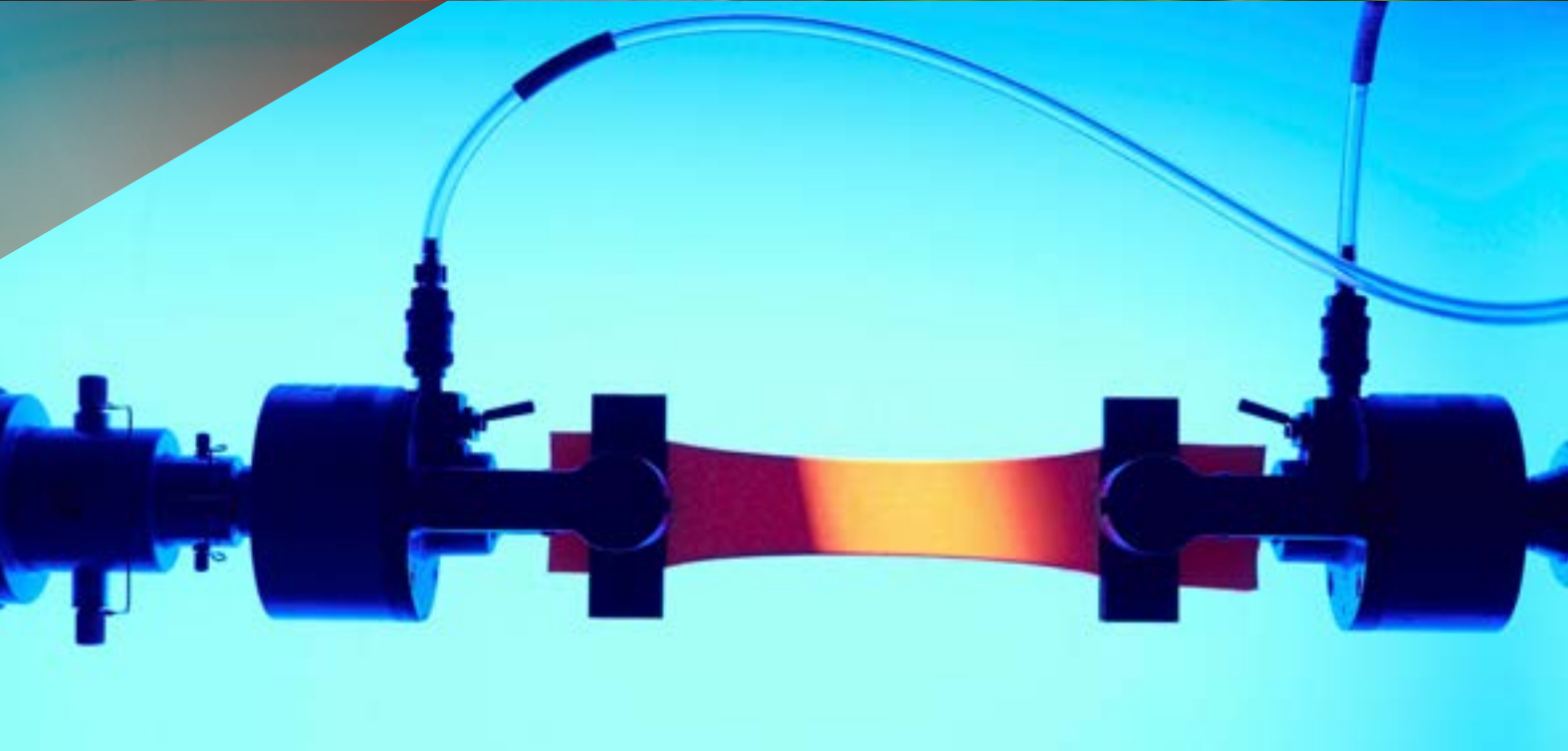


ゴア ファブリクス・ディビジョン レスポンシビリティ・アップデート 2021



Together, improving life

当資料は、W. L. Gore & Associates GmbHが作成した英文レポート「GORE FABRICS DIVISION RESPONSIBILITY UPDATE 2021」を日本語に翻訳再編集したものです。正式言語は英語であり、その内容及び解釈については英語が優先します。
英文レポート: https://www.gore-tex.com/sites/default/files/2022-01/Responsibility_Update_2021.pdf





ジャック・レネ
ゴア ファブリクス、リーダー
(アメリカ)

対応が求められる数々のグローバル課題

ゴアは、グローバル市民として、アソシエート、私たちを取りまく社会、当社の製品を信頼するカスタマーのために正しい行動をとるよう努めています。この困難な時期に多くの方が犠牲を払っていることも認識しています。医療従事者、最前線で働く方々、パンデミック下で社会を支えるエッセンシャル・ワーカーの方々に改めて感謝の意を表します。また、人々を守るためのゴアの企業としての活動や、柔軟性を保ちビジネスを継続させるためのアソシエートによる多くの努力にも感謝します。

しかし2021年には、世界がパンデミック以外に多くの課題に直面していることも明らかになりました。私たちは引き続き、ますます深刻化する環境問題や社会問題に悩まされています。気候変動は人類にとって脅威であり、業種を越えた協力が必要です。私たちは、ビジネスに伴う炭素排出量削減のための取り組みを誇りに思っています。サステナビリティ、世界に対するインパクトの軽減、平等の推進を、人類共通の未来に向けた柱にしなければなりません。

ゴア ファブリクス・ディビジョンにとっては、成功の一年

明るい面に目を向けると、昨年は数々の課題にもかかわらず、ゴアとそのアソシエートは、パートナーとともにフォーカスを失うことなく、2021年を成功の年にできたと自負しています。パンデミックの影響で屋外での活動を楽しむ人が増えたことで、ゴアのビジネスは強化されました。2021年、新型コロナウイルスの感染拡大が続くなかでも工場で働き続けたすべてのアソシエート、そしてテレワークを活用して働いた皆さんに感謝します。彼ら全員が、素晴らしい仕事をしてくれました。

現在の業績にとどまらず、私たちは未来にも目を向けています。私たちが常に追求してきた責任ある行動や、エンドユーザーに提供するパフォーマンスを誇りに思います。ゴアは今年、責任あるパフォーマンスという考え方を、戦略と製品計画に明確に盛り込みました。私たちは常に最高の防護性を備えたアパレルの提供に注力するだけでなく、使い捨ての文化を過去の遺物にするためにゴアが業界で果たせる役割も認識してきました。この考え方を通じて、私たちのビジネスの変革を長期的に促せると期待しています。これに関しては、2022年を迎えてからが本番になるでしょう。

皆さん

2021年を振り返ると複雑な気持ちになります。間違いなく、私たちのビジネス、アソシエート(社員)、世界全体にとって、今年も極めて困難な一年でした。新型コロナウイルスの感染拡大は、今も世界の大きな課題として生活のあらゆる側面に影響を与えています。当面、収束は見通せず、ゴアのアソシエートやファブリクスビジネスだけでなく、サプライチェーン・パートナーにも負担がかかっています。すべての分野で引き続き警戒が求められます。

最後に重要な点として、私たちが昨年、サステナビリティ目標をビジネスのあらゆる側面に取り入れて、サステナビリティへのコミットメントを継続的に実現したことを、大いに誇りに思います。私たちは2020年に、測定可能な意欲的なプログラムの土台となるサステナビリティフレームワークを策定しました。2021年も、人と地球を守り、製品を長持ちさせて人々のウェルビーイングを充実させることを目指して、さまざまな個別のイニシアチブを通じてサステナビリティの歩みを続けました。最も重要なプロジェクトとその成果を、以降のページに簡単にまとめています。

2つの卓越した製品イノベーション

レスポンシビリティに対する深いコミットメントに支えられて、私たちは昨年、サステナビリティの歩みの重要なマイルストーンとなる、2つの卓越した製品イノベーションを発表しました。一般消費者向けビジネスでは、一般消費者向けファブリクスの新しい補完的素材プラットフォームとなるePEを発表しました。これはおそらく、40年前に初のGORE-TEX製品を発売して以来、最も重要なイノベーションです。GORE-TEXプロフェッショナル向けビジネスは、新たな3層構造のアップパー素材を用いたEXTRAGUARDテクノロジーの導入を通じて革新力を発揮しました。これは、全く新たなクラスの頑丈性、防水性、透湿性のあるGORE-TEXセーフティフットウェアのための製品ソリューションです。詳しくは、このレポートに掲載された一般消費者向けファブリクス(COF)とプロフェッショナル向けファブリクス(TOF)両ビジネスのリーダーによる対談をお読みください。

持続可能な未来をともに目指して

2022年に向けて、私は非常に楽観的に考えています。ゴアの製品の根底にはイノベーションがあります。求められるパフォーマンスの理解と科学へのコミットメントを通じて、私たちは、エンドユーザーの問題を解決する、新しく極めて価値ある素材を開発する独自の能力を持っています。またサステナビリティへの取り組みを、日々強化しています。

社会的な責任を担い、素材にイノベーションを起こす企業として、私たちはマテリアルサイエンスを活用してパフォーマンスとサステナビリティの限界に挑戦するため、これまで以上に力を尽くしています。今後も、可能な限り高い防護性、快適性と、全体的な低環境負荷を両立させて、当社のすべてのファブリクスビジネスで最高クラスのパフォーマンスを実現する新たなソリューションの開発を目指していきます。

コロナ後の世界を見据えて、ファブリクス・ディビジョンは、ファブリクス産業の持続可能性の向上に大きな役割を果たしたいと考えています。未来の世代に誇れる世界を残せるよう、ぜひ力を貸してください。私たちとともに歩みましょう。

Jaegun Kim Jr

目次

レスポンシビリティ アップデート2021

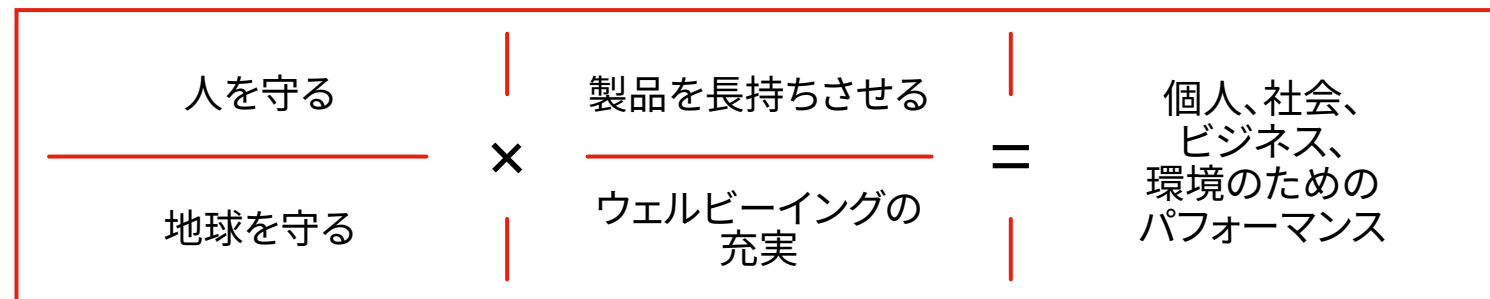
サステナビリティ戦略	3
プロフェッショナル向けビジネスの展望：リーダー対談	6
サステナビリティの歩み	8
サステナビリティの鍵を握るイノベーション： ePE	9
一般消費者向けビジネスの展望：リーダー対談	12
気候変動への影響を減らす	15
サステナビリティのイノベーション：資源の効率的活用	18
化学物質のインパクトを減らす	23
サプライチェーンの環境に対する責任	26
社会に対する責任：公正で安全な労働環境の実現	30
社会的インパクトを強める	35
サステナビリティのための協働：ステークホルダーの関与	36

ゴア ファブリクス・ディビジョンのビジネスを後押しするサステナビリティフレームワーク

ファブリクス・ディビジョンは、2021年にサステナビリティを最優先課題と定め、戦略的なビジネスの推進力としました。戦略を実現し、全体的な方向性を示し、取り組みの優先順位を決め、サステナビリティをビジネスに統合するために、サステナビリティフレームワークを活用しはじめました。

ファブリクス・ディビジョンの進化したサステナビリティ戦略の実施を支えるために、2020年に戦略的なサステナビリティフレームワークを策定しました。このフレームワークが望ましい効果をあげはじめています。フレームワークの力を借りて、ファブリクス・ディビジョンは、2021年以降に向けた全体的な戦略方針を定めました。その多くの例が、このレポートに掲載されています。最もインパクトの大きいイニシアチブに対して、リソースの重点投入も進められました。このフレームワークによって、サステナビリティが、私たちのビジネスと数々の日常業務の土台として統合されはじめました。

2021年には、このフレームワークによって、一般消費者向けファブリクス (COF) とプロフェッショナル向けファブリクス (TOF) 両ビジネスの様々な側面への注目が高まりました。個々の製品や市場のニーズに応じて大きな差はあるものの、今やサステナビリティは、すべてのビジネスにおいて議論の中心であり重要な検討事項です。6、12ページのTOFとCOF両リーダーの対談では、両ビジネスが達成した大きな変化を紹介しています。



サステナビリティフレームワークは次のシンプルな式で表すことができます。人々と地球を守り、製品を長持ちさせ、人々のウェルビーイングを充実させることで、ゴアは環境、個人、社会、そしてゴアのビジネスに利益をもたらすパフォーマンスを同時に実現するという事です。

これは、技術的な製品特徴や財務成績を超越した、パフォーマンスの再定義です。ゴアは、2020年にフレームワークを提示した際に発表したように、より持続可能な未来への道のりの中で、これらの要素によってパフォーマンスを測定することを約束します。

サステナビリティフレームワークを共有することで、ファブリクス・ディビジョンの目標に向け、ビジネスの垣根を越えた協調的な対策を非常に打ち出しやすくなりました。たとえば、カーボンフットプリントに関する対策の理解と策定、新たな素材プラットフォームへの資源の集約、組織全体の意識向上などが挙げられます。



人を守る



地球を守る



製品を長持ちさせる



ウェルビーイングの充実

私にとって、ゴアのサステナビリティとは……

……製品、設備、アソシエートすべてを通じて示される一貫した価値

Ryan H. Kelley
サステナビリティスペシャリスト (アメリカ)

……誰もが必要とする、間違いなく切実な問題に貢献すること。

Michele Castelli
セールス (イタリア)

……次の世代により良い環境を残すための貢献。

Christian Mayer
プロダクトスペシャリスト (ドイツ)

……長持ちするパフォーマンスが約束された責任ある製品の開発。

Per Borgillen
セールス (スウェーデン)

……提供する製品・サービスを差別化し、さらなる成長を生み出す新たな機会。

Jonas Andersson
セールス (スコットランド)

……高機能で長持ちするラミネートを作ること。

Sissi Cheng
アプリケーションエンジニア (中国)

……高機能で耐久性ある製品を最大限活用して、廃棄物を減らすこと。

Serena Carluccio
セールス (イタリア)

……見せかけだけの環境への配慮ではなく、実証済のステートメント。

Sander Effring
アカウントマーケティング (ドイツ)

……来るべき次の世代により良い未来を残すこと。

Annemarie Bell
プロダクトサポート (アメリカ)

……カスタマーの需要に応えながら、過剰生産はしないこと。

Alex Luo
インブルーブメントスペシャリスト (中国)

インタビュー

バーナード・キール

ゴア・エンタープライズ、
サステナビリティリーダー
(ドイツ)



Q: エンタープライズとしてのゴアにとって、サステナビリティはどれくらい重要ですか？ また、優先事項は何ですか？

バーナード・キール(以下、BK): ゴアにとって、サステナビリティは、「Together, improving life (共に生活を向上させる)」というプロミスの一つの表現です。そのためサステナビリティは、ゴアの創業者らが目指した目標と結びついています。すなわち、素材のイノベーションを通じて社会に価値をもたらすということです。たとえばゴアの製品でいえば、産業排気中の粒子をろ過するフィルター製品、患者さんを救う医療機器、防護性のあるアパレルなどです。

とはいえ、サステナビリティ課題を踏まえると、「生活を向上させる」とは価値ある製品を作るだけではなく、同時に製造が環境や社会に与えるインパクトを軽減することでもあります。環境への影響を軽減し、最終的にゴアとバリューチェーンパートナーが地球に負荷をかけすぎず事業を続けるために私たちが何をしなければならないかは、科学

が教えてくれます。

現在の優先事項は、地表の温度上昇をパリ協定の範囲内に抑えるため相応の貢献をし、環境負荷や化学物質の影響に加えて労働環境のリスクの軽減、ならびにバリューチェーンの人権侵害リスクの評価と軽減に役立つシステムをグローバルに実施することです。

Q: ゴアのサステナビリティの歩みを進めるための取り組みで、ファブリクス・ディビジョンはどのような役割を果たしていますか？

BK: ファブリクス・ディビジョンは長年、サステナビリティへの重要な活動の先頭に立ってきました。例えば、すべての製造工場に真っ先に環境マネジメントシステムを導入し、ライフサイクルアセスメント(LCA)に取り組みました。さらに、最初に「スコープ3」の排出量削減目標も設定しました。これはほんの一例です。

Q: エンタープライズの視点に立つと、ファブリクス・ディビジョンは、主にどんな分野で全体的なサステナビリティ目標に貢献していますか？

BK: 私たちは、実際にやりながら学ぶことが大切だと考えています。あるディビジョンがプログラムやアプローチを試験的に実施することで、他のディビジョンに道筋を示す貴重なインサイトが得られます。これにより、組織全体のパフォーマンスが向上します。炭素排出削減を例にとると、ファ

ブリクス・ディビジョンは、エンタープライズ全体の施設に関わる排出量削減目標に加えて、製造に関わる排出量削減目標(「スコープ3」)も設定しました。そして、カスタマーと新たな形で協働し、化石燃料の消費を減らすために、社内の各ディビジョンの共通の取引先であるサプライヤーに働きかけています。他のディビジョンでは、サプライチェーンの排出量がさほど大きな割合を占めていませんが、幅広いサプライチェーンでの産業連携モデルを開発することで、組織全体に価値を生みだしています。

もうひとつの例は、ePEなどの新たな補完的素材の開発です。新素材を検討したのはファブリクス・ディビジョンが初めてではありませんが、ePEベースのメンブレンを消費者市場に大規模に速やかに導入した技術力は、他のディビジョンから評価されるでしょう。

Q: ファブリクス・ディビジョンのサステナビリティ戦略を考える際、気にかけている領域はありますか？

BK: 意欲的な高い目標を定めたファブリクス・ディビジョンに拍手を送ります。こうした目標にはその性格上、不確実性がついて回ります。そのためファブリクス・ディビジョンは、炭素排出量、bluesign®認証、リサイクル素材、環境への影響に懸念のあるPFCに関する目標を達成するため、懸命に努力を続けなければなりません。

Q: 今後に向けて、ファブリクス・ディビジョンに直接的に影

響する、ゴア・エンタープライズ全体の来年の優先的な目標やプロジェクトはありますか？

BK: アメリカでは、社内の多様性・公平性・包摂性(DE&I)に向けた取り組みの延長として、サプライヤーダイバーシティプログラムを実施しています。このプログラムに基づき、アメリカ国内すべてのディビジョンで、マイノリティが経営するサプライヤーに対する支出額を測定し、その額を段階的に増やしています。

エンタープライズの炭素目標の達成には、協働も必要です。化石燃料をより効率的に使用し、化石燃料への依存を減らすために、私たちはディビジョンを越えてインフラを共有しているからです。

最後に私たちは、サステナビリティのパフォーマンスに関して、エンタープライズとしての透明性の向上に努めています。これもまた、成功させるには組織全体が力を合わせる必要がある取り組みです。

バーナード・キールは、経験豊富な化学・環境エンジニアです。1994年にゴアに入社する以前は、バイエルン州環境保護局に勤務していました。2009年から2019年までファブリクス・ディビジョンでサステナビリティリーダーを務めたのち、現在の職務に就きました。

“ 私にとって、ゴアのサステナビリティとは……”

……メモを全部
デジタルでとれる——
紙とペンはもういらない！
再利用できるウォーターボトル。

Todd Folmsbee
セールス(アメリカ)

……私たち独自のノウハウ、
経験、能力を活かして、
最高のパフォーマンスを
発揮しながらも長持ちし、
資源を節約でき、
人々が野外で体を守りながらも
楽しめる製品を作ること

Florian Stauder
セールス(ドイツ)

……いま現在の
メリットと未来における
成功。オプションではなく
必需品。

Sundy Tu
データマネジメントリーダー(中国)

……プロミスを守り、
子どもたちに
より良い世界を
残すこと。

Vera Loncar
セールス(イタリア)

……国際的な
エンタープライズで働き、
かつ正しい良心を
持つこと。

Nils Juhl
セールス(ドイツ)

……ビジネスを
継続する能力、
短期的のみならず
長期的な成功。

Renee Liang
研究開発(中国)

……社内外で協働して、
最高クラスの品質である
というだけでなく
地球にとってより良い製品を
提供すること。

Sarah Kingon-Rouse
プロジェクトマネジメント(スコットランド)

……カスタマーを守り
そのニーズに応える、
高機能で長持ちする先端素材の
開発を続けながら、
それに伴うインパクトの軽減に
着実に取り組むこと。

Brian J. McAdams
サイエンティスト(アメリカ)

……意識的な
イノベーションの
先駆者になること。

Valentina Savi
マーケティングコミュニケーション&PR(イタリア)

インタビュー

ロス・マクレーン

ゴア ファブリクス、
サステナビリティリーダー
(ドイツ)



Q: あなたから見て、ゴア ファブリクス・ディビジョンがサステナビリティの歩みに関して2021年に成し遂げた最も重要な成果は何ですか？

ロス・マクレーン(以下、RM): 一般消費者向けビジネスに、全く新たな補完的素材プラットフォームであるePEベースのラミネートを導入したことが、間違いなく最大の目玉であり多くのメリットが得られました。とはいえ、さらに広い視点に立つと、2021年はサステナビリティへの取り組みをビジネスの垣根を越えて統合し加速させた年でした。

サステナビリティフレームワークを展開した後、ディビジョン内のすべての領域について、目標と期待をさらに明確にしました。これによって多くのイニシアチブを、ゴアのビジネスプラクティスとして確立できました。たとえば上流サプライヤーに広く働きかけて、今では、サプライヤーの事業の環境面、社会面の負荷に対して明確な期待を設定しています。

GOORE-TEXプロフェッショナル向けビジネスでは初めて、

環境負荷が少ない原液着色のリサイクル生地導入し、負荷を軽減しつつ、耐久性と製品性能を確実に維持しました。

ePE素材に話を戻すと、この素材の導入はゴア全体、さらにおそらくは私たちがサービスを提供する業界にとって画期的な出来事です。おかげで、一般消費者向けビジネスでのPFC_{EC}の削減目標達成に向けて大きな一歩を踏み出すことができ、私たちは、今後何年も活用できるプラットフォームを手に入れました。

Q: 他に何か胸を張れる成果や、注目している成果はありますか？

RM: 炭素排出削減の歩みは順調に続き、ビジネスとオペレーション全体で多くの前向きな進展が見られるのを誇りに思います。とはいえ、特に「スコープ3」目標に関して、この課題の大きさが一層明らかになりつつあります。来年も着実に前進するためには、生地環境負荷を全体として減らせるよう業界全体の連携を加速することが欠かせません。

Q: ディビジョンとエンタープライズ両方のサステナビリティ戦略の実施に関して、ゴア・エンタープライズとどんな方法で協力しているか、簡単に教えていただけますか？どれくらい緊密に連携していますか？互いにどのような形でサポートできますか？

RM: エンタープライズという大きな組織で働くことで、他の人と協働し一緒に学ぶ多くの機会を得られます。私たちは、協働した方がいい領域と同様に、ひとつのディビジョン

が単独でどんどん推し進める必要がある領域も見つけようと積極的に取り組んでいます。

たとえば、すべての施設のカーボンフットプリントを軽減するには、共通する問題と一緒に取り組む必要があります。ですから、エンタープライズとして対応するのが理にかなっています。ファブリクス・ディビジョンは、テキスタイル分野独自の外部認証への取り組みなど多くの領域で一歩先を進んでいます。一方、ほかのディビジョンが先導している領域も存在します。たとえば別のディビジョンでは、ISO45001の実施が始まっていて、私たちは今後そうした取り組みから学ぶことになります。

サステナビリティに関連する共通のニーズについて、エンタープライズ全体の強力なサポートネットワークがある一方で、私たちのビジネスに必要なことを独自に行うこともできます。両者のバランスが上手く機能しているのです。

Q: 来年に向けて、最優先目標と最も重要なサステナビリティへの取り組みは何ですか？

RM: サステナビリティはチームスポーツであり、継続的な改善が求められます。ですから大切なのは、やると言ったことはやり続けることです。ePE素材プラットフォームを導入してその使用を拡大し、環境負荷が低い生地の使用量を増やします。

特にプロフェッショナル向けビジネスにおいて、bluesign®やOEKO-TEX®などの外部認証の活用を広げていきます。こ

れらと平行して、真摯な努力を続け、明確な計画を立てて炭素排出削減目標の実現に向けて確実に歩みます。

Q: 2022年以降、あなたとチームにとって最大の課題は何ですか？

RM: サステナビリティに対するアプローチの中心にあるのは、耐久性です。責任ある形で製造されている限り、最も長持ちする製品は最も持続可能性が高い。ほとんどの製品は、製造段階で最も大きな環境負荷が生じています。従って、この負荷を長い期間に分散させて、不具合を理由に製品を再製造する必要をなくするのは賢明なことです。たとえばリサイクルの可能性などに加えて、耐久性がもたらす真の価値とサステナビリティ上のメリットを、一般消費者をはじめとして世界全体に理解してもらうこと。それが、私たちが2022年に乗り出した重要な総合的課題です。

ロス・マクレーンは、ファブリクス・ディビジョンのサステナビリティチームを率いています。現在はドイツ在住ですが、2006年にリビングストン(スコットランド)のファブリクスエンジニアリングの一員としてゴアでのキャリアを歩み始めました。その後、新製品開発を経て、5年間アジアでアジア太平洋のテクニカルチームとビジネスを支援するなど、一般消費者向けガーメントビジネスの研究開発を指揮しました。

“ 私にとって、ゴアのサステナビリティとは……”



……再生素材、持続可能なデザイン、製造知識を活用して、独自の有意義で有益な製品を開発し製造すること。

Clemens Deilmann
エンジニア(ドイツ)



……驚くほど優秀な同僚から、確かな根拠に基づいた科学的アドバイスをもらうこと。

Marie Mawe
ステークホルダーエンゲージメント(スウェーデン)



……ビジネスの成長と、気候変動や化学物質の影響を切り離すために、全員で協力すること。

Murray Macadam
セールス(スコットランド)



……人と環境にさらに優しい製品の実現。

Rita Xiang
研究開発(中国)



……私の子どもたちは、近所の人に自慢しています。パパの会社は、きれいな地球を守るため頑張っているんだって。

David Oh
リテールマーケティング(韓国)



……私たちは大切な仕事をしていて、世界を変え人と地球により良い場所にするために貢献していると、信じています。

Luca Luvre
セールス(イタリア)



……昼休みはオフィスの電気を消す、食べられる以上の食品を買いこまない、サプライチェーン全体ではぎれを減らす。

Jacy Li
テクニカルリーダー(中国)



……ゴアの定評ある科学的アプローチを使って、パフォーマンスと環境負荷軽減の分野でリードする。

Mike Adams
ストラテジックマーケティング(アメリカ)



……未来に適合すること。

Anja Herberg
サステナビリティ(ドイツ)

最終的な目標は、人々が安全に帰宅できるようにすること

ゴア ファブリクス・ディビジョンは、2020年に策定したサステナビリティフレームワークを通じて、ビジネス間のサステナビリティ目標を一致させ、優先事項を定め、多様なイニシアチブを推進しています。次の対談では、GORE-TEXプロフェッショナル向けビジネスリーダーのデーブ・ウェルチが、ファブリクス・ディビジョンのサステナビリティリーダーであるロス・マクレーンと、プロフェッショナル向けビジネスがサステナビリティという考え方を取り入れる上でフレームワークがどう役立ったかや、2021年の進展などを説明しています。



ロス・マクレーン
ゴア ファブリクス、
サステナビリティリーダー
(ドイツ)



デーブ・ウェルチ
ゴア ファブリクス、
GORE-TEXプロフェッショナル
ビジネスリーダー (アメリカ)

ロス・マクレーン(以下、RM): サステナビリティは、テキスタイル業界で大流行している言葉です。デーブ、GORE-TEXプロフェッショナル向けビジネスにとってサステナビリティが何を意味するか、聞かせてください。特にプロフェッショナル向けビジネスは、さまざまなビジネスユニットを抱え、ワークウェアから、防護性が高く着る人の命を守る、軍事要員向けのアパレルまで、幅広いユーザーニーズに対応していますよね。

デーブ・ウェルチ(以下、DW): サステナビリティだけでなく、人々と地球を守ることを重視することが、プロフェッショナル向けビジネスでは疑いなく、ますます注目のトピックになっています。現在および今後の製品開発の取り組みを考える上でも、これが重要な要素になりつつあります。技術的な仕様と基準を満たして、エンドユーザーが求める防護性を提供することが、今も私たちのアプローチの柱ですが、製品の環境負荷を科学的に理解し、その軽減に努める必要があることもわかっています。つまり、私たちのビジネスでサステナビリティの重要性が高まっているのです。

RM: すべての分野でそうなのですか、それとも、特に現場

を支えるキーマンへの防護に注目すると、特定の分野では一層重要性が高いと考えますか？

DW: すべての分野でその兆しが見られます。私たちの課題のひとつは、製品技術に基づき人々を守りながらも製品を長持ちさせて地球を守ることと環境負荷の軽減を両立させることです。一部の分野では、よりスピーディに取り組むを進める必要があります。他の分野では、命を守る上で困難な技術的課題があるかもしれません。こうした分野ではスケジュールが長期化する可能性があるため、当然、他のビジネスとは違ったペースで進めることになります。

RM: サステナビリティの視点から2021年を振り返ると、プロフェッショナル向けビジネスの変化はどのように始まりましたか？

DW: 変化の出発点は、理解と明確な方向性です。私たちは、進歩に不可欠な要素として、すべてのビジネスにサステナビリティフレームワークを取り入れました。これによりアソシエートは、私たちが達成を目指す目標をはるかに明確に理解できました。サステナビリティに関するプログラムやプロジェクトを、より大きな文脈の中で総合的に捉えられる方法への理解が深まったのです。

「私たちは、進歩に不可欠な要素として、すべてのビジネスにサステナビリティフレームワークを取り入れました」
デーブ・ウェルチ

RM: アソシエートの話が出ましたが、彼らはサステナビリティの歩みにどのように関与していますか？ サステナビリティについて世界のアソシエートに話を聞くと、期待の声が

寄せられています。あなたもそう感じますか？

DW: もちろんです。人と地球を守るという考え方に、チームのアソシエートは強く共感していて、新たに加わった意欲的な目標も理解しています。科学を重視する企業として、これは一種のエンジニアリングの問題だとみなされています。つまり、どうすれば防護性と用途適合性を維持しつつ、同時に負荷も軽減できるかということです。こうした問題の定義が、チームに十分伝わっています。

「人と地球を守るという考え方に、チームのアソシエートは強く共感していて、新たに加わった意欲的な目標も理解しています」
デーブ・ウェルチ

RM: 命が脅かされる状況で使うために必要なパフォーマンスの提供に明確にフォーカスするのは、GORE-TEXプロフェッショナル向けビジネスの大きな理想です。当然、こうしたニーズのために、素材に関して、一般消費者向けビジネスとは異なる課題が生じることもあります。そう思いませんか？

DW: 確かにその通りです。私たちが提供する用途を見てください。多くは命に関わる状況なので、製品の防護性、耐久性、仕様・基準の遵守に関わる選択を行うためには、強い確信が必要になります。

どんな状況であっても、私たちは、現場で日々業務に取り組む方々を確実に守らねばなりません。私たちのチームはこれを、人々が安全に家に帰れるようにすることだと捉えています。それが目指す最終的な目標であり、この点では絶対に妥協したくありません。

RM: GORE-TEXプロフェッショナル向けビジネスには厳しい指針があり、満たすべきパフォーマンス仕様に基づき

ほとんどの決定が行われます。こうした仕様も、サステナビリティの要素を取り入れるため長期的に変わり始めていると思いますか？ サステナビリティの要素に基づき、競合他社に対する優位性を獲得できるチャンスはありますか？

DW: サステナビリティに関して、長期的に変化が起こるのは当然の結果だと思います。すでに色々な組織が、自社製品が生み出す様々な負荷を把握しようとしています。私たちはこの分野で、耐久性に優れた強力な製品を提供していますが、製品がもたらす価値を確実に認識してもらう必要があります。

製品が何年も長持ちすれば、環境負荷が軽減します。このことは、ライフサイクルアセスメントで証明されています。ただし、これはひとつの要素に過ぎません。製品の寿命を延ばすだけでなく、第三者機関による各種の認証制度の利用を通じてフットプリントを軽減する必要性も高まっています。これが、私たちがbluesign®やOEKO-TEX®などの制度の利用を拡大しているひとつの理由です。

「私たちはePEを、今あるePTFEプラットフォームと並んで、製品ラインナップを拡充するものと見ています」
デーブ・ウェルチ

RM: 一般消費者向けビジネスでは、2021年、ePEベースの素材を初めて導入するという重要な発表をしました。GORE-TEXプロフェッショナル向けビジネスとしては、この素材をどう見えていますか？

DW: ファブリクス・ディビジョン全体の視点に立つと、幅広い用途に活用できる新たな素材としてePEを大いに歓迎しています。私たちはePEを、今あるePTFEプラットフォームと並んで、製品ラインナップを拡充するものと見ています。

GORE-TEXプロフェッショナル向けビジネスでは、パフォーマンスの実現が何より重要であることを踏まえて、今もePTFEベースの製品にこだわっています。ePTFEは、防護性が欠かせない最も過酷な条件下でも活用できる独自の特徴を備えています。そのため、今後の製品ポートフォリオに多く取り入れられるでしょう。

とはいえ、新たなePEテクノロジーがどんな用途に適しているかという評価に積極的に取り組んでいます。また、私たちの市場の一部のニーズによって、ePE分野の進展に向けてさらに開発が加速するとも考えています。ですから私たちはこれを、ファブリクス・ディビジョンが新たな補完的素材群を開発するためのゴアの長期的なコミットメントとみなしています。

「製品の防護性、耐久性、仕様・基準の遵守に関わる選択を行うには、強い確信が必要になります」
デーブ・ウェルチ

RM: 研究開発チームと技術チームが、先ほど話題になった仕様にに基づきePE素材をいくつかの分野で採用できるのを楽しみにしています。とはいえ、2021年にはほかにも2つ刺激的な展開がありました。フットウェアへのEXTRAGUARDアッパーテクノロジーの導入と、リサイクル生地の使用の拡大です。この2つについて詳しく教えてください。GORE-TEXプロフェッショナル向けビジネスにおいて、これは何を意味するものですか？

DW: この2つは、カスタマーとエンドユーザーに価値を付加する持続可能なソリューションの推進に対する、私たちのコミットメントを示しています。特に新たなEXTRAGUARDアッパーは、パフォーマンスとサステナビリティ両方を高める素晴らしいものです。頑丈性と吸水性の低さという点で、他社の技術を上回るパフォーマンスを実現します。二酸化炭素排出量、ケミカルフットプリント、水消費量などの負荷も低く、エンドユーザーと環境どちらにとっても明らかにプラスになります。

リサイクルポリエステルと原液着色の生地のワークウェアビジネスへの初めての導入も忘れてはいけません。これは一般消費者向けビジネスにこれらの素材を導入した経験から学んだものです。一般消費者向けビジネスでは、こうした素材が、必要なパフォーマンスを実現すると同時に、資源消費、炭素負荷、水使用量も削減することが証明

されています。

リサイクル生地がこれから一層重要な役割を果たすことは、疑いありませんが、何にでも効く特效薬ではありません。非常に厳格な性能要件が求められる分野もあり、こうした分野では現時点で、リサイクル生地は、たとえば耐摩耗性やサプライチェーンの可用性などの要件に対応できません。ですから、一部の分野では導入にかなりの時間を要したり、導入自体が困難だったりするかもしれませんが、長期的には私たちのビジネスでも、リサイクル生地の使用が間違いなく増えるでしょう。

RM: 一般消費者向けビジネスは、環境への影響に懸念のあるPFCを製品ライフサイクルから排除するために、明確な目標を定めました。GORE-TEXプロフェッショナル向けビジネスは、ケミカルフットプリントの管理というトピックをどう見えていますか？

DW: ファブリクス・ディビジョンには、素材のケミカルフットプリントを減らすため変更を重ねた長い歴史があります。一例をあげると、2013年にはすでにファブリクス製品のライフサイクルからPFOAを完全に排除していました。取り組みの進行に合わせて、素材の選択や、必要な対応に徹底的に注力しており、今後も改善を続けます。必要なパフォーマンスの実現と、素材の環境負荷のバランスを見出す必要があるのです。

「新たなEXTRAGUARDアッパーは、パフォーマンスとサステナビリティ両方を高める素晴らしいものです」
デーブ・ウェルチ

私たちは、現在使っている素材を使い続けられるよう努力しています。けれど同様に、より環境負荷の少ない素材を使ってパフォーマンスと基準の要件を満たせる分野である生地、メンブレン、耐久撥水加工コーティングなどでは、用途適合性や私たち自身の目標だけでなく、市場のニーズや需要も踏まえて、極力速やかに変更を行っていきます。現在は、どれくらいスピーディに進められるか確認するため、評価を実施中です。今まさに進行中です。

RM: 先を見据えると、今後数年間にサステナビリティに関してGORE-TEXプロフェッショナル向けビジネスが実現する最も重要な変化は何ですか？

DW: 長期的には、エンドユーザーを守る必要性和環境負荷の両方に影響がある問題を解決するために、ゴアがさらに多様な素材とテクノロジーを導入するのを楽しみにしています。短期的には、いくつかの興味深い変化がまもなく明らかになるでしょう。

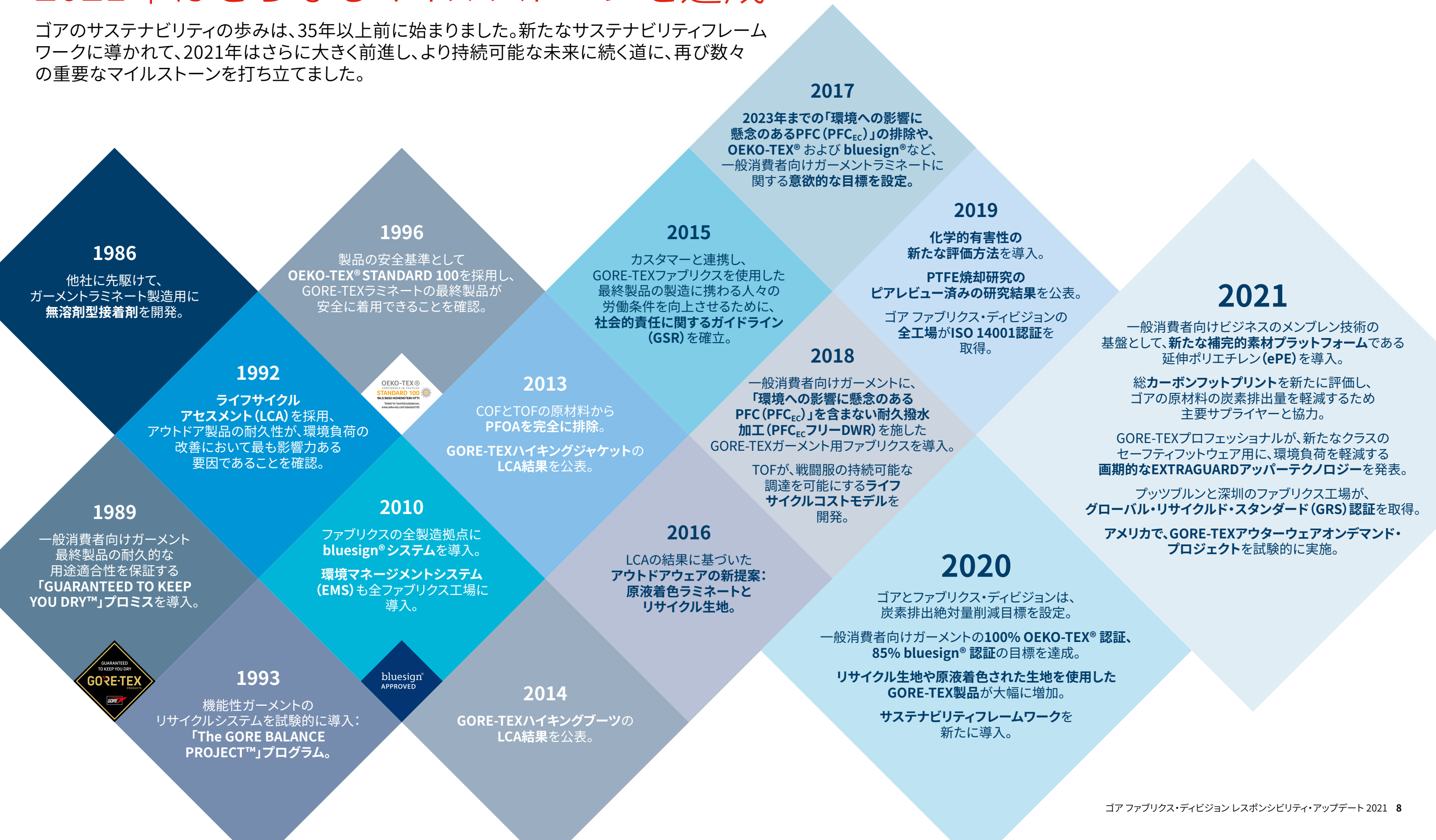
OEKO-TEX®やbluesign®の認証を取得した生地の増加は、ケミカルフットプリントを軽減する方法への理解を深めるための、私たちのコミットメントを示すものです。また、原材料の履歴追跡を可能にするグローバル・リサイクリング・スタンダードの実施に併せて、リサイクルポリエステル生地の使用も拡大しています。

RM: デーブ、ご意見を聞かせていただきありがとうございます。どうぞお元気で、2022年以降もあなたとビジネスの成功をお祈りします。



ゴア ファブリクス・ディビジョンはサステナビリティの歩を進め、 2021年はさらなるマイルストーンを達成

ゴアのサステナビリティの歩みは、35年以上前に始まりました。新たなサステナビリティフレームワークに導かれて、2021年はさらに大きく前進し、より持続可能な未来に続く道に、再び数々の重要なマイルストーンを打ち立てました。



素材の抜本的なイノベーションが、GORE-TEX一般消費者向け製品のサステナビリティを高める

2021年、ゴア ファブリクス・ディビジョンは一般消費者向けビジネスにおけるメンブレンテクノロジーの新たな補完的素材プラットフォームとして、延伸ポリエチレン (ePE) を導入することを発表し、イノベーションを起こす能力と画期的な知識を再び示しました。これにより、サステナビリティの歩みにおいて、またひとつ大きなマイルストーンを打ち立てました。

ゴアは今回、40年に及ぶマテリアルサイエンスとポリマーの専門知識とプロセス能力を駆使して、ポリエチレン (PE) を耐久性と防水性に優れた高性能アパレルに適した、多孔質で強度のあるポリマーの足場に作り上げました。こうして生まれた延伸ポリエチレン (ePE) は、軽量で薄いものの、強度が高い多孔性材料です。この延伸ポリエチレン材料を、ポリウレタン (PU) などの他のポリマーと組み合わせることで、その優れた特徴を引きだし、防水性、防風性、透湿性に優れた、環境負荷が従来より低いメンブレンが生まれます。

「サステナビリティは、私たちのビジネスとGORE-TEXブランドにとって最大の優先事項です。当社最新のイノベーションであるePEは、責任あるパフォーマンスの歩みの次なるマイルストーンであり、おそらく40年前のePTFEとGORE-TEXブランドの発表以来、最も重要な出来事となるものです。新素材ePEを使ったラミネートの導入も、最高のパフォーマンスを発揮する持続可能なGORE-TEX製品とソリューションで業界をリードするという、私たちの意欲を示すものです」

ノラ・ストウェル

ゴア ファブリクス、グローバルセールス&マーケティングリーダー (アメリカ)

ファブリクス・ディビジョンのサステナビリティフレームワークに沿って、私たちはGORE-TEX製品に新たな補完的素材プラットフォームとしてePEを導入しました。これは、ゴアの革新力と、35年以上前に始めたサステナビリティの歩みを改めて明確に示すものです。

ePEメンブレンの発表は、GORE-TEXブランドの責任あるパフォーマンスへの継続的なコミットメントを再確認するものです。ゴアにとっての責任あるパフォーマンスとは、ブランド独自の経験、科学、能力を適用し、パフォーマンスとサステナビリティの両面で新たなレベルへ挑戦し続けることと定義しています。



多様なサステナビリティ特性

ゴアのePEメンブレンは、幅広いサステナビリティ特性を備えています。耐久性のあるパフォーマンスで長い製品寿命を実現します。重量に対する強度が高く、機械的な堅牢性がありながら非常に軽量で薄いため、材料の使用量を減らすことで資源の効率性向上に貢献できます。

ゴアのePEメンブレンおよび耐久撥水 (DWR) 加工はPFCフリーです。従って、消費者向け製品のライフサイクルにおいて、環境への影響に懸念のあるPFC (PFC_{EC}) を使用しないという、ファブリクス・ディビジョンの目標を前進させます。ePEメンブレンを採用するGORE-TEX製品では、非フッ素系素材を使用することでこの目標を達成しています。

Higg Materials Sustainability Index (MSI)で測定されるように、ePEを材料に使用すると結果的にメンブレン量が

減るため、同等のePTFEメンブレンに比べてカーボンフットプリントが低減します。

ゴアのePEメンブレンは、OEKO-TEX® STANDARD 100の認証およびbluesign®の承認を取得する予定です。リサイクル生地や原液着色の生地を合わせたラミネートも用意されています。

これらの特性により、ePEメンブレンは、2020年に導入されたファブリクス・ディビジョンのサステナビリティフレームワークで述べられた目標達成に大きく貢献しています。このフレームワークは、ファブリクス・ディビジョンのサステナビリティへの意欲と、人と地球を守ることに貢献するという長期的かつ包括的なコミットメントを定義しています。

2022年秋冬シーズンに店頭販売開始

ゴアのePEメンブレンを採用した製品は、2022年秋冬シーズンから一般的なアウトドアおよびライフスタイル用ゲームント、ライフスタイル用フットウェア、スノースポーツ用グローブに使用される予定です。Adidas、Arc'teryx、Dakine、Patagonia、Reusch、Salomon、Ziener他、パートナーブランド各社からの発売が予定されています。

2022年秋冬に発売される、ePEメンブレンを採用したGORE-TEXブランドの消費者向け製品には、GORE-TEXブランドのGUARANTEED TO KEEP YOU DRY™のプロミスが付される予定です。それ以外にも、今後、さまざまな最終用途の消費者向け製品がパートナーブランド各社から発売される予定です。

「パートナーブランドに対する私たちのメッセージは明確です。ePEメンブレンを使用したGORE-TEX製品を通じて、私たちは製品として高いパフォーマンスと持続可能性を実現するための、ラミネートの選択肢を広げているのです。私たちは、パートナーブランドから喜びの声を聞き、採用の連絡をいただけることを願っています。エンドユーザーに対しては、最高クラスのパフォーマンスに加えて、重要なサステナビリティ特性の達成を保証する製品を継続的に提供すると自信をもって言えます」

ララ・ウイットマン

ゴア ファブリクス、一般消費者向けゲームント、グローバル戦略マーケティング (ドイツ)

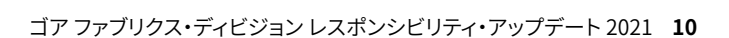
次のページには、ゴアの最新の抜本的な素材イノベーションへの市場の前向きな反応を示す例として、主なパートナーブランド数社のコメントを紹介しています。2021年9月末にアメリカとヨーロッパでオンライン開催された、双方向型メディアイベントの感想もいくつか掲載しています。このイベントは、アウトドアおよび関連業界の選ばれた国際的な報道関係者にePEを紹介するために開催されたもので、その結果としてゴアの主要市場で多くの好意的な報道がなされました。

ARC'TERYX

reusch®
LOVE YOUR SPORT



salomon



革新的なePEメンブレンを採用したGORE-TEX製品は、ボブ・ゴアの旅を引き継いでいます。

この物語はアウトドア業界では伝説となっています。1969年のある夜のことです。より安価な配管用テープを作るための長く困難な研究を終えたある日、ボブ・ゴアがいち立ちながらPTFE（ポリテトラフルオロエチレン）を勢いよく引っ張ったところ、それは驚くべき特性を持つ新たな延伸素材の発見となりました。この画期的な発見により、延伸ポリテトラフルオロエチレン（ePTFE）が誕生しました。



ボブ・ゴアはこの瞬間を発明ではなく、旅を続けるための「発見」と呼んでいました。彼は、この「発見の瞬間」の本当の楽しみや喜びは、その発見を応用することにあると考えていました。これがきっかけとなり、ゴアは多孔質材料の適切な用途を何年もかけて学び、理解し、カスタマーのニーズに合った製品を提供することを約束し、ボブ・ゴアが言うように「約束した性能をきちんと実現する」を果たしたのです。

この画期的な新素材の登場により、製品化やさらなるイノベーションの可能性が広がりました。この素材は、世界初の防水透湿性のアウターウェアであり、長年にわたりアウトドアの代名詞となっているGORE-TEXファブリクスをはじめとして、多くの新しい製品用途を見出しました。

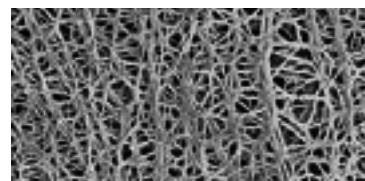
この旅の続きとして、ゴアのアソシエートは、ePTFEの経験、ポリマー加工や材料サイエンスの知識と洞察力を活かし、延伸ポリエチレン（ePE）をベースにした革新的なメンブレンを開発しました。40年以上にわたる経験と専門知識をこのポリマーに適用し、適切な条件で延伸させることで、多孔質構造の丈夫なePE素材の開発を実現したのです。

「マテリアルサイエンスの会社として、過去40年間に培ってきた知識の多くは、一つの素材に特化したものではありません」一般消費者向けファブリクス部門、グローバル・テクニカル&イノベーションのリーダーであるマット・デッカーはこう説明しています。「この専門知識と用途への深い理解があるからこそ、GORE-TEXブランドの消費者向け製品に使用する、補完的で耐久性のあるePE製品を生み出すことができるのです」

素材の開発は、統合され、高度に機能するシステムを構築するための出発点です。ePEとポリウレタン（PU）を組み合わせることで、軽く、薄く、そして丈夫であるというePEの特性を生かし、耐久防水性、防風性、透湿性のあるメンブレンを作ることができます。このメンブレンは、裏生地や表生地などのテキスタイルと接着してGORE-TEXラミネートを形成します。GORE-TEXラミネートは、フットウェア、グローブ、ウェアなどの最終製品に使用され、GORE-TEXブランドのGUARANTEED TO KEEP YOU DRY™プロミスによって保証されます。

デッカーはこう述べています。「このメンブレン素材は、より広範囲なシステムのための機能的な土台です。防水性と透湿性のあるファブリクスのベースとして、素晴らしい足場となる多孔質素材です」

デッカーは、残念ながら2020年9月に他界したボブ・ゴアも、この可能性の発見をととても喜んでいと振り返ります。「ボブは、ePEを使用したジャケットの試作品を持っていました。彼ならば『新しい素材のプラットフォームは必要ない』というのは簡単なことだったでしょう。しかし、ボブの意見はその逆でした。彼は技術が時間とともに進化することを理解していたのです」



メンブレン



表生地

3つの質問

マット・デッカー
ゴア ファブリクス、
一般消費者向けファブリクス
(COF)、グローバル テクニカル &
イノベーションリーダー（アメリカ）



Q: マット、なぜePEなのですか？

マット・デッカー（以下、MD）: 多孔質ポリエチレン（PE）は、長年にわたり、さまざまな市場で活用されてきました。しかし、アパレル以外の用途に適するPEベースのメンブレンは、防水性、防風性、透湿性のあるアパレルにとって必要な耐久性に欠けていました。課題は、PEをどのように延伸し、耐久性を持たせるかということでした。

ePEを操作して丈夫な多孔質素材を実現する上で適切な素材とプロセスを発見するために、私たちは数十年にわたる科学的知識とポリマーの専門知識を駆使しました。

現在、私たちはその成果を非常に誇らしく思っています。すなわち、軽くて薄く、丈夫な新しい素材を使って、防水性、防風性、透湿性のあるメンブレンを実現したのです。このメンブレンは環境負荷が小さく、消費者向けアパレルの幅広い用途に適応可能です。

Q: 具体的にどのような点から、ePEは有望だと考えたのですか？



耐久撥水（DWR）



最終製品

MD: さまざまな素材を評価したなかで、PEは最も大きな可能性を秘め、抜きんでいました。PEを適切な条件で延伸するとePEを作り出せます。水蒸気を通す数十億個の小さな孔を持つこの多孔質ポリマーは、重量比強度をこれまで以上に高めます。ゴア独自のePEメンブレンは、機械的な堅牢性がありながら非常に軽量で薄く、GORE-TEXブランドの消費者向け製品に使用されている従来のメンブレンと比較して、その厚みは半分ほどです。

このePEメンブレンを表生地や裏地などと接着すると、最終用途に応じたGORE-TEXラミネートが形成されます。テキスタイルを選択できるため、環境負荷の低いテキスタイルを使用することで、最終製品のカーボンフットプリントを大幅に削減できます。

Q: ゴアは厳格なテストを行うことで知られています。ePEメンブレンを使用した製品のパフォーマンスは、どのようなものでしたか？

MD: ePEメンブレンを使用している製品は、すべてのGORE-TEX製品と同じ幅広いラボ試験とフィールド試験を実施しています。心配無用です。フィールド試験により、一般的なアウトドアやライフスタイルでの使用において、ePEラミネートは、ePTFEラミネートと同等の耐久防水性を持ち、最終用途においてアウターウェア、フットウェア、グローブなどのGORE-TEX製品の快適性と防護性に関する厳しい基準を満たしていることが確認されました。

マット・デッカーは、一般消費者向けファブリクス部門のグローバル・テクニカル・リーダーです。エンジニア、研究者、テクニカルリーダーとして15年間ゴアのために働いてきました。現職以前は、フットウェア・グローブ・アクセサリ・ビジネスと快適性の研究グループでテクニカルリーダーを務めました。防火服、一般消費者用・軍用防護衣、建築用ファブリクスをはじめ、幅広い市場と用途において技術開発と製品開発を指揮してきました。

「約束は必ず実行する！」

ゴア ファブリクス・ディビジョンにとって、サステナビリティは明らかな優先事項であり、ビジネス戦略の重要な柱です。次の対談で、一般消費者向けファブリクスビジネスのリーダーであるアヒム・ルフラーは、ファブリクス・ディビジョンのサステナビリティリーダーであるロス・マクレーンと2021年を振り返り、昨年の教訓から得た洞察を明らかにし、ファブリクスビジネスの主な課題と、より持続可能なテキスタイル産業の未来に関する今の見解を語っています。



ロス・マクレーン
ゴア ファブリクス、
サステナビリティリーダー
(ドイツ)



アヒム・ルフラー
ゴア ファブリクス、一般消費者
向けファブリクス (COF)
ビジネスリーダー (ドイツ)

ロス・マクレーン (以下、RM): アヒム、昨年も忙しい一年でした。私たちはまだパンデミックの渦中にあり、世界中で多くの変化を目にしました。2021年をどう見ていますか？

アヒム・ルフラー (以下、AL): まさにその通りです。2021年も、私たちにとって非常に興味深く、当然ながら困難な年でした。2020年にはパンデミックがビジネスに深刻な影響を与え、需要が大幅に減少しました。2021年は、屋外の活動に参加する消費者が増えたため需要が急激に回復しました。

それが原因でサプライチェーンに生じた課題に対応しつつ、大幅な方向転換を通じて新たな働き方に適応する必要がありました。対面で打ち合わせを行うため世界を飛び回っていたのが、現在はほぼ100%バーチャルになっています。

RM: ビジネスの視点に立つと、需要が増えるのはもちろん良いことです。けれど現代は、製品の量とカーボンフットプリントの相関性が明らかに強まっているため、ビジネスの成長がカーボンフットプリントの増大を促す可能性が高いのです。将来的に、一般消費者向けビジネスが達成を約束している炭素排出削減目標に目を向けると、このことは何を意味するのでしょうか？

AL: 正直なところ、今は複雑な思いです。需要と収益が数値として増えるのはうれしいことですが、ビジネスの成長は環境負荷の増大に直結するため、ジレンマが生まれます。私たちだけでなく、社会全体にとってもです。

認めるしかありませんね。消費量が増えるほど、カーボンフットプリントも増えるのです。この問題を踏まえると、私たちはまず、生産単位当たりの環境負荷を減らすソリューションを見つけねばなりません。これが、私たちのサステナビリティの歩みの最大の目標です。すでに一定のソリューションは見つけましたが、さらに強化し続ける必要があります。私たちは、製品に使用するリサイクル材料の量を増やし、必要な素材の量の減少につながるさらなるイノベーションを探し続けています。確実に進展も見られます。

「ファブリクス・ディビジョンは、大きなイノベーション課題に見事に挑戦し、業界の進歩の先頭に立ってきた歴史があります」
アヒム・ルフラー

他方で、一般消費者向けビジネスとして現在の、そして未来の課題に対処するため新たな方法を見つける必要があるとも認識しています。成長を達成するためにより多くの製品を売るだけでは、未来を確実に守れません。私は各チームに対し、今から5年後や10年後にどんな形でビジネスを運営する必要があるか、考えるよう促しています。

肝心なのは、どうすれば環境負荷を増やさず、同時にビジネスの成長を実現できるかです。たとえば新たなサービスを通じて価値を創出する方法を考える際、十分に大胆な発想をしているのでしょうか？ 私たちは今、アメリカでスキーウェアのレンタル事業を試験実施しています。必ずしも販売する製品量の増加にはつながらない、新たなビジネスモデルを他にも作り出せないのでしょうか？

RM: GORE-TEXアウターウェア・オンデマンド・レンタルプロジェクトのことですね。このプロジェクトは、未来のビジネスの鍵になるでしょうか？ それとも、世界の方向性とその中でのゴアの役割を理解するための取り組みの、一例なのでしょうか？ つまり、これは実験ですか、それとも私たちのビジネスの鍵になりますか？

AL: このプロジェクトはまだ探求段階ですが、明らかに単なる実験以上のものです。「所有 (オーナーシップ)」から「利用 (ユーザーシップ)」への消費者動向の変化は、私にとって非常に興味深いものであり、さらに深く学ぶ必要があります。

現在は、初期的な市場試験の結果に基づき、規模を拡大することを検討しています。私たちだけでなく、パートナー各社にとっても価値を付加する形でこのプロジェクトを進める方法を、探りたいと考えています。

RM: アヒム、あなたはここ最近エジンバラで世界の向かう先を知るための会議に参加されたとうかがいました。このイベントで、一般消費者向けビジネスに関係ある話題は何か出ましたか？

AL: ええ、実はグラスゴウのCOP26 (国連気候変動枠組み条約第26回締約国会議) の直前に開催された、カウントダウンサミットに招待されたのです。

「行く手には多くの課題があり、今からでも遅くはありません。今すぐ急いで行動を起こし、協力しなければなりません」

アヒム・ルフラー

先日のCOPの成果を評価するのは時期尚早かもしれませんが、私はエジンバラで開かれたカウントダウンサミットに大いに触発され、幅広いサステナビリティ課題に関する多くの知識を身につけることができました。

この4日間で明らかに知識が深まり、世界を脱炭素化するための課題を一層理解できるようになりました。



たくさんの刺激を得られましたが、つまるところ、私たちの行く手には多くの課題があり、今からでも遅くはないと学びました。これが、私が得た重要な結論でした。今すぐ急いで行動を起こし、政治家、政府、企業、個人が協力しなければなりません。ここでは誰もが一定の役割を果たし、私たち皆が、グローバルな目標に貢献するために行動を求められています。

RM: イベントが非常に刺激的だったと聞いて、うれしく思います。そこで得たヒントをどうやって実現し、消費者向けファブリクスビジネスとして実践していきますか？

AL: 課題は、短期的な目標と長期的な目標のバランスをとることです。一例として炭素排出削減目標への取り組みをあげると、短期的には、すべてのアソシエートを含む組織全体が、その目標達成にどんな形で貢献できるか確実に理解しなければなりません。けれど、どうすればさらに大きな規模で変化を受け入れられるでしょう？ 私たちは今、そうした文脈からファブリクス・ディビジョンのより長期的な戦略の選択を検討しています。

ちなみに、会議から私が得たもうひとつの成果は、巨大グローバル企業の例に触れたことです。大企業が適切な目標を進んで設定し、組織の力を結集して実現方法を見つけられると信じている姿勢に感銘を受けました。ファブリクス・ディビジョンは、大きなイノベーション課題に見事に挑戦し、業界の進歩の先頭に立ってきた歴史があります。けれど、私たちは今よりもっと大胆になるべきだと、私自身は考えています。

RM: 大胆になると言えば、私たちは昨年、一般消費者向けビジネスにサステナビリティフレームワークを導入しました。このフレームワークには、環境への影響に懸念のあるPFCを消費者向け製品のライフサイクルから排除する

ための目標をはじめ、幅広いサステナビリティ目標が含まれています。

重大な発表もなされたばかりです。パフォーマンスとサステナビリティの向上を目指した結果、ePE製品を導入することになりました。私が思うに、これは一般消費者向けビジネスにとって今年一番のニュースです。ePEの導入とそれが持つ意味について、少し教えてもらえますか？

「これは一般消費者向けビジネスと業界にとって重大な瞬間であり、全く新たな素材でイノベーションを起こすチャンスが生まれていると信じています」
アヒム・ルフラー

AL: 1年あまり前、私たちは、消費者向け製品にePEをベースにした新たな補完的素材プラットフォームを長期的に使用することを決めました。これは大胆な一歩であり、チームに大きなフォーカスを生みだしました。2022年秋冬シーズンには、アウターウェア、グローブ、フットウェアなどすべてのジャンルに用途適合性のある製品を初めて導入します。これは、水面下での長年の懸命な努力を証明するものです。

これは一般消費者向けビジネスと業界にとって重大な瞬間であり、全く新たな素材でイノベーションを起こすチャンスが生まれていると信じています。

RM: 同感です。私たちのビジネスにとって、期待が持てる時期ですね。私は幸運にも、この新素材のパートナーブランドへの導入とメディア発表に参加することができました。パートナーブランド各社は、新素材をどう受け止めていますか？

AL: 生産の都合上、最初是一部のパートナーブランドにしか導入できませんが、どの会社も、新素材と、この素材のポートフォリオへの取り入れ方を大いに歓迎していました。パートナーブランドから見た重要なポイントは、ePEメンバーは非フッ素系素材でPFCフリーのためケミカルプットプリントが小さいことです。また各社は、この画期的な素材を私たちと一緒に広め、自社ポートフォリオの中で多様な用途に展開できる点にも期待しています。

RM: 市場がePEに反応しはじめているのは、楽しみです。ゴア内部でも変化をはっきり感じます。テクノロジーやエンジニアリングのアソシエート、製造チーム、マーケティング、セールスなど社内全体が、私たちの成し遂げた成果に誇りを感じています。

あなたは、サステナビリティが、一般消費者向けビジネスや今後の方向性の鍵を握ると仰いました。ここまでは、大きな話題になった2021年の主なトピックを取り上げてきました。けれどサステナビリティは当然、特定の新素材や新製品にとどまらない、はるかに大きな問題です。他に強

調したいことはありますか？ サステナビリティという視点で、一般消費者向けビジネス全体で現在または近い将来に、私たちを次のステップに導く取り組みが何か行われていますか？

AL: 第一に、サステナビリティは明らかに、少なくともファブリクス・ディビジョンの私たちにとっては、1年間の短期的な話題ではありません。私たちには、製品でリーダーシップを発揮する企業というDNAがあります。私たちは、責任あるパフォーマンスに向けてブランドのパーパスを明確化するなかで、サステナビリティへの全体的なアプローチを取り入れています。

「耐久性だけでは不十分です。他の方法でも、製品の環境負荷を減らす必要があるのです」
アヒム・ルフラー

責任あるパフォーマンスとは、サステナビリティへのコミットメントを、パフォーマンスへのコミットメントと同じレベルにまで高めることを指します。これは、人と地球を守るサステナビリティとエンドユーザーにとってのパフォーマンスの両立を目指す、私たちが乗り出した歩みです。

RM: 「循環性」は、今後10年間のテキスタイル産業とその周辺を規定する考え方です。当然ながら、この考え方に関わる要素は数多く存在します。私たちの仕事の重要な土台となる長い製品寿命、環境負荷のより低い素材の使用、使



用済み製品の管理などです。レンタルプログラムの評価は、この分野における新たな取り組みの一例であり、これまでも製品を長持ちさせるため「ケア&リペア(手入れと修理)」を中心に多くの取り組みを行っています。「循環性」は、あなたにとって何を意味しますか？ 今後、循環性によってゴア社内で何が促されるでしょう？

AL: 確かに循環性はひとつではなく、単純なものでもありません。循環型経済で私たちが果たせる役割を理解するために努力しています。私たちが大きく貢献できる分野があると信じています。

「責任あるパフォーマンスとは、サステナビリティへのコミットメントを、パフォーマンスへのコミットメントと同じレベルにまで高めることを指します」
アヒム・ルフラー

私たちは製品をライフサイクルの視点で捉え、全体的な環境負荷を抑える選択をしたいと考えています。あまりに短絡的なアプローチや、誤解を招く流行語とするのは避けたいのです。一見良さそうに思えても、データを深掘りすると、実際は特定の環境負荷が増大するおそれがある場合もあります。

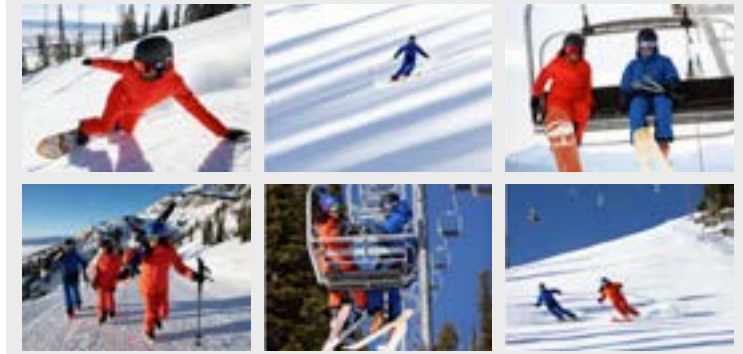
耐久性、すなわち長持ちする製品を提供することが、今後とも戦略の中心になります。短期間で傷んでしまう製品を再製造する必要性を減らすことが、循環型経済の鍵です。しかし、私たちは、耐久性だけでは不十分なことも知っています。他の方法で、たとえばリサイクル生地を使うなどして製品の環境負荷を減らす必要があるのです。この分野では、今後さらに多くの取り組みを紹介できる予定です。

RM: 一般消費者向けビジネスのサステナビリティについて、今後3〜4年間の見通しはどうか？

AL: 基本的に、非常に前向きな見通しを持っています。私たちは引き続き組織を活性化し、組織全体でサステナビリティのアプローチを推進し、サステナビリティに取り組むのは専門家チームだけではないことを明確にしています。私たちに、個人としても集団としても、この歩みを進めるため大胆に行動する責任があります。長持ちする製品は私たちのアプローチの土台であり、消費者もそれがサステナビリティにとって持つ価値であることを理解し始めていると確信しています。私たち全員が消費を減らし、より賢く消費することが大切です。

アヒム・ルフラーは、2019年7月からゴアで一般消費者向けファブリス(COF)ビジネスユニットグループを率いています。このグループには、COFガーメント、COFフットウェア・グローブ&アクセサリなどのビジネスユニットが含まれます。アヒムは、ゴア ファブリス・ディビジョン・リーダーシップチームのイノベーション・カウンシル、およびブランド・ステアリング・コミッティのメンバーです。現職以前は、COFフットウェア・グローブ&アクセサリビジネスを5年間指揮しました。それ以前は、イノベーション、製品開発、セールス・マーケティング分野でリージョナル、グローバルなポジションを歴任しました。

機会を探る



アメリカでGORE-TEXアウターウェア・オンデマンド・プロジェクトを試験実施

科学的なライフサイクルアセスメントにより、製品寿命の延長は、環境負荷を軽減する最も重要な手段であることが証明されています。GORE-TEXガーメントの耐久性と長い製品寿命をより効果的に活用する機会を探るため、ゴア ファブリス・ディビジョンは2020年12月、新たな分野に足を踏み出し、GORE-TEXアウターウェア・オンデマンド・プログラムを試験的に立ち上げました。

このプログラムは2020/21年のスキーシーズンに、ユタ州アルタとワイオミング州ジャクソンホールのいくつかのリゾート店舗で、アメリカのスノースポーツ愛好家にGORE-TEXガーメントのレンタルサービスを提供しました。その結果、より多くの消費者がスノースポーツ用の高機能ガーメントを手軽に利用し、山を一層楽しみました。

GORE-TEXアウターウェア・オンデマンドは、GORE-TEXガーメントの快適性と防護性は気に入っているが、必要な時に手軽にレンタルする方がいいという、近年増えつつある環境意識の高い消費者のために考案されたプログラムです。こうした消費者は、自分が持つモノを減らすことを好み、「所有」せずとも「利用」したいと考える傾向があります。

プログラムで使用するGORE-TEXジャケットとパンツは、レンタル専用デザインされたもので、スノースポーツに特化した数々の優れた特長を備えています。この独自の高機能アウターウェアコレクションには、市販品にはないGORE-TEXブランドの巧みなデザインと先端技術がつめこまれています。

詳しくはこちらをご覧ください。
<https://www.gore-tex.com/experience/rentals>

サプライチェーン・パートナーと力を合わせて、炭素排出量の削減に取り組む

炭素排出量の削減は、W. L. Gore & Associates (以下、ゴア) とファブリクス・ディビジョンのサステナビリティ戦略における重要な取り組みのひとつです。2020年には科学的根拠に基づき、2030年までに排出量を大幅に削減し、2050年までにカーボンニュートラルの達成を目指すという意欲的な目標が設定され、気候危機への対応を支援するゴアの強い意志を反映しています。

気候変動とそれに伴う広範な影響は、地球上のすべての生き物にとって最も差し迫った問題のひとつです。政府、学界、市民社会、産業界は、気候変動に関して法的拘束力を持つ国際的な条約であるパリ協定（2015年）で定められた、地球温暖化による気温上昇を摂氏1.5度未満に抑えるという目標に向けて、懸命な努力を続けています。

善良な企業市民として、ゴアは気候変動の緩和に目に見えるしかるべき貢献を果たすことで、この大きな問題に対処する世界的な動きに参加することを約束しています。これを踏まえて2020年、ゴアは2016年をベースラインとする炭素排出削減目標を、サステナビリティ戦略の重要要素にしました。

ゴアの炭素排出削減目標についての詳細は、GORE-TEX ウェブサイトと紹介動画

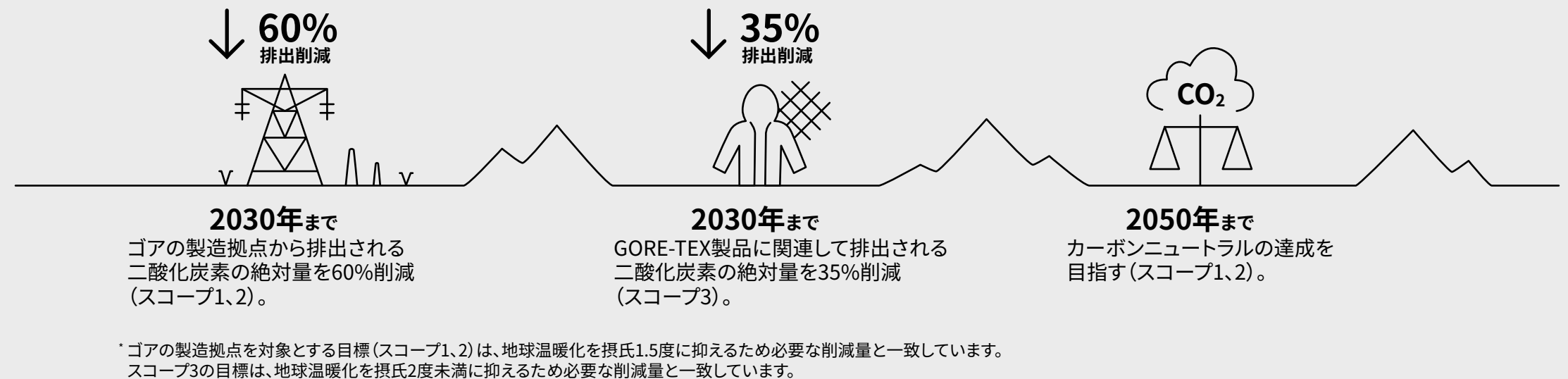
<https://www.gore-tex.com/sustainability/protect-the-planet/reduce-climate-change> (英語) をご覧ください。

ゴアのカーボンフットプリント評価

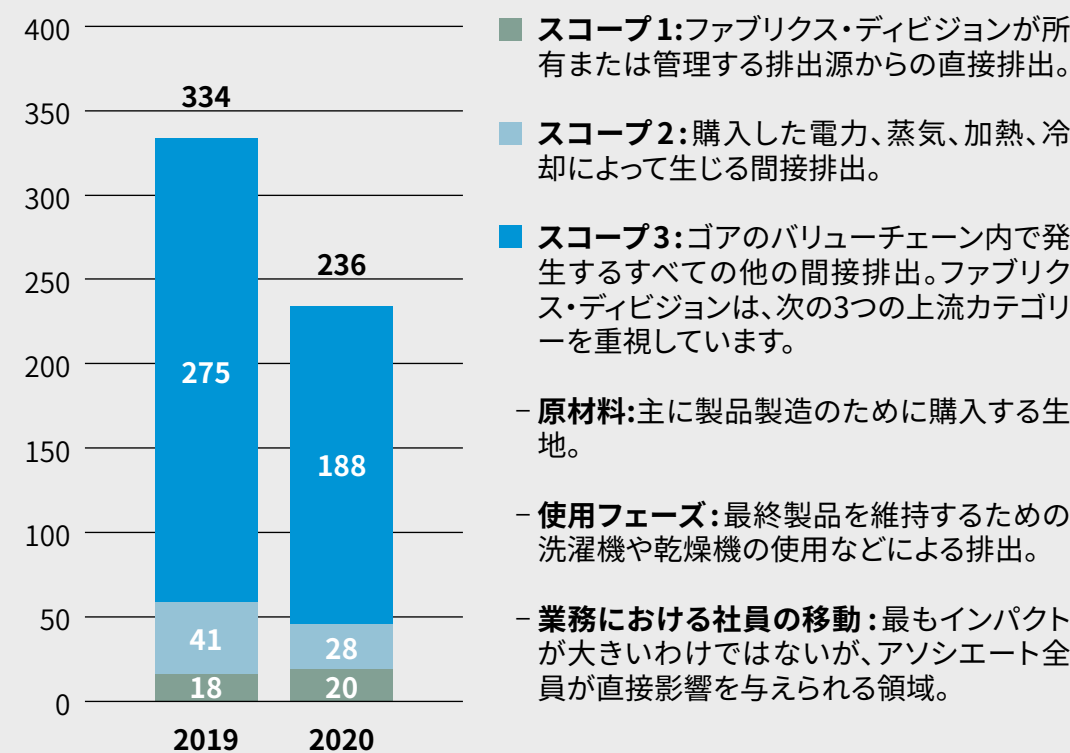
ゴア ファブリクス・ディビジョンは、これまでにベースラインである2016年と2019年について、スコープ1、2、3すべてを含むカーボンフットプリントを報告してきました。最新の評価によると、2020年のファブリクス・ディビジョンの総排出絶対量は二酸化炭素換算 (CO₂e) 236キロトン (kt) でした。

2019年と比較して、2020年の総排出量は約30%の減少となりました。新型コロナウイルスの感染拡大による生産量の減少が、その主な理由です。テレワークの増加や業務における社員の移動の減少といった働き方の変化も、二酸化炭素換算で100キロトン (kt) 近く、2020年の排出量削減に寄与しました (右のグラフ参照)。

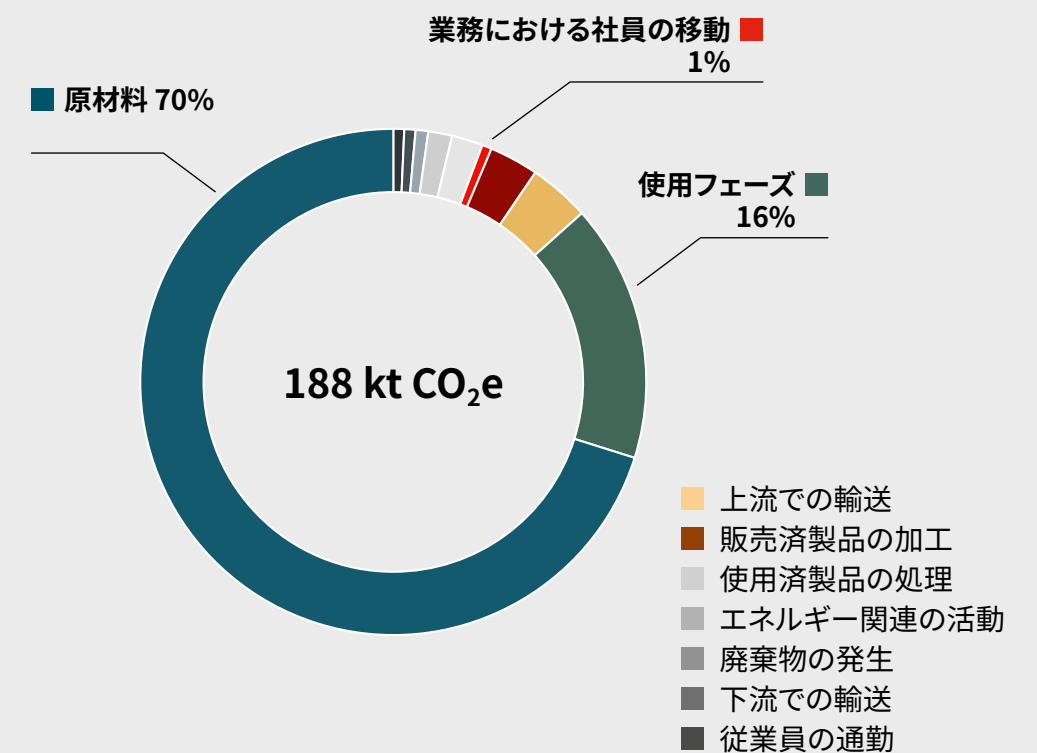
ゴアとファブリクス・ディビジョンの炭素排出削減目標



ゴア ファブリクス・ディビジョンの総カーボンフットプリント (kt CO₂e)



2020年のスコープ3の内訳



ゴアの気候戦略は、次の3つの分野に重点を置いています。

- 

ゴアの製造拠点のエネルギー消費量を削減し、
できる限り速やかに100%再生可能エネルギー電力に切替える。
- 

サプライチェーン・パートナーと協力してエネルギー消費を減らし、
石炭を中心とする化石燃料の敷地内発電への使用を段階的に削減し、
再生可能エネルギー電力に切替える手段を開発する。
- 

環境負荷が低く持続力のあるパフォーマンスを発揮する素材を活用して、
GORE-TEX 製品の最適な設計を行う。

2021年にファブリクス・ディビジョンは、2020年の目標と併せて定め発表された上記3つの重要アクション分野において、さまざまな取り組みを始めました。

ゴアの製造拠点における
エネルギー消費量の削減

ゴアは2021年、エネルギー効率性プロジェクトを充実させるため、エルクミルズ（アメリカ）と深圳（中国）のファブリクス工場についてエネルギー監査を社外に委託しました。2020年の評価で得られた提言に基づき、ブッツブルン工場（ドイツ）のチームは既に幅広い削減プロジェクトを立ち上げています。

深圳のチームは、アジア太平洋地域のテキスタイル業界のサプライチェーンに関し深い知識を持つエネルギー効率のスペシャリスト、RESET Carbonの支援を受けました。RESET Carbonは、アジア太平洋のサプライチェーンで排出量削減プログラムを大規模に進めるため、Apparel Impact Institute (Aii)とも提携しています。さらなる消費量削減に向けた明確な計画に基づき、ゴアは、2030年までの「スコープ1」の目標達成は実現可能だと信じています。

ゴアの再生可能エネルギー戦略

ゴアは、製造拠点とオフィスの再生可能エネルギー電力への速やかな切替えを非常に重視しています。2022年以降、ドイツのブッツブルンのファブリクス工場をはじめとするヨーロッパのすべての拠点で、100%再生可能エネルギー電力に移行する予定です。

深圳地域を中心に日々進化する中国のエネルギー市場で、ゴアは、再生可能エネルギーの利用拡大を目指し進み続けています。

2022年には、深圳の製造拠点の総電力消費量の約85%が再生可能エネルギーになります。2016年のベースラインと比較して、約30%の削減となる見込みです。

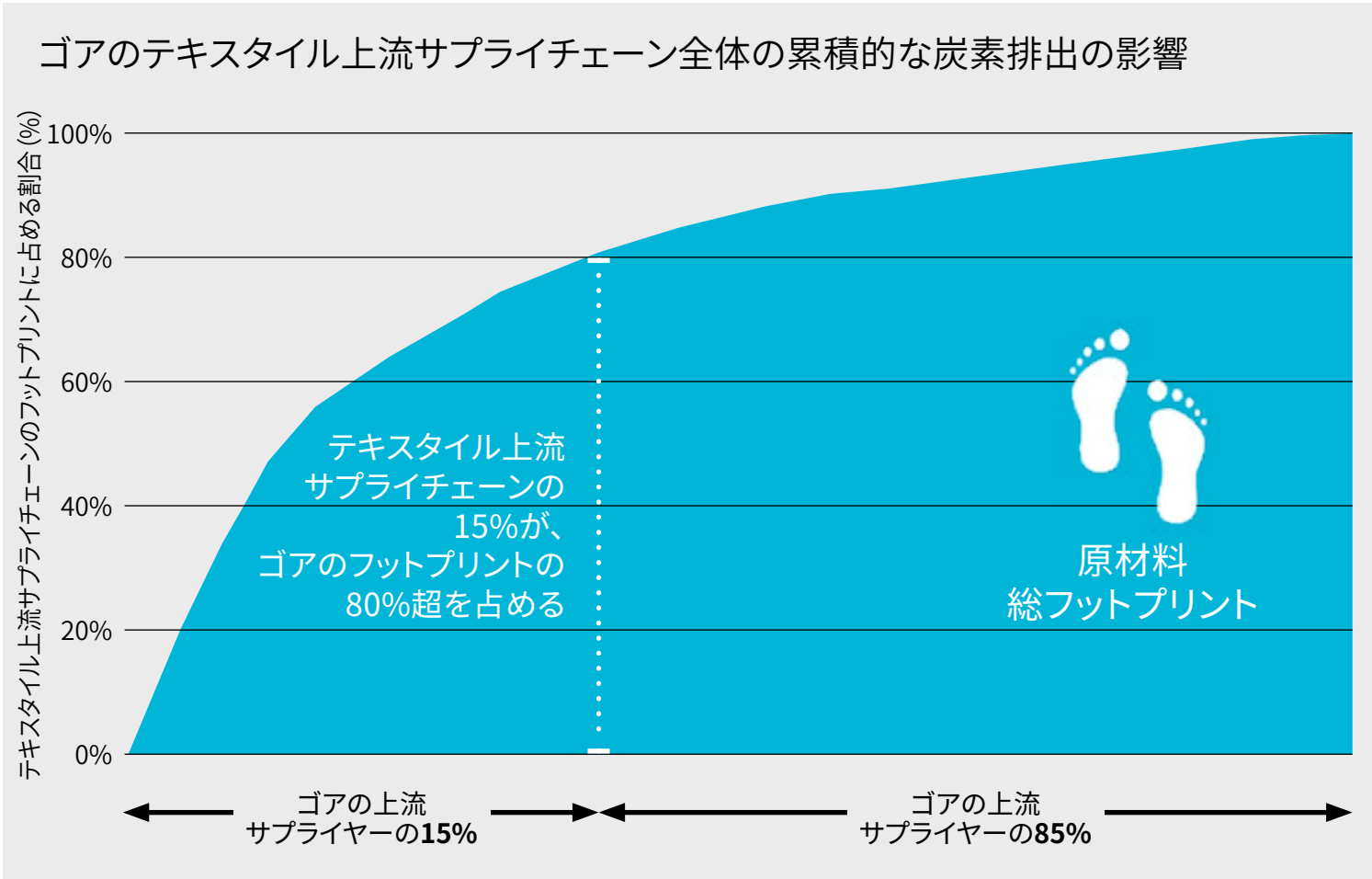
また、ゴアは、市場開拓と厳しい交渉に2年近く費やした末、ついに2022年1月にケンタッキー州グローバークリークに55メガワットの太陽光発電所を開発する電力購買契約（PPA）を締結しました。これにより、2024年にはアメリカ東海岸にあるゴアの工場のエネルギー消費の100%をカバーできることになります。発電所の面積はアメリカンフットボール競技場約240面分、またはサッカー競技場約180面分に相当するものです。

サプライヤーとの連携

協働する力に対するゴアの信念を受け、ファブリクス・ディビジョンは、上流サプライチェーンの炭素排出量削減に共同で取り組むために産業連携の取り組みを開始しました。2021年を通じた分析作業とプログラム設計作業に基づき、ファブリクス・ディビジョンは2022年初めに、試験的に参加するサプライヤーを対象に業界全体の炭素排出削減プログラムの研修を開始します。

テキスタイルの上流サプライチェーンネットワークを徹底的に分析した結果、ゴアのサプライヤーとその上流サプライチェーンの15%から調達した原材料が、ファブリクス・ディビジョンの原材料によるフットプリント（「スコープ3」）の約80%を占めていることがわかりました。右のグラフは、これを図で示したものです。

さらに地域別の内訳を見ると、アメリカ、ヨーロッパ、アジア太平洋地域のフットプリントが明らかになり、アジア太平洋が大半を占めていました。特に、極めて高い製品品質とイノベーションで知られる地域である台湾は、この分析において、カーボンフットプリントの最大の排出源として際立



っていました。

ファブリクス・ディビジョンは、2021年の進展に基づき契約条件の改訂を開始し、直接取引先が以下を保証することを求めます。

a) 2022年末までに、科学的根拠に基づく目標イニシアチブ (SBTi) の手法に沿った「スコープ1、2」の温室効果ガス (GHG) の絶対的な排出目標を定める。

b) 2023年末までの実施計画の策定を含め、2030年までに火力発電用の石炭の使用を段階的に廃止する。

c) 2024年までに、テキスタイルの準備、形成、着色、ラミネート、仕上げ処理に関わるすべてのサプライヤーに関して、Higg Facility Environmental Module (FEM)を用いた報告を約束する。

ゴアのカーボンフットプリントの
推移に関する見通し

サプライヤーから調達した原材料のフットプリントの削減を測定するのは、今でも特に困難であり、ゴア ファブリクス・ディビジョンのカーボンフットプリントは今もまだ生産量と強い相関性があります。2021年を通して生産量が急激に回復したため、これに対応して2021年のフットプリントも増加すると考えられます。

基礎となるデータとその力学に対する理解の深まりに加えて、カーボンフットプリント削減に向けた組織全体の多くのプロジェクトに基づき、2021年のフットプリントは増加が見込まれるものの、ゴアは2030年の炭素排出削減目標をまだ十分達成できる位置にあるという確信を抱き続けています。業界の推進役としての自らの役割を信じ、テキスタイルサプライチェーンネットワーク全体の炭素排出削減に寄与する業界共同でのさらなる取り組みを先導するため尽力しています。

業界のサプライチェーン脱炭素化プロジェクト (SCDP) に参加

アウトドア産業協会 (OIA) の長年の会員であるファブリクス・ディビジョンは、2020年、誇りを持ってOIAのクライメート・アクション・コープを共同で設立しました。

クライメート・アクション・コープは現在までに一連の連携を立ち上げ、その一部は上流サプライチェーンの排出量削減を目指しています。

大西洋の向こう側では、ゴアは2021年初めに欧州アウトドア・グループ (EOG) のサプライチェーン脱炭素化プロジェクト (SCDP) の創設に協力しました。

OIAのサプライチェーンフットプリント削減に向けた取り組みとEOGのSCDPはどちらも、基礎研究段階の協働プロジェクトであり、アウトドア業界の約30の大手ブランドの積極的な支援を受けています。

こうした取り組みは、サプライチェーンがグローバルで多様化していても、重複部分を活用してより短期間でインパクトのあるフットプリント削減を達成できるという信念に根差すものです。グローバルサプライチェーンに求める期待を最初

から整理することで、ゴアは、度重なる監査依頼とツールの測定によるバリューチェーンの負担を増やすことなく、炭素排出削減の達成に注力しています。

ゴアは、重複部分を発見するプログラムと、業界全体の適切な炭素排出削減プログラムの両方に関して、ブランド各社と協力し、共同で施設の監査を実施してサプライヤーの目標設定とアクションプラン策定を支援してきました。2022年には、この分野でいくつかのパイロットプロジェクトが実施される予定です。

基本的には、OIAのクライメート・アクション・コープとEOGのSCDPは、ゴアのような組織に、気候変動に対して共同で行動を起こすための枠組みを提供するものです。どちらのプロジェクトも、業界がともにインパクトを高め、アウトドア業界が炭素排出の少ない未来へ進む上で最高の結果を出せるよう連携できる可能性を示しています。



インタビュー

マルクス・ウィーザー
ゴア ファブリクス、
カーボンチャンピオン
(ドイツ)



Q: マルクス、あなたは短期間で解決することはむずかしいと思われる、非常に重要で複雑な問題に取り組んでいます。あなたが日々努力を続けている動機は何ですか？

マルクス・ウィーザー (以下、MW): 新しく悲観的な科学的洞察が次々に出てくるなかでは、すぐに圧倒されてしまい、加速する巨大な危機を前に自分がちっぽけに感じられます。とはいえ私は、「気候変動への意識」が組織にさらに深く根づき、一般消費者向けとプロフェッショナル向けいずれの分野でも、ゴアの同僚全員がますます多くの取り組みを推進していることに日々感銘を受けています。基本的に、気候変動を抑えるには、バリューチェーン全体で過去に例のない連携が必要であることが強く認識されています。危機のさなかにあって、これ以上肥沃なイノベーションの土壌がほかにあるでしょうか？

Q: あなたから見て、ゴアが2021年に達成した最大の進歩は何ですか？

MW: ひとつ選ぶのはむずかしいです。100%再生可能エネルギー電力の調達を目指す大胆な動き。新素材。それにももちろん、アメリカやヨーロッパのパートナーブランドとの基礎研究段階の連携は、来年に実を結び始めるでしょう。私たちの業界のカーボンフットプリントの発生源に対処するため、数十のブランドとサプライヤーが力を合わせていることが本当にうれしいです。

Q: 2020年の実績値と2021年の推計値を見て、あなたはどのような理由から、ゴアの2030年までの目標達成を楽観視しているのですか？

MW: 2021年のフットプリントは厳しいものになるでしょう。将来的に私たち、さらに業界は、気候変動対策を、地球上の生き物の土台を守るために対応が必要な問題ではなく、イノベーションを発展させ前向きな差別化を行える分野とみなすようになることが期待されます。その段階で、カーボンフットプリントの削減は私たち全員の仕事の本質になるでしょう。そうなればしめたものです。私たちみんなの力で良い変化を生みだせると、かなり楽観的に考えています。

Q: 2050年のカーボンニュートラル実現に向けてゴアのカーボンフットプリントを大幅に削減するための、最大にして最も重要な手段は何だと思いますか？

MW: 経済的な成功とフットプリントを切り離すことが、鍵になります。これを踏まえた適切なKPIを定め、環境負荷が大幅に小さく耐久性あるパフォーマンスを発揮する、最先端の製品をパートナーに提供し、利益とフットプリントをさらに明確に切り離せる新たなビジネスのやり方を開発することです。知識はあってもまだ試したことがない要素もあるため、ある程度は未知の世界に足を踏み入れることになります。だからこそなおさら、注意を怠らず、好奇心を持ち、楽観的にのぞむことです！

マルクス・ウィーザーは、多様な課題を抱えた幅広い業界で優秀なグローバル戦略コンサルタントとして長年活躍しました。やがて、発電に伴う環境負荷を軽減するためにエネルギー部門の企業をサポートすることに、とりわけ情熱を注ぐようになりました。2016年にゴアに入社して以降、ゴアのステークホルダーネットワークを拡充し、サステナビリティ戦略に関わる多様なポジションに就き、ゴア ファブリクス・ディビジョンの温室効果ガス削減プログラムを見守り進化させてきました。



透明性を高め、製品の環境負荷をさらに軽減するために業界の中立的ツールを活用

ゴア ファブリクス・ディビジョンにとって、製品の環境負荷に関する情報を把握し透明性をもって共有することは、より持続可能な未来を目指す動きを生み出す重要な要素です。2020年にはライフサイクル評価を補うために、当時新たに登場したツールである Higg Material Sustainability Index (MSI) を全面的に導入しました。2021年も、この歩みが続けられました。

製品のすべての要素が生み出す環境負荷を完全に理解するために、ゴアは、全ライフサイクルを通した「ゆりかごから墓場まで」の全体像の把握を目指しています。この作業は、耐久性と製品寿命を延ばすことの重要性を繰り返し確認するものです。製造に伴う環境負荷は一般にフットプリントの最も大きな部分を占めますが、それが長年使用でき、作り直す必要がない製品を確実に生み出すのです。

とはいえ、完全なライフサイクルアセスメント (LCA) の分析は複雑で時間がかかり、比較が困難なこともあります。そこでゴアは、2020年に標準化された Higg MSI ツールを導入しました。2021年も一般消費者向けビジネスでは、先頭に立って MSI システムを使用し続けています。

現在、MSI スコアの測定は、ゴア製品のコミュニケーションに欠かせない要素となっていて、すべてのパートナーブランドに、彼らが購入するラミネートの代表的な MSI スコアを公開しています。ゴアは、パートナーが GORE-TEX 素材の環境負荷を他のサプライヤーと確実に比較できるようにしたいと考えています。

GORE-TEX プロフェッショナル向けで、MSI システムの活用検討を開始

Higg MSI ツールは主に一般消費者市場を想定して開発されましたが、GORE-TEX プロフェッショナル向けビジネスが対象とする市場も、異なる素材を安定的に比較する上で同じ課題を抱えています。

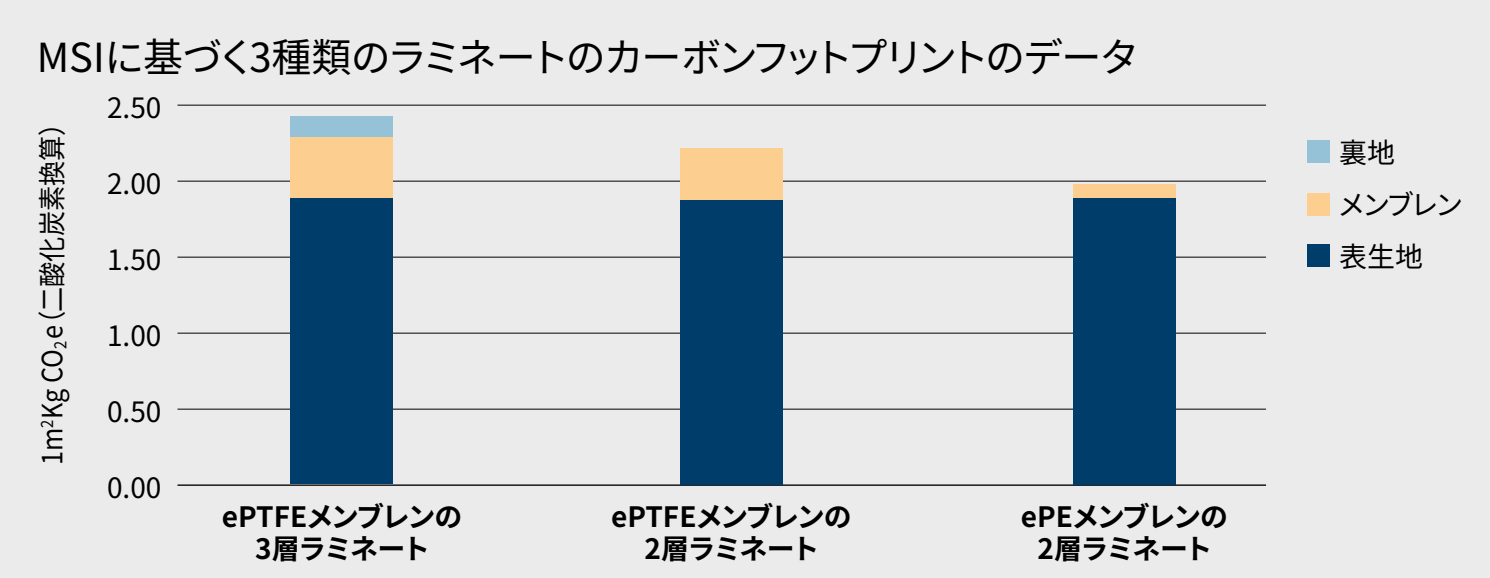
2021年、ゴアはプロフェッショナル向けビジネスの特定の分野で MSI システムの使用を検討し始め、現在は多くのラミネートがシステムでモデル化されています。モデル化されたラミネートは、今後の製品開発の方向性を決めるための参考となる情報を提供していますが、ゴアのカスタマーやパートナーとの予備交渉にも利用され始めています。

テキスタイルの環境負荷が最も大きい

ファブリクス・ディビジョンの一般消費者向けビジネスとプロフェッショナル向けビジネス、どちらにも共通するひとつの知見があります。それは、ラミネートの環境負荷の大部分が、メンブレンではなくラミネートに使用される生地由来することです。この事実を説明するために、下のグラフは、同じポリエステル製の表生地を使用したゴアの3種類の消費者向けラミネートについて、MSI システムで測定した1平方メートル当たりのカーボンフットプリントを示しています。

改善を促し測定する

2021年、ゴアのアソシエートは、MSI システムを理解し、素材の選択が製品に与える総合的なインパクトを、市場に投入する前に把握する手段として、このシステムを活用することに強い関心を示しました。そのため現在、MSI システムは、製品の環境負荷を低くするために製品開発の指針としてファブリクス・ディビジョン全体で活用されています。たとえば MSI システムによると、リサイクルポリエステルの生地はバージンポリエステルのものより(カーボン)フットプリントが低いことが確認されており、そのためカスタマーから



このグラフは、2層ラミネートと3層ラミネートの違いも示しており、3層は生地が1枚多いせいで環境負荷が大きくなっています。さらに、ePTFEメンブレンを使用したものと、新しいePE素材を使用したものという、種類の異なる2層ラミネートを比較することもできます。2種類のメンブレンの差は明らかですが、ここでもカーボンフットプリントを大きく増やしている要因は表生地です。この事実を、アパレル・フットウェア業界全体のフットプリントを減らす重要な手段として、より環境負荷が低いテキスタイルの導入に取り組むことの価値を引き続き裏づけています。

高い要望があります。ゴアは、各カスタマーへこれらの提案を増やすことで、要望に対応しています。詳細なLCAの調査と平行して、MSI システムは、一般消費者向けビジネスのePEラミネートによる環境負荷を把握するためにも使用されています (9ページ参照)。

上のグラフが示すように、ゴアの最新のテクノロジーイノベーションであるePEメンブレンを使ったラミネートは、ePTFEメンブレンのラミネートと比べカーボンフットプリントが低くなっています。



Higg Materials Sustainability Index

ゴア ファブリクス・ディビジョンは、アパレル、フットウェア、テキスタイル業界での持続可能な生産を促進する代表的な団体、サステナブル・アパレル連合 (SAC) の創設メンバーです。SACの主な活動の一つが、Higg Materials Sustainability Index (MSI) の導入と管理です。

Higg MSIは、素材のライフタイムを通した環境負荷を測定しスコア化する中立的なツールです。アパレル、フットウェア、テキスタイル業界のデザイナーと製品開発者は、Higg MSIを使用してさまざまな素材の環境へのインパクトを評価、比較できます。同条件で素材を比較検討することで、十分な情報を基にしたより優れたアパレルデザインの決定が可能になります。

Higg MSIは、業界およびLCAのデータベースから提供されたデータを使用して環境へのインパクトを計算し、サステナビリティパフォーマンスの5つのカテゴリーに基づいて、それらを比較可能な集計スコアに変換します。

Higg MSIの測定基準

- 地球温暖化の可能性
- 水の栄養汚染
- 渇水
- 化石燃料の枯渇
- 化学物質

Higg MSIの詳細は、<https://apparelcoalition.org/higg-product-tools/> (英語) でご覧いただけます。

3つの質問

ベン・ボア
ゴア ファブリクス、
製品環境フットプリント
チャンピオン(スコットランド)



Q: ベン、MSIはゴアのカスタマーエクスペリエンスをどの
ように進化させましたか？

ベン・ボア(以下、BB): 私たちは2021年に、MSIを使っ
た取り組みをさらに進めました。2020年には、MSIによる
スコア化ツールを使って、製品の環境負荷をカスタマー
に伝える初めてのコミュニケーション活動を展開しまし
た。2021年はスコア化の対象を、消費者向けガーメント、
フットウェア、グローブ、アクセサリからGORE-TEXプロ
フェッショナル向け製品に拡大しました。

このデータを共有することで、カスタマーは、自社製品が
環境に与えるインパクトや、素材の選択を通じて製品の
環境負荷をどう減らせるかに関して理解を深められまし
た。2022年に向けて、私たちは、主なカスタマーと素材の
MSIを共有する能力を高めることにより、こうした動きをさ
らに促進したいと考えています。

Q: 製品のサステナビリティに関して、ゴアは2021年に他
にどんなイニシアチブを開始しましたか？

BB: 私たちは、新たに導入したePEラミネートが環境に与
えるインパクトを把握するための作業を続け、LCAツール
を用いた中立的な評価を行っています。この作業は今も
継続中ですが、将来的には、ePEラミネートの環境面での
具体的な強みをカスタマーに伝える上で役立つでしょう。

Q: 消費者への製品のサステナビリティのコミュニケーションは、今後どうなるでしょう？

BB: 取返しのつかないグローバルな気候変動が起きかね
ない地点に、私たちは急速に近づいています。恐ろしいこと
です。ほとんどの人は変化を起こしたいのに、その方法が
わかりません。製品のサステナビリティに関するコミュニケ
ーションを通じて、消費者は、気候変動危機への対応への
関与を増やし、働きかけを強められるでしょう。これが究極
の解決になるかといえば、ならないでしょう。けれど、自分
の決定が世界に影響を与えることを消費者に知ってもらう
ための、最初の一步になります。

Higg MSIを使ったこのトピックへの関与に加えて、私たち
は、LCAの手法を使ってePEプラットフォームの環境負荷を
積極的に検討してもいます。また、EU技術事務局の製品環
境フットプリント(PEF)プロジェクトの一環として、他の業

界リーダーと一緒に製品スコア化の枠組みも策定してい
ます。

このプロジェクトの究極の目標は、ヨーロッパで販売され
るすべてのアパレル、フットウェア製品の評価基準にでき
る一連のルールを示すことです。私たちは、素材検査に関す
る専門知識を生かして、製品の寿命と耐久性をめぐる議論
に情報を提供してきました。しかし、主なサステナビリティ
課題への対処には、最終的にはゴアのようなリーダー企
業だけでなく、現代の商取引に関わるすべての人からのイン
プットが必要になります。

ベン・ボアは3年前にゴアに加わりました。それ以前は
Adidasでアパレル素材開発、Timberlandでフットウェア
素材開発を担当していました。この2社でサステナビリティ
の分野に深く携わり、その経験を現在のゴアでのポジシ
ョンに生かしています。欧州委員会技術事務局の製品環
境フットプリントプロジェクト、およびサステナブル・アパ
レル連合の製品ツール戦略評議会に、ゴアを代表して参加
しています。

機会を探る



DP/DHL グループが、リサイクル生地を
使ったGORE-TEXジャケットを注文

大手国際物流企業のひとつで、220カ国に50万人以上の従
業員を抱える世界有数の雇用主であるDeutsche Post DHL
Groupは、2022年、スタッフ用として25,000着のGORE-TEX
ジャケットを発注する予定です。

このジャケットには、リサイクルPETボトルを原料とする
bluesign®認証を取得したGORE-TEXラミネートが使わ
れ、環境負荷が小さくなっています。ドイツのボンで、新たな
ユニフォームがDP/DHLスタッフに披露されました。

DP/DHLのGORE-TEXジャケット1着に使用される、原液
着色のリサイクル生地には、PETボトルおよそ40本分の素
材が含まれます。DP/DHLが注文したジャケット25,000着
は、PETボトル100万本分に相当します。これだけの量の
PETボトルが、焼却や埋め立てにより処分されたり、世界の
海に流れ出ることなく、GORE-TEXラミネートとして再生さ
れ、DP/DHLスタッフを守るだけでなく、環境へのインパ
クトを減らし地球を守ることに貢献したのです。



ゴア ファブリクス・ディビジョンがグローバル・リサイクルド・スタンダード認証を取得

透明性は、ゴアの事業経営と信頼構築のあり方を導く指針です。2021年、ファブリクス・ディビジョンは、耐久性と高いパフォーマンスを備えた製品を提供しつつ環境負荷を削減することを目指して、継続的なサステナビリティの歩みにおいて大きなマイルストーンを達成しました。

ファブリクス・ディビジョンは、資源をより効率的に活用して炭素排出量の削減に貢献するため、この2年間に製品へのリサイクル素材使用を大幅に増やしてきました。

その継続的な取り組みを公式に認めてもらい、ゴアの成果をカスタマーやエンドユーザーにさらに明確に示すため、ゴアは、信頼できる中立的な第三者機関にサポートを求めました。

こうした努力の甲斐あって、深圳(中国)とプッツブルン(ドイツ)のファブリクス製造拠点はいずれも、グローバル・リサイクルド・スタンダード(GRS)の認証基準に達しました。

GRSは、リサイクル含有量と加工流通工程の管理に関する第三者認証の要件を設定する、国際的な自主基準です。GRSの主な目標は、製品へのリサイクル素材の使用を増やし、製品の製造によって引き起こされる人や環境への有害な影響を軽減または排除することです。

GRS認証を取得するためにゴアは事前監査を行い、bluesign® や ISO 14001などの既存の認証基準には含まれていない、GRSの環境、社会、化学物質に関する要件を実行しました。

さらに、GRSの要件に従って、GRS認証製品と非認証製品を区別できるように、製造・保管設備を見直しました。

これに加えて、ラミネートをカスタマーとバイヤーに発送するため社外の倉庫も使用していることから、ファブリクス・ディビジョンは倉庫会社と連携してこれらの会社もGRSシステムに統合しました。

? 3つの質問

トーマス・キーブラー

ゴア ファブリクス、
一般消費者向けガーメント、
アプリケーションエンジニアリーダー



Q: ゴア ファブリクス・ディビジョンは、なぜGRS認証の取得を決めたのですか?

トーマス・キーブラー(以下、TK): 透明性は、私たちがバイヤー、カスタマー、エンドユーザーパートナーとの信頼の構築を目指して事業を営む際の指針となる原則のひとつです。私たちは、製品に関する技術データや中立的なテスト報告書を共有し、可能な場合には、既存のツールを利用して、業界基準に基づき製造工程と製品の認証を取得しています。

私たちは、リサイクル生地を使ったラミネートの製品ラインナップの大幅な拡充を計画していますが、完全な認証に基づきリサイクル素材のトレーサビリティを証明することができませんでした。そこで、ゴアの製品に使用するリサイクル素材のトレーサビリティを確保するため、GRS認証を取得することを決めたのです。

Q: ゴア ファブリクス・ディビジョンの現在のGRS認証取得状況は、どのようなものですか?

TK: 2021年末に深圳、2022年1月にプッツブルンの製造拠点が認証を取得しました。これは大きな成功であり、製造拠点に加えそれ以外の方々の多大なる努力なしには不可能でした。この認証プロセスに関わったすべてのゴア・アソシエートおよびパートナーの皆さんに、心から感謝いたします。

深圳とプッツブルンの工場が無事にGRS認証を取得した今は、この認証を維持して今後も継続的にパフォーマンスを改善できるよう、この工程と要件を既存のマネジメントシステムに組み込んでいます。

Q: GRS認証に関連して、次のステップとして何を計画していますか?

TK: 一般消費者向けビジネスだけでなく、GORE-TEXプロフェッショナルのワークウェアビジネスのカスタマーにも、2022年半ばまでにGRS認証済のラミネートを導入する予定です。そのためには、ITシステムを修正して、2022年には製品に関わる証明書、いわゆる「商取引証明書」をカスタマーとバイヤーに発行できるようにする必要があります。

出荷に関わるGRS認証に対応するため、新たな管理工程も導入します。この新しいピックについて、すべてのアソシエートだけでなくカスタマーにも研修を行います。

これを実施した後は、GRS認証済ラミネートのより包括的なポートフォリオ管理を導入して、カスタマーとバイヤーに提供する製品を継続的に拡大できるようにします。まずはファブリクスポートフォリオのいくつかのラミネートから始めますが、将来的には、サプライヤーや製造拠点と協力して、リサイクル生地を使ったすべてのGORE-TEXラミネートについてGRS認証を取得します。

トーマス・キーブラーは、2012年から一般消費者向けファブリクス(COF)のガーメントビジネスでグローバルなアプリケーションエンジニアリングチームを率いてきました。加えて、COFガーメントリーダーシップチームの一員でもあります。現職以前は、ヨーロッパで5年間COFガーメントマーケティングチームを指揮しました。それ以前は、取引・製品マーケティング分野においてリージョナル、グローバルなポジションを歴任しました。



プロジェクトチームとともに、深圳(中国)のファブリクス工場のGRS範囲証明書を掲げる
ゴアのプロジェクチャンピオン、ミン・ウー(中央)

グローバル・リサイクルド・スタンダードとは何か？

グローバル・リサイクルド・スタンダード (GRS) は、リサイクル含有量、社会および環境慣行、化学物質の規制、加工流通工程の管理 (CoC) の第三者認証の要件を定める、製造工程全体に関わる国際的な自主基準です。

GRSが定義する加工流通工程 (右の図を参照) では、リサイクル段階に始まり、最終的な企業間取引の最後の売り手で終わる個々の製造段階について、認証を受ける必要があります。素材の回収・集積拠点は、自己宣言、文書収集、現地視察を行わねばなりません。

GRSは、GRS認証済の再生材料を20%以上含む製品に適用されることを意図しています。また、GRSロゴが掲載された最終製品は、GRS認証済みの再生材料を50%以上含まねばなりません。GRSはそれ以外に、社会と環境に配慮した加工要件、化学物質の制限に関する基準も定めています。

GRSのその他の目的には、以下が含まれます

- さまざまな用途における「リサイクル」の定義を統一する
- 製品の再生材料を検証するために、リサイクルされた投入材料を把握し追跡する
- カスタマー (ブランドと消費者双方) に、十分な情報に基づき決定するためのツールを提供する
- 最終製品の材料が実際にリサイクルされていて、より持続可能な形で加工されていることを保証する
- 再生材料を使用する際の品質の問題への対応に、イノベーションを促す

GRSはもともと、2008年にControl Union Certificationsによって策定され、2011年にTextile Exchangeに譲渡されました。GRSは、品質や法令遵守に対処するものではなく、いずれかの国の法律または規制上の要件に代替することを意図したものでもありません。

GRSに関して詳細は <https://textileexchange.org/standards/recycled-claim-standard-global-recycled-standard/> (英語) でご覧いただけます。

Textile Exchangeとは？

2002年にOrganic Exchangeとして設立されたTextile Exchangeは、テキスタイルサプライチェーンのすべての部門と緊密に協力するグローバルな非営利団体です。大手ブランド、リテラー、サプライヤーが加盟するTextile Exchangeは、テキスタイル業界が作り出す製品が水、土壌、大気、動物、人にポジティブなインパクトを与えるために、農業、原材料、加工、トレーサビリティ、使用済製品に関するベストプラクティスを特定し共有しています。

さらに、一連の優れた業界基準の策定、管理、推進を行うだけでなく、ブランドやリテラーによるファイバーや素材の使用状況の測定、管理、追跡を可能にする業界データと洞察を収集して公表しています。

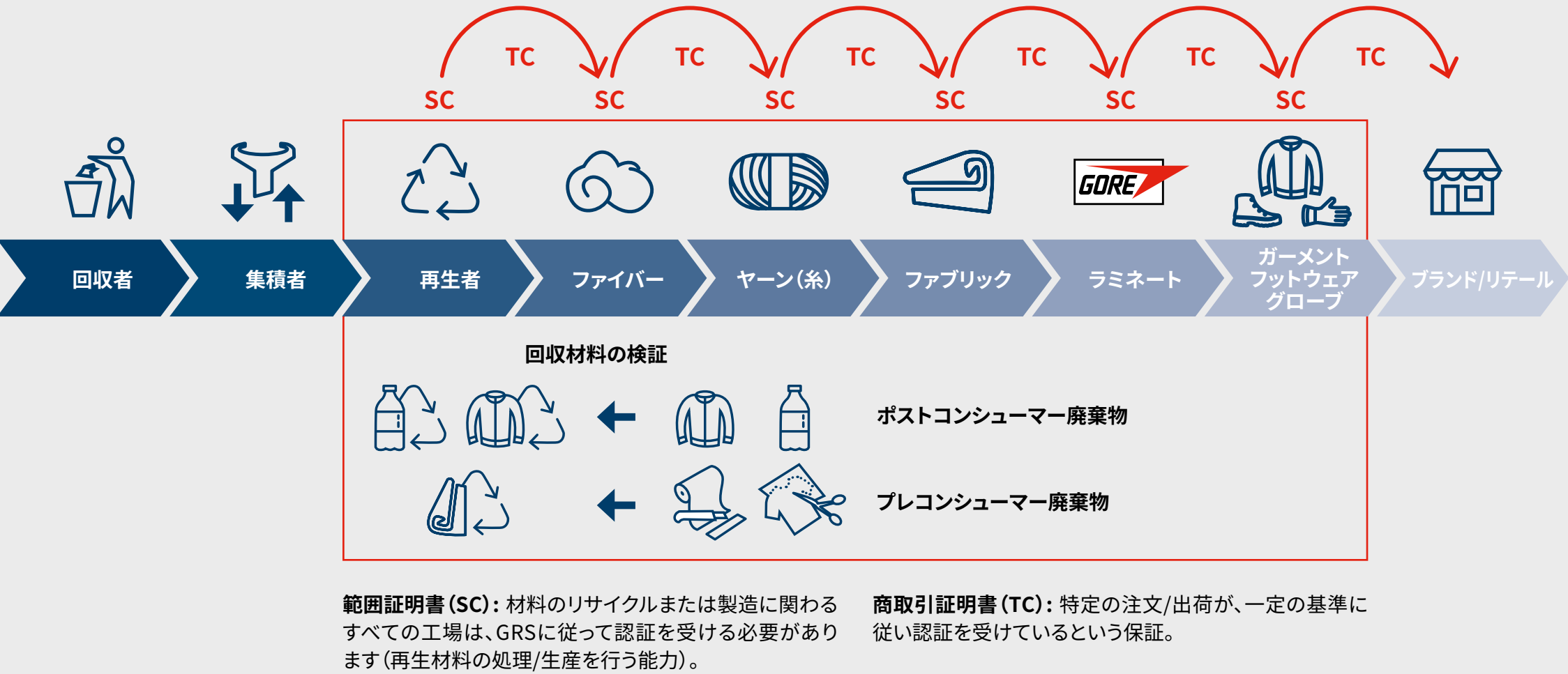
詳しくは <https://textileexchange.org> (英語) でご覧いただけます。

グローバル・リサイクルド・スタンダードに基づく各要素の定義は？

- **材料リサイクル:** リサイクルのライフサイクルのなかで、「回収材料」が「再生材料」に加工される地点を指します。
- **回収材料:** 本来なら廃棄物として処分されるか、エネルギー回収のため使用されていたもの、新たな一次材料に代わる投入材料として、リサイクル工程用に収集・回収された材料。
- **再生材料:** 製造工程を通じて「回収材料」から加工されて、最終製品または製品に含まれる部品になった材料。

- **リサイクル含有量:** 製品または包装に含まれる再生材料の質量による割合。プレコンシューマー材料およびポストコンシューマー材料のみが、「リサイクル含有量」とみなされます。
- **ポストコンシューマー材料:** 家庭または商業、産業、公共施設が製品のエンドユーザーとして生み出す、もはや本来の用途には使用できない素材。これには流通チェーンからの材料の返品も含まれます。
- **プレコンシューマー材料:** 製造工程で廃棄物処理の流れから外れた素材。再加工、リグラインド (粉末再生) などの材料の再利用や、工程のなかで発生し、発生したのと同じ工程内で回収することが可能なスクラップは除きます。

グローバル・リサイクルド・スタンダード:加工流通工程の管理



出典: Textile Exchange

GORE-TEXプロフェッショナルが、新たなクラスのセーフティフットウェア向けに環境負荷の低い革新的なアッパー素材(甲被素材)に関するテクノロジーを発表

2021年10月の新たな3層構造のアッパー素材を用いたEXTRAGUARDテクノロジーの導入を通じて、GORE-TEXプロフェッショナルは、サステナビリティ戦略に完全に沿った製品イノベーションについて発表しました。このテクノロジーは、製品を長持ちさせることで人々のウェルビーイングを充実させるだけでなく、製品がもたらす環境負荷を減らします。

一般的に、防水性と透湿性のある頑丈なセーフティフットウェアは、特に濡れると重くなり快適感が損なわれることがあります。逆に軽量なフットウェアは、雨や泥などの悪い環境のもとで重作業を行う場合において、必要な防護性が得られるとは限りません。



ゴアはEXTRAGUARDテクノロジーによって、頑丈なアッパー素材と、軽量で透湿性ある生地を組み合わせた新たなアッパー素材を開発しました。EXTRAGUARDを使用したGORE-TEXセーフティフットウェアは、この3層構造のおかげで、たとえ雨や雪の中で頻繁に使用しても重くならず、尖ったものや落下物、熱、摩滅からの防護を提供してくれます。

新たなアッパー素材は耐摩耗性に優れているためフットウェアが長持ちし、このシンプルなモットー通りに環境への影響を抑えられます。すなわち、製品を長く使うほど、1年当たりの環境へのインパクトは小さくなるのです。



同時に、この新しいテクノロジーの開発は、持続可能な素材の選択、製造に伴う廃棄物の削減、よりシンプルな輸送ソリューションの活用に関する新たな基準を設定することで、ゴアのサステナビリティ戦略を完璧にサポートするものでもあります。

この革新的なアッパー素材はクロム不使用であり、安定的な品質のもと反物のかたちで提供されます。そのため、受け取り時にあらためて品質検査をする必要がなく、手間が大幅に省けて製造時の廃棄物も減ります。



EXTRAGUARDアッパー素材の製造に使われる化学物質は、今までより大幅に少ないため、製造時の水消費量と二酸化炭素排出量の減少もあいまって、セーフティフットウェア用の従来の信頼性の高いアッパー素材と比べて、環境負荷を低く抑えられます。

「科学的なラボ試験とエンドユーザーによる初期的な着用テストから、EXTRAGUARDアッパーテクノロジーを使ったGORE-TEXセーフティフットウェアは、数カ月間集中的に使用した後でさえ、頑健でありながら軽量性、防水性、快適性を失わないことが示されました。

ゴアがライセンスを供与した製造パートナーは、この新たなアッパー素材テクノロジーを歓迎しています。重労働や日常業務のために、耐久性を伴った防護性だけでなく、軽量で快適性もあるセーフティフットウェアを必要としている、建設、解体、鉄道、インフラ、農業などの作業の方々にとって理想的です」

ヘルムート・クルーク

ゴア ファブリクス、GORE-TEX プロフェッショナル、プロダクトスペシャリスト(ドイツ)

このEXTRAGUARDテクノロジーは、耐久性あるパフォーマンスを損なわずに、環境へのインパクトを継続的に改善するためのゴアのコミットメントを示す、もうひとつの格好の例です。

詳しくは、
<https://www.goretexprofessional.com/uk/technologies/extraguard-upper>
(英語)をご覧ください。

EXTRAGUARD製品の特長



耐久防水性



透湿性



優れた頑健性



軽量



濡れても
重くならない



耐薬品性



濡れても
熱損失が少ない



速乾性



メンテナンスが
容易



過酷な気象条件下で何カ月も着用しても、GORE-TEX EXTRAGUARDセーフティフットウェア(右側)は形状、色、機能が変わりません。

化学物質に固有の価値を引き続き捉えつつ、 インパクトのさらなる削減に取り組む

責任を持って化学物質を安全に使用し、労働者、消費者、そして環境を守りながら、耐久性ある高性能な製品の生産にその優れた特性を活用することは、ゴアのサステナビリティ戦略と製品フォーカスの重要な要素です。

ケミカルフットプリントの持続的な削減を目指すゴアは、責任あるパフォーマンスの視点からこれを実践しています。エンドユーザーはさまざまな場面で、GORE-TEX製品が提供するパフォーマンスと防護性を頼りにしています。そのためゴアは、長持ちするアパレルを提供することが、総合的な環境負荷を削減する最善の方法だという認識に基づき、パフォーマンス、環境負荷、製品寿命の最適なバランスの発見に努めています。

パフォーマンスとサステナビリティを 踏まえて、ライフサイクル全体を把握

ゴア ファブリクス・ディビジョンは、業界規格を満たすことで素材がエンドユーザーにもたらすメリットと、ライフサイクル全体の製品の環境負荷のバランスをとることを目指しています。そのためには、使用する素材とそのインパクトやメリットへの深い理解を育む必要があり、35年以上に及び、製品とオペレーションの数々の改善が促されてきました(8ページ参照)。

とはいえ、パフォーマンスを維持しつつ、ケミカルフットプリントの削減を進めるという課題は、GORE-TEXラミネートに固有のものではありません。ゴアには、業界やサプライチェーン・パートナーに加え、それ以外のステークホルダーに連携的に働きかけ、パートナーに大きな変化を生みだしてきた歴史があります。重要な例として、2013年にサプライチェーンからPFOAを排除しました。

信頼性の高い第三者システムの活用

ゴアは何年も前から、一般消費者向けとプロフェッショナル向け両方のビジネスにおいて、生地サプライチェーンと最終製品の化学物質によるリスクを最小限に抑えることに大きな重点を置いて、信頼性の高い次の2つの第三者システムと協力してきました。

- bluesign® システム
- OEKO-TEX® STANDARD 100

助剤を選定する上で欠かせないものです。

環境負荷を軽減するために望ましい化学物質を選ぶだけでなく、ゴアには、自社施設で業界の先端を行く環境制御技術を導入してきた長い歴史があります。

投入材料の管理と効果的な管理手段の活用こうした組み合わせが、適用されるすべての安全衛生規則・基準を満たし、多くの場合にこれを上回る私たちのコミットメントを支えています。

ファブリクス・ディビジョンの世界の全工場の環境マネジメントシステムは、ISO14001認証を取得しています。化学物質の管理は、ゴアの生産およびサプライチェーンの継続的な改善を管理するための不可欠な要素になっています。

加えて、Higg Indexの各種ツールおよびbluesign®とのシステム提携は、この分野でのゴアのパフォーマンスが中立的な検証を受け、ステークホルダーに対する透明性が確保されていることを裏づけるものです。

一般消費者向けファブリクスビジネス

2017年、ファブリクス・ディビジョンは、2023年末までに一般消費者向け製品の全ライフサイクルから「環境への影響に懸念のあるPFC (PFC_{EC})」を排除する約束を公表しました。過去のレポートで詳細に記したように、ゴアはこの歩みにおける大きな進展を誇りに思っています。

ゴアのこの目標の達成を促すため特別に開発された、新たなePEベースの素材プラットフォーム(9ページ参照)の導入は、この歩みにおいて重要なマイルストーンです。ゴアは現在まで重点的に取り組んできましたが、製品開発および規模の拡大に伴う問題から、当初の期限までにポートフォリオ全体の移行を完了することは不可能であることが明らかになりました。

それでもゴアは、PFC_{EC}フリーという目標に向け、2025年末までに一般消費者向けポートフォリオの大部分の移行を終えるため取り組みを進めています。

PFC_{EC}の定義と、ファブリクス・ディビジョンの一般消費者向け製品からのPFC_{EC}排除に向けた取り組みの詳細な進捗情報は、GORE-TEXウェブサイト www.gore-tex.com/sustainability (英語) でご覧いただけます。



bluesign® システムは、化学物質の使用を含む、持続可能な繊維生産への企業による取り組みを評価するツールです。bluesign® 認証製品はサプライチェーン全体を通して、環境と働く人々の安全に配慮した責任ある方法で生産されています。詳細は、www.bluesign.com (英語) をご覧ください。



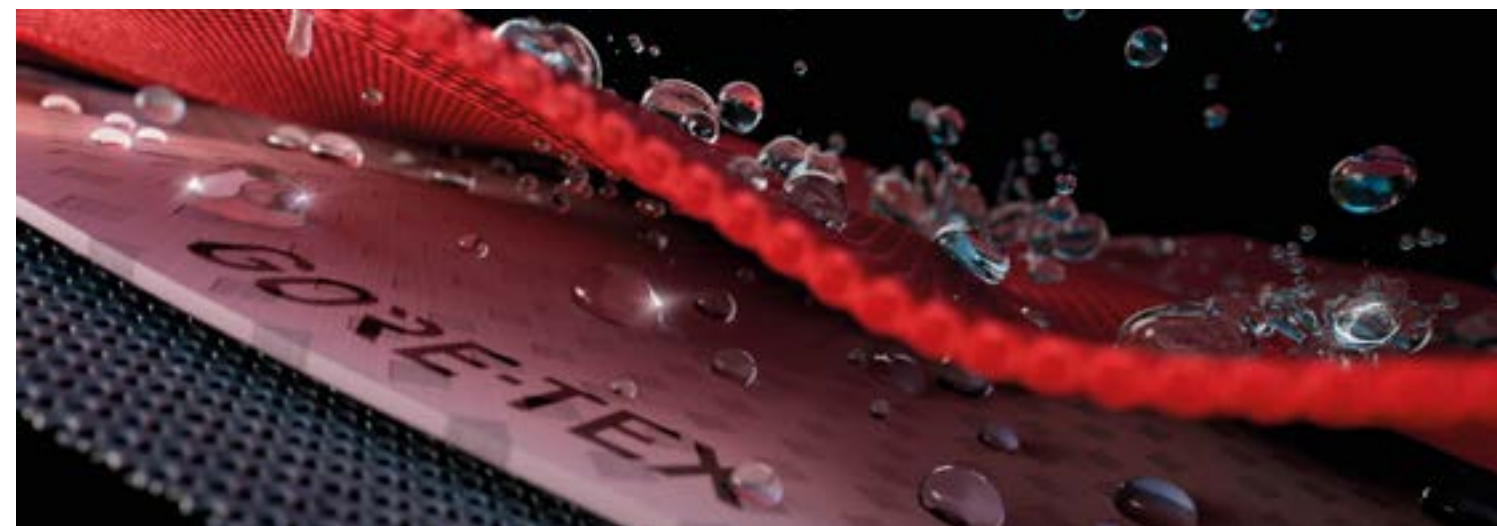
OEKO-TEX® STANDARD 100 認証は、OEKO-TEX® 国際共同体の製品安全基準で、テキスタイル最終製品の有害物質分析試験を通して、着用の安全性を確認します。詳細は、www.oeko-tex.com (英語) をご覧ください。

一般消費者向けガジェットビジネスにおいて製品の

100% がOEKO-TEX® STANDARD 100 認証を取得。

93% が bluesign® 認証を取得 (数量ベース)。

ゴア ファブリクス・ディビジョンは、2021年もこの2つのシステムの指針の活用と実践を続けました。なかでもbluesign® システムは、ゴア最新の耐久撥水(DWR)加工の導入と改善を通してさまざまな選択を行い、社内工程の補



プロフェッショナル向けファブリクスビジネス

GORE-TEXプロフェッショナル向けビジネスは、さまざまな危険や命を脅かし得る状況からプロフェッショナルユーザーを保護する製品を提供しています。そのためゴアには、製品がこうしたユーザーの重大なニーズと仕様を満たすよう保証する責任があります。

実際、PPE（個人防護具）アパレル業界全体が、耐久性のあるパフォーマンスを維持しすべての適切な業界基準を維持しながら、同時に使用材料の環境負荷も軽減する方法をめぐる共通の課題に直面しています。

プロフェッショナル向けファブリクスビジネス全体において、ゴアは、業界基準が求める安全で耐久性、快適性ある防護機能をユーザーに提供するために、引き続きフッ素材料に固有の特性の活用に重点を置き続けています。

OEKO-TEX® STANDARD 100認証とbluesign® 認証の適用は、プロフェッショナル向けビジネス全体で急速に拡大を続けています。防護具アパレル業界は、必要なパフォーマンスを提供するためさらに高度な素材の活用を求められており、したがって、認証プロセスが困難になる可能性もあります。

ゴアは、特定の分野への取り組みを優先してきました。これまでに、世界のGORE-TEXプロフェッショナル向けラミネートの50%以上が正式にOEKO-TEX® STANDARD 100 認証を受けており、今後この基準を遵守する製品がさらに増える予定です。

EUのグリーン公共調達 (GPP) 認証要件はまだグローバルな要件と調和していないものの、ゴアは、ドイツ政府当局によるbluesign® システムの承認を、極めて前向きな一歩と見えています。



bluesign® システムが、ドイツでグリーン公共調達 (GPP) 要件として認定される

多くの地域では、大規模な公共調達で持続可能な製品を優先的に購入するために、グリーン公共調達 (GPP) 指針が導入されています。こうした事業の要件を満たすためには、多くの場合、製品と製造工程の持続可能な性格を示す証拠として、認証が求められます。

ドイツの政府当局は、2021年にbluesign® システムを認定し、bluesign® 認証を取得した材料を、グリーン公共調達のための有効な証明として認めました。これにより、ドイツ全土でこのシステムが広く利用される道が開け、EUにおける確かな先例となっています。

詳しくは、www.bluesign.com (英語) をご覧ください。

GORE-TEXプロフェッショナル向けビジネスは、ゴアの施設のbluesign® システムとのパートナーシップに基づき、bluesign® の正式な認証を取得したラミネートの数を急速に増やす取り組みを進めています。

一般消費者向けビジネスに続いて、GORE-TEXプロフェッショナル向けビジネスも、業界の仕様を満たす、環境負荷が低い高性能な素材の実現に取り組むために、新たなテクノロジーのパフォーマンスを理解しようとしています。GORE-TEXプロフェッショナル向け製品のエンドユーザーに適した材料となる可能性を求めて、新たなDWR用化学物質やePEベースの素材の活用を積極的に検討しています。



ゴアは、今後も発展中の科学と情報を評価していきます。その知識を素材選択の参考情報として、パフォーマンスとサステナビリティのバランスがとれた製品を提供するために、製品開発の取り組みに生かしていきます。

テキスタイルにおけるPFASとePTFE

ゴアは、使用する化学物質とエンドユーザーが求めるパフォーマンスへの深い理解に後押しされた、長年に及ぶ改善の取り組みを誇りに思っています。2021年には、テキスタイル産業の内外で、「PFAS」類の化学物質をめぐる議論が高まりました。

PFASは、ペル／ポリフルオロアルキル物質を意味します。違いはあるものの、一般的には同じ物質をペル／ポリフルオロ化合物 (PFC) と呼ぶこともあります。このクラスの素材は、全く異なる特性と用途を持つ幅広い化学物質を表しています。

PFASと呼ばれる4,700以上の物質の間には明らかかつ重要な区別があるため、これは非常に複雑なトピックです。そのためゴアは、PFASに関してコミュニケーションを行う際には、対象となる化学物質やPFASの種類を具体的に示すことが重要だと考えています。

ゴアは、大部分のGORE-TEXラミネートの材料となる薄く、防水透湿性のあるメンブレンにePTFE (延伸ポリテトラフルオロエチレン) というフッ素ポリマーを使用しています。

PTFEは、「PFAS」の広義の定義に当てはまりますが、PTFEなどのフッ素ポリマーと、PFASという言葉と関連づけられる他の物質では、化学的、物理的な特性に大きな違いがあります。たとえばPTFEは不溶性で耐久性があり、極めて安定性が高い物質です。さらに、OECDによる「低懸念ポリマー」の定義も満たしています。

PTFEのようなフッ素ポリマーは、さまざまな業界と幅広い最終用途に対してパフォーマンスの高い製品を可能にする独自の特性を備えた、貴重な物質です。ゴアは、60年以上PTFEに携わるなかで得た深い知見と専門知識を生かして、インダストリアル・フィルトレーションの実用的なテクノロジー、飛行機や宇宙探査に使われる通信システム、命を救い生活を改善する埋め込み型医療機器など、高い社会的価値を持つ製品を開発してきました。



テキスタイルにおけるPFASと耐久撥水 (DWR) 加工

業界の大多数と同じように、ゴアもePTFEメンブレンによる防護に加えて、製品のテキスタイルに撥水加工を行っています。この加工によってラミネートに重要な撥水性と撥油性がもたらされ、水や他の汚染物質が素材に染み込むのを防ぐとともに、防水メンブレンのパフォーマンスを長期的に維持します。

高性能なDWR加工を通じて、濡れた生地にかかる負担も軽減できます。生地が濡れると、パフォーマンスと耐用年数に影響が出るおそれがあります。

現在、ゴアは環境負荷とのバランスをとりつつ、エンドユーザーに必要な(または期待される) パフォーマンスを提供するために、そのビジネスで幅広いDWR用化学物質を使用しています。

現在使用している高性能なDWR加工の一部は、短側鎖フッ素ポリマーと呼ばれるPFASの一種を使用したものです。この物質は、非ポリマーPFASの微量残留物を含むことがあります。

ゴアは、DWR加工に見られる微量の非ポリマーPFAS残留物について懸念が出ているのを認識しています。ゴアは、DWR用化学物質に関する科学研究を積極的に調査し、ここ数年間に多くの変更を行っています。

たとえば一般消費者向けファブリクスのラミネートのほとんどが、今ではPFC_{EC}フリーDWRを使用していますが、現在利用可能なテクノロジーでは、一部の最終用途のパフォーマンス要件を満たせません。エンドユーザーのニーズに応えつつ環境負荷を軽減するため、ゴアは今後もDWRに使用する素材を進化させていきます。

すべてのケースにおいて、GORE-TEXラミネートに含まれるPFAS素材はOEKO-TEX® STANDARD 100に準拠しています。ユーザーの皆さまは、GORE-TEXラミネートを使って作られたアパレル・フットウェア製品を安心して安全にご着用いただけます。

インタビュー



ブライ・マルルーニー

ゴア ファブリクス、
プロダクト&ケミカル・スチュ
ワード (アメリカ)

Q: ゴア ファブリクス・ディビジョンにとって、製品・化学物質の安全管理(スチュワード)の主な重点分野はどこですか？

ブライ・マルルーニー (以下、BM): 第一に、製品が化学物質に関する世界のさまざまな規制を遵守するようにする責任があります。しかし、私たちの仕事の大部分は未来に目を向けたものです。すなわち、研究開発チームと協力して、彼らが使いたい新素材を検討し、異なる化学物質の選択肢を調べて情報に基づく判断をするために、素材の評価を行うのです。

また新たな製品が、必要な手順を踏んで第三者認証を確実に取得できるよう努めてもいます。

キリアン・オシュレイン (以下、KH): そのとおりです。早い段階から関わり、新たな製品や工程を開発する際に、安全で用途適合性を満たす選択を行えるようにしています。最終製品として形になるものだけでなく、製造工程全体で使われる化学物質の分析も行っています。

BM: 業界の動向も把握し、新たな動きを注視しています。状況をつかんで適切な選択または置換えを行えるよう、新たな規制や、あるいは単に既存の化学物質に関する新たな情報にも気を配っています。

キリアン・オシュレイン

ゴア ファブリクス、
プロダクト&
ケミカル・スチュワード (ドイツ)

Q: ゴア ファブリクス・ディビジョンが直面している最大の課題は何ですか？

KH: 実現するパフォーマンスに関して、私たちはファブリクス市場で非常に高い期待を設定しています。機能性アパレル市場全体に目を向けると、どこでもサステナビリティが意識されていますが、パフォーマンスがやや後回しにされています。

私たちの課題は、サステナビリティと製品の安全性を確保し続けることです。責任ある選択は、素材の選定に絶対に欠かせないものですが、私たちはゴアの製品の代名詞であるパフォーマンスを引き続き提供していきます。私たちは高い期待を掲げており、それが今後の取り組みの中心になります。

Q: テキスタイル業界にとって、第三者規格はどれくらい重要ですか？

BM: 信頼できる第三者規格を採用することは、この分野では絶対に重要です。そうすることで複雑性を軽減し、私たちの業務への信頼性を高め、ゴアの製品に対する社外の明確な証拠を示す機会が得られます。第三者の規格を通じて、消費者、エンドユーザー、カスタマーは、ゴアの素材の安全性と環境に対する責任に大きな信頼を寄せることができま

KH: 素材の安全性と化学物質の管理は、非常に複雑なトピックです。私たちは基本的に数千種類の物質を扱っていて、個々の物質の数多くの要素を評価しなければなりません。

そのせいで、気候変動よりはるかに問題が複雑になっています。おそらく、気候変動に関わる主な物質は多くてせいぜい十数種類で、どれも二酸化炭素に関係すると考えられます。そのため、一般の人

第三者規格はこの分野の指針として役立ち、この規格を使って私たちのパフォーマンスを伝えられます。認証機関からさまざまな課題を課されるのも、良いことだと思います。認証取得への歩みで求められる期待が高まっているおかげで、私たちも、その期待に取り組むなかで継続的な改善を行う多くの機会を手

BM: 認証機関との関係も進化し続けていると思います。認証機関自体が進化しているからです。たとえば、新たなePE素材の開発を進める過程で気づいたことですが、bluesign®は有害性評価への関与を強めています。ですから認証機関が発展し、新たな機能を増やし、改善するに従って、私たちもそれを利用して一緒に改善できるのです。

Q: ここ最近あなたが関わった変化のなかで、心から誇らしく思っていることは何ですか？

BM: 新たな補完的素材となるePEを導入したことです。ePEの開発に全社的に膨大な努力が費やされましたが、ケミカルフットプリントや新たな化学物質という観点から、この素材の導入にとっても期待しています。

KH: 私も同じことを考えていました。ePEは、有言実行のシ

ンボルです。古い習慣に囚われず、改善するため絶えず努力し、従来のやり方から一歩前に踏み出し始めたのです。一歩前進したことに満足しています。これはファブリクス・ディビジョンだけでなく、エンタープライズとしてのゴアにとっても大きな一歩です。

BM: この変化は全体として、私たちの組織に、基本的なビジネスのあらゆる側面にサステナビリティを根本から取り入れる準備ができていることを示すものだと思います。

サステナビリティは、熱意あるアソシエート1人ひとりにとどまらず、全社的な規範の一部になりました。それは今や、私たち共通のパーパスのひとつです。ゴアでこうしたトピックに関われたことに、大きなやりがいを感じています。

ブライ・マルルーニーは、アリゾナ州フェニックスのメディカル・プロダクツ・ディビジョンの環境・保健・安全チームの一員として、2012年にゴアに入社しました。ここ数年間は、メリーランド州エルクトンのゴア・テクノロジーおよびパフォーマンス・ソリューションズ・ディビジョンで環境面のサポートを行っていましたが、2020年夏にファブリクス・ディビジョンのプロダクトスチュワードシップに異動しました。

キリアン・オシュレインは、ミュンヘンの環境テクノロジー系スタートアップ企業でキャリアをスタートさせた後、1995年にゴア ファブリクス・ディビジョンに加わりました。エンジニアリングと新製品開発分野のポジションを経て、2005年にファブリクス・サステナビリティのコミットメントに就き、プロダクトスチュワードシップ、第三者認証、化学物質の管理を中心に手がけています。長年にわたり、ヨーロッパと北アメリカの主要な業界団体や、サステナビリティに関する作業部会にも貢献してきました。



ファブリクス・ディビジョンの工場の環境に対する影響を理解し、 テキスタイルサプライチェーンの透明性向上に取り組む

ファブリクス工場の環境パフォーマンスを理解し、これを改善し共有するための包括的なアプローチは、ゴアのサステナビリティフレームワークの重要な要素です。このアプローチを拡大し、生地サプライチェーン全体の透明性を高めることが、進展の次の段階です。

ファブリクス・ディビジョンは、2021年に、全工場の成果の中立的な検証を含めて、3回目のHigg Facility Environmental Module (FEM)評価サイクルを終了しました。

パンデミックがもたらした課題にもかかわらず、幸い全製造拠点の現地検証を手配することができ、全体的なパフォーマンスは、2020年のHigg FEM評価サイクルのグローバルな検証ベンチマーク値である50%を大きく上回りました(2022年1月25日現在。下記グラフの黄色の線)。

グラフが示すように、深圳(中国)とエルクミルズ(アメリカ)のファブリクス製造拠点は環境パフォーマンスを維持しました。プッツブルン(ドイツ)の工場は、前年の合計スコアを14ポイント上回ることさえできました。

2019年には、ファブリクスの全製造拠点のエネルギー分

野のスコアが改善しました。工場がすべてのエネルギー源を明らかにし、エネルギー消費量と炭素排出量のベースライン値を導入したからです。

2020年も、ゴアの拠点では上昇傾向が続きました。加工とオペレーションに伴うエネルギー消費量の報告が改善し、ファブリクス・ディビジョンの炭素排出削減目標に従って、工場に関連するエネルギー消費量のターゲット値も導入されたからです(15ページ参照)。これにより、深圳工場ではHigg FEM検証のエネルギー分野のスコアが10ポイント上昇しました。

プッツブルンとエルクミルズの工場もレベルアップし、エネルギー分野で100%を達成しました。両工場とも、ベースライン値に比べてエネルギー消費量を削減することに成功したからです。

エネルギーと炭素に関する国際的な取り組みに加えて、ローカルな取り組みも大幅なスコアアップにつながりましたが、検証の過程でいくつかの課題も浮き彫りになりました。

プッツブルン:「大気への放出」スコアが大幅にアップ

プッツブルン工場では、2019年は冷媒に関する報告が正確ではなく、大気のパフォーマンスの検証が不足していたため、大気分野のスコアは18%にとどまりました。2020年に2つの問題どちらも解決されたため、許可要件を上回って大気に関してより高いパフォーマンスを達成し、大気への排出を削減するため設備を刷新しました。これにより、大気分野のスコアが75ポイント上昇して93%に達しました。



The Higg Facility Environmental Module (FEM)

Higg FEMは、製造工場とブランドに、個々の施設の環境パフォーマンスの状態を知らせ、エネルギーや水消費量、大気への排出、化学物質の使用といったインパクトを評価し、サステナビリティ改善機会の特定とその優先順位付けを支援します。

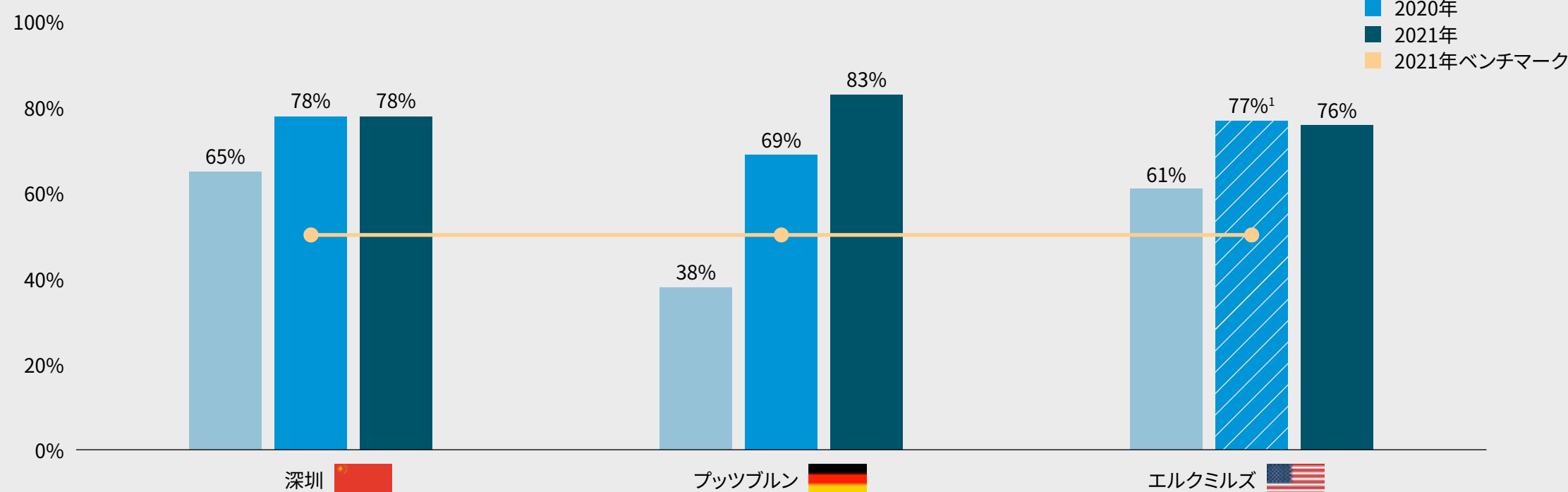
Higg FEMは、Higg Facility Toolsのひとつに位置づけられます。Higg Facility Toolsは、サステナブル・アパレル連合(SAC)が促進する、業界全体で活用できる一連のツールであり、社会的・環境的影響を施設が自己評価できます。

この標準化された評価は、グローバルバリューチェーンのあらゆる層における社会的・環境的改善に向けた、バリューチェーンパートナー同士の議論を促します。詳細は、<https://apparelcoalition.org/higg-facility-tools/> (英語) でご覧いただけます

Higg FEMの評価対象

-  環境マネジメントシステム
-  エネルギー消費量と温室効果ガス排出
-  水消費量
-  排水
-  大気への放出(該当する場合)
-  廃棄物
-  化学物質管理

2021年に実施されたファブリクス工場Higg FEM検証済み総スコア(報告年:2020年)



¹新型コロナウイルスの感染拡大により、エルクミルズの検証は遠隔で実施しました。上記グラフのエルクミルズのスコアは遠隔検証の結果に基づきます。

エネルギー分野の影響の拡大と、廃棄物・化学物質管理分野の一定程度の改善が相まって、総スコアが大幅に上昇し、全体として83%のパフォーマンスが得られました(右のグラフも参照)。

エルクミルズ:
全体的に安定したパフォーマンス

エルクミルズのファブリクス工場は、埋立ごみを減らすために、テキスタイル廃棄物の処理を見直すプロジェクトを実施しました。この取り組みが評価され、廃棄物分野のスコアが11%アップしました。

エネルギー・廃棄物分野の取り組みにもかかわらず、水の再利用とリサイクルの工程は、Higg FEMで上級と評価されるための要件を満たしませんでした。その結果、排水分野のスコアは前年と比べ後退しました。全体的には、エルクミルズ工場は環境パフォーマンスを維持し、全体として76%を達成することができました(次ページのグラフも参照)。

深圳: 水管理の改善

深圳の工場は、利用水量とアウトプットに基づく取水量のトレーサビリティを評価するために、第三者と連携して水バランスの管理を実施しました。そのため、水分野のスコアが20ポイント上昇しました。しかし、現地検証中に監査人が、有害廃棄物の保管に関していくつかの問題を発見しました。

全体的な廃棄物管理方法に制度的な課題は見られないことが確認されたものの、検証当日に認められた1件の問題から、保管状態がHigg FEMの有害廃棄物の処理に対する期待に沿うものではないことが示されました。そのため、前年に比べてスコアがダウンしました。エネルギー・水分野の成果によって、深圳工場は環境パフォーマンスを維持し、全体として78%を達成しました(29ページのグラフも参照)。

ゴアは、Higg FEMの助けを借りて環境パフォーマンスの継続的な改善を目指しており、今後も透明性ある形で進めていきます。3つのファブリクス製造全3拠点の最新のHigg FEM検証レポート(2019/2020)を、<https://www.gore-tex.com/sustainability/protect-the-planet> (英語)で公開しています。

HIGG FACILITY ENVIRONMENTAL MODULEレポート



このレポートは、施設に対するHigg Index環境評価の検証結果サマリーを示すものです。



ゴア ファブリクス・ディビジョン、
ドイツ(プッツブルン3)

2020

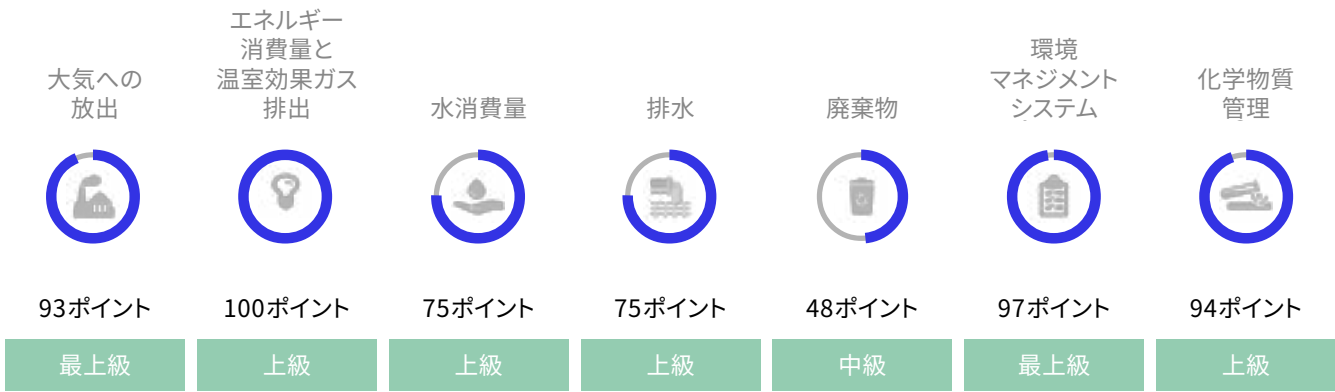
検 証

監査者

SGS – Bluesign



環境に対するインパクトの評価対象



ゴア ファブリクス・ディビジョンの
工場の評価と認証の状況

S

深圳

- ISO 14001 認証
- bluesign® システムパートナー
- Higg FEM 自己評価・検証済み
- Higg FSLM 自己評価・検証済み
- GRS 認証

P

プッツブルン

- ISO 14001 認証
- bluesign® システムパートナー
- Higg FEM 自己評価・検証済み
- Higg FSLM自己評価
- GRS 認証

E

エルクミルズ

- ISO 14001 認証
- bluesign® システムパートナー
- Higg FEM自己評価・検証済み
- Higg FSLM自己評価・検証済み



3つの質問

リザ・クレッツベルグ
ゴア ファブリクス、
サプライチェーン
サステナビリティチャンピオン(ドイツ)



Q: ゴア ファブリクス・ディビジョンの環境と化学物質の管理に対するアプローチにとって、Higg FEMはどれくらい重要なものですか？

リザ・クレッツベルグ(以下、LK): 私たちは環境と化学物質の管理に対して幅広いアプローチを行っていて、全工場がISO 14001認証とbluesign®認証を取得しています。FEMは、ベンチマークキング、透明性の確保、B2Bコミュニケーションのための重要なツールであり、このツールの活用方法は成熟し続けています。他の監査や認証によって指摘されたすべての要素に加えて、問題点を修正するアクションプランを通じて、改善の機会を得られます。

私たちは、FEMを単独で管理する代わりに、環境管理と化学物質管理に向けた全体的な戦略を維持しています。また、3つのファブリクス工場すべてに同じ基準を適用し、可能な場合はベストプラクティスを共有することを目指しています。

2021年には、炭素排出削減などの分野に重点的に取り組み、その進捗がHigg FEMの分野別スコアの上昇に反映されることが示されました。Higg FEM評価は毎年さらに進化し、常に改善すべき新たな分野を私たちに示してくれます。

2022年は、2023年に発表されるHigg FEMの抜本的な改訂に備える予定です。この改訂を受けて、私たちが今後も高いパフォーマンスを維持するためには、すべての分野で継続的な努力が求められるでしょう。

Q: ゴアの工場に重点を置いた取り組みに加えて、Higg FEMが上流サプライヤーでどう活用されているか、教えてください。

LK: 私たちは、世界の幅広いサプライヤーネットワークから生地素材を購入しています。私たちのビジネスのフットプリントを総合的に改善するには、こうしたサプライヤーのサステナビリティパフォーマンスの把握と監視を行い、これを高めるために連携することが欠かせません。

サプライチェーン・パートナーに関わるすべてのサステナビリティ要件は、契約に記され、2021年に私たちが導入した一連のロードマップに定められています。供給先となるビジネスユニットや、ゴア ファブリクス・ディビジョンとの現在の取引関係に応じて、これらのロードマップが各サプライヤーの指針となります。ロードマップは、サステナビリティに関する短中期的な明確な目標と優先課題に加えて、サステナビリティの今後の重点分野に関する長期的な見通しを示すものです。

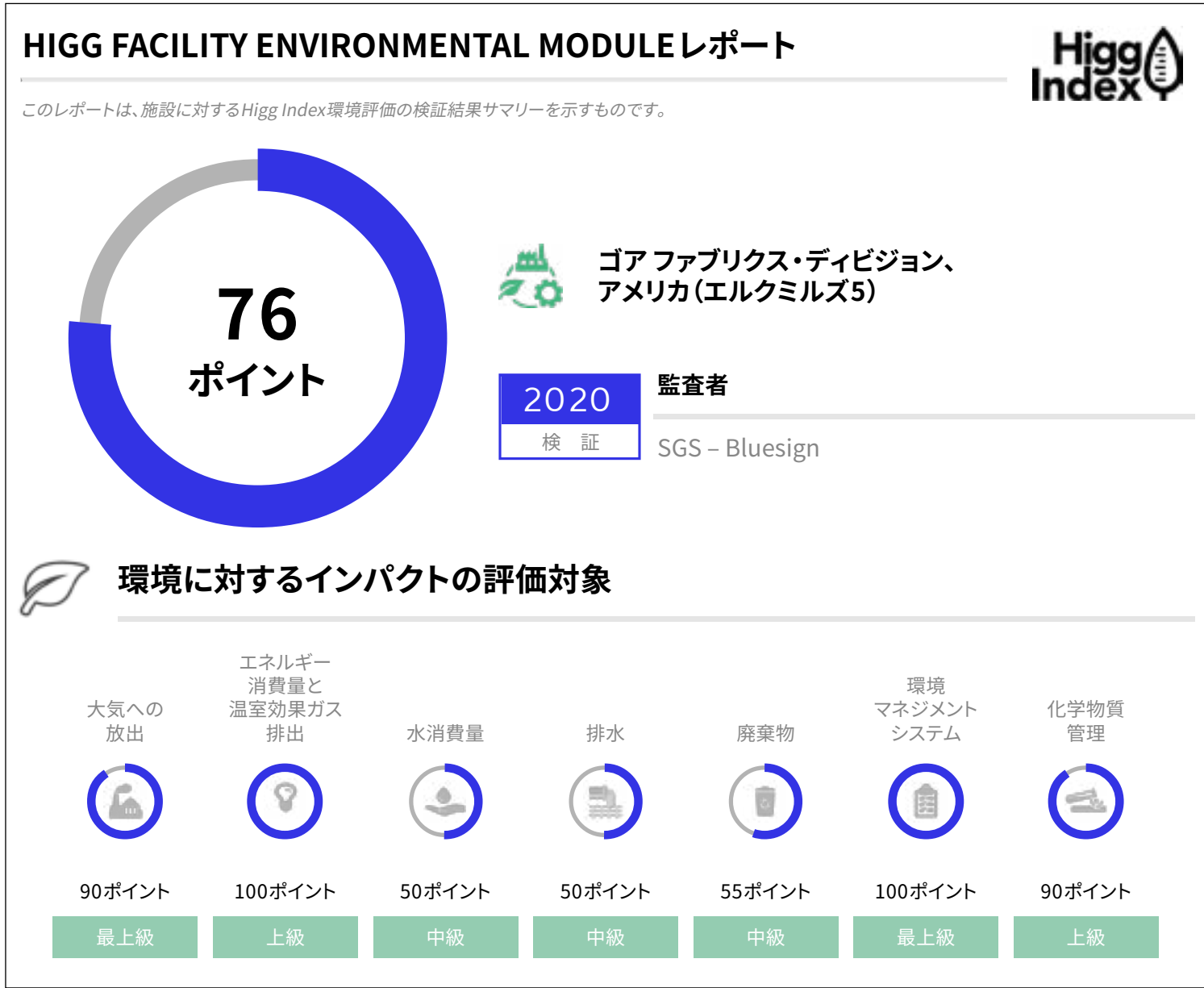
Higg FEM module検証の完了は、サプライヤーの大多数に適用されるロードマップに含まれる要件です。直接的なサプライチェーン・パートナーの大部分について、2022年にHigg FEM自己評価を必須要件として導入する予定ですが、取引額ベースでティア2に当たる上流サプライヤーの26%が、2021年に既に主体的にHigg FEM自己評価を完了しました。2022年には100%達成を目指しています。

Higg FEM moduleと並び、OEKO-TEX® STANDARD 100、GRS、社会的コンプライアンスに関しても期待水準を設けています。サプライヤーの多くは、ロードマップの期待水準を満たしますが、そこに達しないサプライヤーについては、明確な期限を設け、ギャップを解消するために協働しています。

Q: Higg FEMのような新たなサステナビリティ要件をバリューチェーンに導入する際、重要な要素は何だと思いますか？

LK: 第一に、上流サプライチェーン・パートナーはさまざまなカスタマーや業界からの多くの要件への対応を迫られていることを認識しています。テキスタイル産業として、サプライチェーン全体に共通するニーズと一緒に取り組むことが大切です。これをひとつの理由として、私たちは業界団体のメンバーとして積極的に活動し、調和のとれた共同的なアプローチを実現しようとしています。第二に、優先順位やスケジュール、共通の目標を明確にするために、コミュニケーションが重要です。

Higg FEMは良い例です。Higg FEMは、多くのブランド、リテラー、サプライヤーが求める環境パフォーマンスを測定するための業界全体のツールです。私たちは、非常に明確な要件を定めて、伝えています。大部分のサプライヤーについて、2022年には自己評価が、2023年には検証が必須要件になります。



ゴアのサステナビリティの歩みを
後押しする透明性

ゴア ファブリクス・ディビジョンと業界パートナーが、ビジネスの社会面と環境面のインパクトの把握に取り組み続けるなかで、サプライチェーンの透明性が新たに必要とされています。

簡単に言えば、透明性とは、ゴアがサプライチェーン・パートナーの所在地、製造工程、環境・社会的なコンプライアンス認証などの情報を、主要なステークホルダーと共有し、協働を促しアカウンタビリティを向上させることを指します。ゴアは、透明性の歩みの次の段階について報告できることを喜んでいます。

2021年に、ゴアは上流サプライチェーンに関連するデータ管理・報告能力を向上させるための社内的な取り組みに着手し、主なプロセスの定義と標準化を始めました。2022年の間に、サプライチェーンに関する重要情報をカスタマーと非公開で共有するための新たな報告機能を初めて導入する予定です。

加えて、糸や生地を生産工程を含む上流サプライチェーンを確実に把握するための試験的な取り組みも開始します。この取り組みは、ゴアが責任ある形で生産される製品を今後も生み出し続けるために不可欠であり、ゴアの「スコープ3」のカーボンフットプリントを削減する機会を見つける上でも役立つでしょう。

3つの質問

クレイグ・リンデマン

ゴア ファブリクス、
サステナビリティ テクノロジスト
(アメリカ)



Q: クレイグ、アパレル産業の透明性の未来について、どう考えますか？

クレイグ・リンデマン(以下、CL): 私の考えでは、このトピックの発展は大きなチャンスです。アパレル産業がたどってきた透明性の歩みはもっぱら、社会面・環境面のリスクの低減と、環境へのインパクトのより正確な推計に後押しされたものでした。

今後は、透明性からトレーサビリティ、つまりバリューチェーンを通じて製品を確実に追跡する能力に移行します。その過程で得られる情報を通じて、アパレル業界は、現在のパラダイムに含まれる数種類の「廃棄物」を削減しつつ、さらに十分な情報に基づく決定を行い、ネットワーク化されたはるかに効率的な形でグローバルバリューチェーンを運営できるはずです。

過去を振り返ると、経営学者ピーター・ドラッカーも「測定できるものは、管理できる」という言葉を残しています。この言葉を借りれば、私たちは透明性という尺度に基づき、バリューチェーンの測定を始めたばかりです。ですから、業界による測定・報告能力の向上に伴って、社会、環境、ビジネス面のパフォーマンスを大きく高められるチャンスがあります。

Q: 透明性を高めるための課題は、何ですか？

CL: いくつか指摘すべき点があります。ひとつは、この手の作業にはバリューチェーン全体の強固なパートナーシップが必要であることです。最初はためらいもあるかもしれませんが、私は楽観的に考えています。こうした情報の共有を通じて、バリューチェーンのすべての参加者が連携し、より

正確な予測を行い、その他のメリットを手にするチャンスが増えることに、やがて気づけるでしょう。透明性を高めるために、共有する方法を見つける必要があります。

ふたつ目は、データの調和に関連します。今は色々な意味で、かつての社会的責任監査と同じ状況が再現されているように感じます。データ収集に必要な内部システムが整備されていない、多様なプレイヤーのニーズに対応するためのサービスプロバイダーが続々と登場している、どんな情報がどんな形で必要かについての共通の合意がない、といった問題が生じているのです。

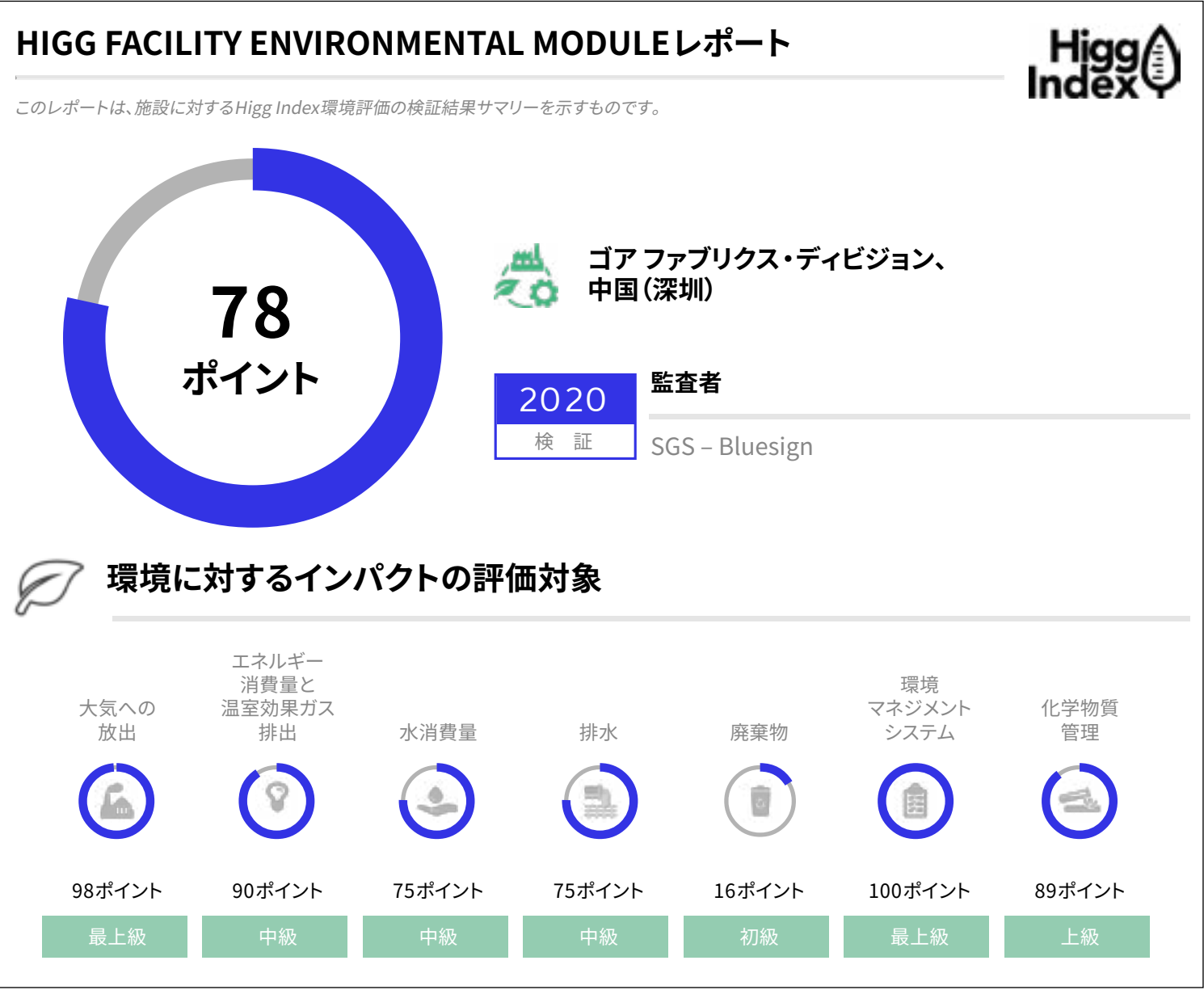
同じ情報をいくつものプラットフォームに手作業で入力してほしいという依頼に、工場が忙殺されないように、多様なデータサービス間の相互運用性を確保する方法を見つける必要があります。

Q: テクノロジストとして、サプライチェーンの透明性向上プロジェクトに携わった印象はどうでしたか？

CL: 今の仕事で気に入っている点は、サプライヤーと協力できることです。社内のサプライチェーンチームと連携するチャンスを持ててうれしかったです。加えて、ゴアのテクノロジストとして、基本的に私の仕事は担当プロジェクトのSME(内容領域専門家)を務めることです。ですから、プロジェクト管理の面に集中して、サプライチェーンの専門家から学べるのは本当に新鮮でした。

透明性は、アパレル業界が責任ある製造を行うために必要とする、アカウンタビリティの重要な要素です。また私は透明性を、刺激的な新製品の創造につながる、強い協働的パートナーシップに欠かせない要素ともみなしています。

クレイグ・リンデマンは、自称「生地マニア」にして創造性あふれる雑学博士、アパレル業界の素材の変革を熱烈に支持するサポーターです。ノースカロライナ州立大学で繊維化学の修士号を取得、Under Armourとゴアで、テスト手法・素材の開発、製品評価、サプライチェーンとの連携に15年近く携わった経験を持ちます。現在のポジションでは、ファブリクス・ディビジョンのためにサステナビリティや外部技術の調査を広く手がけています。



ファブリクス工場の社会的コンプライアンスの検証を続ける

ゴア ファブリクス・ディビジョンは、Higg Facility Social & Labor Module (FSLM)を用いて、製造拠点の社会条件と労働条件を評価しています。評価の対象は、雇用慣行、社会的コンプライアンス管理システム、人々とコミュニティへのエンパワメントにわたります。

Higg社とサステナブル・アパレル連合 (SAC) は、2020年末にHigg FSLMのスコア化バージョンを発表しました。新たなHigg FSLMバージョン1.4を用いて、施設の社会・労働面のパフォーマンスの概要を把握できます。新たな採点システムで過去年度のスコアも算出できますが、ツールに質問が追加されるなど、内容が改訂されているため、最新のスコアを過去年度のスコアと比較することはできません。

下のグラフは、深圳 (中国) とエルクミルズ (アメリカ) の製造拠点のHigg FSLM検証済みスコアを示すものです。総スコアと、Higg FSLM改訂版の3つのステップに含まれる全

項目の個別スコアを示しています。

プッツブルン工場 (ドイツ) のスコアは、ここには記載していません。プッツブルン工場は2021年にはHigg FSLM自己評価しか実施しておらず、SACのガイドラインでは、自己評価結果をHigg FSLM検証済みスコアと併せて発表することはできないからです。ただし、Higg.orgを使用しているゴアのビジネスパートナーは、Higg.orgからプッツブルン工場のHigg FSLM自己評価結果にアクセスできます。

Higg FSLM改訂版を使って、ゴアの工場のパフォーマンスを他の施設と比較することもできます。

とを示していますが、項目別スコアでは、特に管理システムなど、一部の分野にギャップが見られます。人々とコミュニティへのエンパワメントに関しても、改善の余地があります。



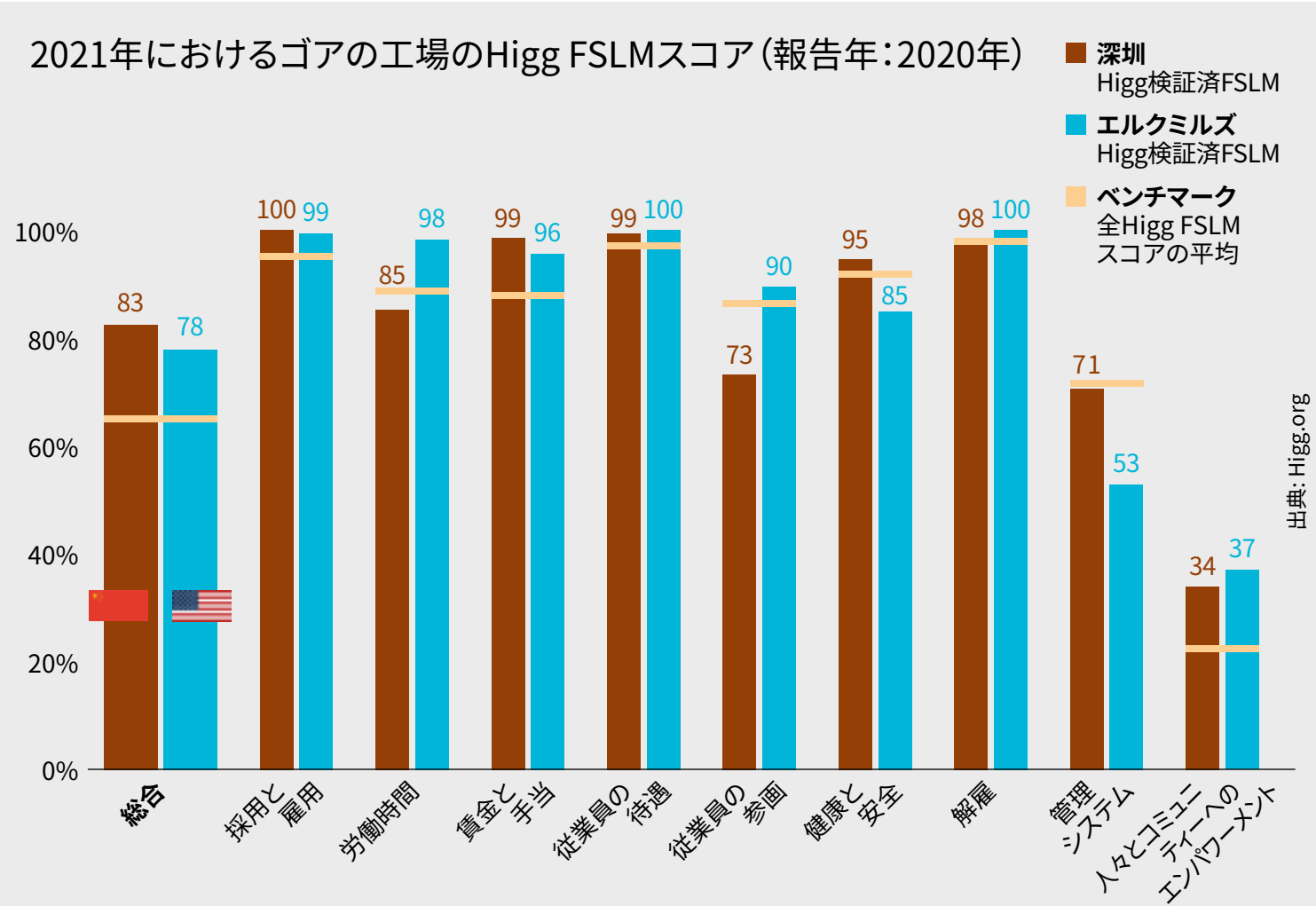
FLAの職場規範・ベンチマークに基づき、深圳工場
パイロットプロジェクトを実施

ファブリクス・ディビジョンは、業界で最も高度な基準のひとつに基づき社会・労働面のパフォーマンスを評価するために、2021年に公正労働協会 (FLA) と連携して深圳 (中国) の工場
パイロットプロジェクトを実施しました。

このプロジェクトを通じて、ゴアは、自社による社会的コンプライアンス評価レポートを、FLAの職場規範・ベンチマークと対応づけると同時に、FLAによる「ティア2」評価手法の探求を後押しすることも目指しています。

このプロジェクトは、FLAのソフトウェアパートナーであるFair Factories Clearinghouseの支援を受けて、FLAのサステナブル・コンプライアンス・イニシアチブ (SCI) ツールを使用して実施されます。FLAの認定評価者は、本格的なSCI評価は行いませんでしたが、SCIツールを活用して、深圳工場のコンプライアンス関連情報の一部について評価しました。

この結果を通じて、FLAの規範とコンプライアンスベンチマークに基づき、社会的コンプライアンスに関するゴアの方針や手続きにギャップがある可能性を明らかにできるのではと、期待しています。ゴアは、多くのFLA加盟企業の「ティア2」サプライヤーです。GORE® WearやSitka® Gearなどのブランド名で展開しているゴアの消費者直接取引 (DTC) ビジネスは、公正労働協会の会員です。



Higg Index Sustainable Apparel Coalition

Higg Facility Social & Labor Module (FSLM)

Higg FSLMは、バリューチェーンで働く人々のために、安全で公正な社会条件と労働条件を促進します。工場はスコア化された評価システムを使用して、要注意箇所を把握し、監査の複雑さを解消できます。

Higg FEMと同じように、Higg FSLMは業界全体で活用できる一連のHigg Facility Toolのひとつです。サステナブル・アパレル連合 (SAC) がこのツールの導入を促進していて、工場は社会・環境面の影響を評価できます。

詳細は、
<https://apparelcoalition.org/higg-facility-tools/>
(英語) でご覧いただけます。

Higg FSLMの評価対象

ステップ1: 基本

- 採用と雇用
- 労働時間
- 賃金と手当
- 従業員の待遇
- 従業員の参画
- 健康と安全
- 解雇

ステップ2: 発展

- 管理システム

ステップ3: 上級 (さらなる貢献)

- 人々とコミュニティへのエンパワメント

下流・上流サプライチェーンの サステナビリティを推進するGSRプログラムを継続

ゴアの「社会的責任に関するガイドライン (GSR)」プログラムは、一般消費者およびプロフェッショナル向けアパレルとフットウェアの製造に携わる人々に対する、良好な労働条件の確保を促すものです。ファブリクス・ディビジョンは2021年も、バリューチェーンパートナーへの関与を続け、下流サプライチェーンの労働条件をさらに改善し、上流サプライチェーンのコンプライアンスを高めるために認定工場と連携しました。

ファブリクス・ディビジョンの下流サプライチェーンには、60カ国近くに及ぶ数百の工場が含まれます。現在、100万人以上がゴアのファブリクステクノロジーを用いたジャケットやシューズの製造に直接または間接に携わっています。これは、多くの機会と課題を同時に提供するものです。

2015年、ゴアは、ゴアのサプライチェーンで最も労働集約的な部分である切断・縫製・組立工場などの認定工場の課題を解決するために、ゴアの「社会的責任に関するガイドライン (GSR)」を策定しました。

ゴア認定工場

すべての工場は、GORE-TEX製品の製造に先立ちゴアから認定を受けます。社会的コンプライアンスの要件を遵守することが、認定を受ける工場となる前提条件のひとつです。認定後もゴアは、工場の所在地、製品の種類、これまでのパフォーマンスに基づき、社会的コンプライアンスの要件に関連して工場への定期的な働きかけを続けます。

グローバルな社会的コンプライアンスの評価

2021年、ゴアは世界の200以上の工場の社会的コンプライアンスのパフォーマンスを評価しました。適正な賃金、従業員エンゲージメント、苦情処理メカニズムに加えて、従業員のウェルビーイングを直接損なうおそれがある健康・安全面の課題などの重要なトピックについて、工場と緊密に連携しました。課題を把握し、現地のステークホルダーやコンサルタントと協力して持続可能な解決策を策定するために、工場との協力を続けます。

上流サプライチェーンへの 社会的コンプライアンスの定着

自社製造拠点での取り組みや認定工場との連携に加えて、ファブリクス・ディビジョンは2021年、上流サプライチェーンの適正な評価を強化するため、重要な措置を講じました。



ゴアはこれまで、高いリスクが疑われる場合は必ず、上流サプライチェーンの労働者を守り透明性を確保するためにさらなる措置を導入してきました。

2021年には、直接的な生地サプライヤーを対象とするツールの策定を開始しました。たとえば、ゴアのサプライヤー研修用の調査票を改訂し、サプライヤーの方針や行動規範に関する情報など、社会的コンプライアンスに関する基本的な質問を盛り込みました。



ツール、トレーニング、 コミュニケーションを通じて期待を明確化

ゴアは原材料調達契約を改訂し、強制労働の禁止に関連する期待を強い言葉で表現しました。さらに、すべてのサプライヤーに対し、ゴアの「社会的責任に関するガイドライン (GSR)」に沿った契約を義務づけ、公正な労働関連のトピックに関するサプライチェーン担当者の知識を増やすためにトレーニングを実施しました。

来年は、社会的コンプライアンスの要件を一層効果的にサプライヤーに伝えるための対策を講じる予定です。

社会的責任に関するガイドライン

ゴアのGSRは、バリューチェーン全体において、一般消費者とプロフェッショナル向けGORE-TEXアパレルやフットウェアの製造に携わる人々の労働環境基準を明確化し、その指針を提供することを目指します。バリューチェーン全体で労働条件の公正と安全を徹底するという目標は、ゴア単独で達成し得ないことから、ファブリクス・ディビジョンは着実にビジネスパートナーの関与を高めることを目指して、GSRプログラムを開発しました。

ゴアのGSRプログラムの詳細は、
www.gore-tex.com/sites/default/files/assets/GoreFabrics_GSR_Guidebook.pdf
(英語)でご覧いただけます。



? 3つの質問

エブレ・ケイナック
ゴア ファブリクス、
ソーシャル レスポンシビリティ
チャンピオン(アメリカ)



Q: 社会的コンプライアンスに関して、ゴアが直面している最大の課題は何ですか？

エブレ・ケイナック(以下、EK): 素材メーカーにして材料ブランドでもある私たちは、他社と比べてサプライチェーンの中で独自の位置を占めています。伝統的に、ブランドやメーカーの社会的コンプライアンスは、調達先である直接・間接的なサプライヤー施設での適正な評価の実施を目指すものです。そのため、ブランドやメーカーは、顧客としての自身の立場を活用できます。ゴアの場合、GORE-TEX

製品を生産する製造拠点(すなわち下流サプライチェーン)と、私たちの直接・間接的なサプライヤー(上流サプライチェーン)の両方と協力する必要があります。

下流サプライチェーンの労働集約的な性格から、私たちはこれまで、サプライチェーンの下流部分に労力を注いできました。これは、世界各地に点在する多数の「ティア1」のガーメント、フットウェア工場との連携を意味します。

この場合、私たちはこれらの工場の顧客ではありませんが、GORE-TEX製品と関わるすべての労働者が公正な扱いを確実に受けられるように、私たちはゴアの価値観とブランドプロミスであるTogether, improving life(共に、生活を向上させる)を活用しています。

我々のカスタマーの多さや、世界十数カ国に広がる多くのガーメント、フットウェア工場を考慮すると、これは容易いことではありません。ゴアの各チームが、膨大な時間と労力を費やす必要があります。

同時に、カスタマーとの関係に緊張を強いる可能性もあります。それでも私たちは、このプログラムは取り組む価値があると信じています。

Q: 規制当局や、メディアやNGOを含む他のステークホルダーは、世界の Apparel 産業に関わる労働者の権利をますます注視するようになっています。これがゴアにどう影響しますか？

EK: 特に現代の奴隷や強制労働に関連して、昨今の労働条件に広く見られる課題を考えると、世間から厳しい目が注がれるのも意外ではありません。新型コロナウイルスの感染拡大により、多くの問題が一層切迫したものになりました。

サプライチェーンの適正な評価に関する新たな規制は、労働時間、生活賃金、健康・安全、差別などの幅広い課題を対象としています。加えて、これらの規制により、企業はバリューチェーン全体に対する責任を負います。トピックの種類

や対象となるサプライチェーンの領域といった意味で、企業が説明責任を負う範囲がはるかに広いだけでなく、適正な評価の枠組み、リスクの影響度、パフォーマンスについて企業が報告を行う義務もあります。

こうした規制は主に、上流サプライチェーンにおける適正な評価への取り組みの加速と、透明性という、2つの分野で私たちの活動に影響を与えるでしょう。私たちは既に、HIGGのツールとプラットフォームを通じて、自社製造拠点の社会的コンプライアンスのパフォーマンスについては、企業間取引の透明性を確保しています。

けれど新たな規制は、企業に対し、自社施設だけでなくサプライヤーの労働慣行についても、可視化を求めています。従って、私たちは取り組みを強化して、ゴアの従業員とサプライヤーの従業員の労働条件に関し、さらに詳しい情報を収集し共有する必要があります。

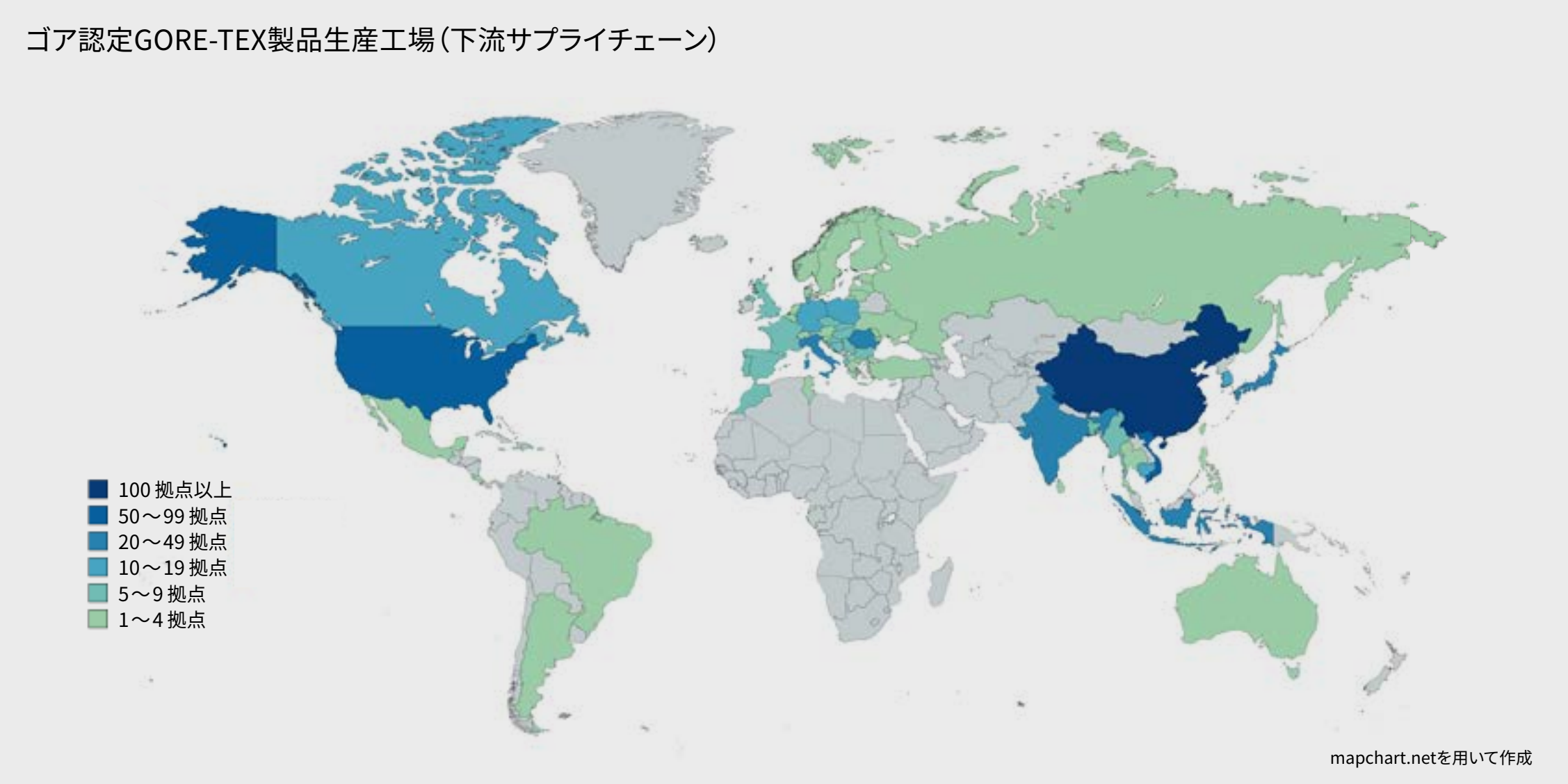
Q: 今後5年間に目を向けると、社会的コンプライアンスの見通しはどのようなものですか？

EK: 公正で安全な労働条件に関わるトピックは、年々さらに複雑になり、業界は新たな課題と向き合っています。私たちは2021年も、新型コロナウイルスの感染拡大がサプライチェーンと労働者に与える負の影響に対応しようと試みました。

強制労働と人権の適正な評価をめぐる新たな規制によって、サプライヤーが、リテーラーやブランドから署名を求められるコンプライアンス関連の書類が、さらに増えるだけになってはいけません。対等なパートナーシップと有意義な関与が必要です。書類仕事の増加といった形で、「画一的な」適正評価を行うことは、避ける必要があります。

Apparel 業界は、より総合的な視野で検討を始め、この課題に誠実に向き合い、労働条件を改善するためともに前進しなければなりません。

エブレ・ケイナックは、2015年6月にソーシャル・レスポンシビリティ・プログラムのチャンピオンとして、ゴアに入社しました。ゴアのバリューチェーン全体で公正な労働条件を確保するために、分野横断的なチームと連携してきました。ゴアに入社する前は、世界の500以上の工場で評価を実施し、公正労働協会の認定主任監査人兼コンサルタント、Esprit GmbHの地域社会・環境担当マネージャーを含むさまざまなポジションで、労働条件の改善に向けた多様なプロジェクトに携わりました。



ゴア ファブリクス・ディビジョンのバーティカルビジネスユニットが、社会的コンプライアンスへのコミットメント強化

2021年、ゴアの消費者向け製品ブランドであるGORE® WearとSitka® Gearは、社会的責任プログラムに関して幅広い有益な展開を行いました。両ブランドは、サプライチェーン全体で共通の社会的基準と労働環境基準を維持し、公正労働協会（FLA）の労働環境規範を採用しています。両ブランドのサプライヤーは、この基準・規範を守ることを義務づけられています。

GORE® WearとSitka® Gearは、2021年にサプライヤーの監査に使用する社会的コンプライアンスのベンチマークを改訂しました。新たなベンチマークは、業界の進化するニーズに対応するために、2020年10月にFLAが承認したものです。このベンチマークには、人材紹介会社や他の仲介業者の責任、差別からの保護の強化、ジェンダーに基づく暴力やハラスメントの撤廃、結社の自由の保証、試用期間中の労働者・研修生・実習生の要件の明確化、さらに広くはベンチマークの内容の明確な体系化などが含まれます。

FLAの労働環境行動規範とコンプライアンスベンチマークの詳細は
www.fairlabor.org/sites/default/files/fla_workplace_compliance_benchmarks_rev_10.2020.pdf
(英語)でご覧いただけます。



アメリカアパレル・フットウェア協会 (AAFA) と公正労働協会のコミットメントに参加

ブランドを越えてサプライチェーン全体で同じ価値観と基準を支持していることを示す例として、Sitka® Gearは、先に立場を表明したGORE® Wearに続いて、「アパレル・フットウェア産業の責任ある採用へのコミットメント」に参加しました。このコミットメントは、アメリカアパレル・フットウェア協会 (AAFA) が、公正労働協会とともに発表したものです。

このコミットメントを通じて、ゴアは、サプライチェーン全体において、労働者は雇用手数料を負担せず、パスポートを自身で管理し、完全な移動の自由を確保されるものとするを、明言しています。さらに、すべての労働者に採用前に基本的な労働条件を通知するものとします。



公正な報酬のための作業計画

FLAがグローバルサプライチェーンにおいて公正な報酬を実現するための取り組みを展開したため、GORE® WearとSitka® Gearは、先を見据えて積極的な参加を表明しました。消費者直接取引を行う両ブランドは、2021年に、生産量の約70%を担うサプライヤー9社を対象に、第1回となるベースライン賃金データの収集を終えました。第1回の調査結果に基づき、バーティカルビジネスユニットは、FLAの指針に沿って「公正な報酬ブループリント」と題した作業計画を策定しました。

初の一般向けの施策として、バーティカルビジネスユニットは、採用している基準、意欲的な目標、実施している措置、今後の計画を詳しく記した「公正な報酬へのコミットメント声明」を発表しました。

声明では、ゴア単独ではこのコミットメントを実現できないこと、そして公正な報酬を達成するために製造パートナー、労働者の代表、他社ブランド、地方自治体、市民社会団体、マルチステークホルダーによるイニシアチブが積極的な役割を果たすよう期待していることを認めています。



公正労働協会 (FLA) とは？

公正労働協会 (FLA) は、世界の労働者の権利の保護に注力する、大学や市民社会組織、社会的な責任を負う企業による協働的な取り組みです。米国のクリントン大統領が1996年に提唱したこの国際組織は、1999年に正式に設立されました。ワシントンに本部を置き、中国とスイスに事務所を設置しています。

FLAの活動は、特定の地域や業界のみに限られません。世界的に展開し、農業、テクノロジー、アパレル、フットウェアなどの業界に好影響を生みだしています。FLAは企業に対して、自社製品の製造を行うすべての場所において、国際的に認められた労働基準を自主的に守る責任を負わせています。FLAは、以下を提供しています。

- 市民社会組織、大学、社会的な責任を負う企業が、労働問題に対する効果的な解決策をともに見出すことを可能にする、協働的なアプローチ。
- 企業によるコンプライアンス体制の改善を支援する戦略と資源。
- 透明性ある中立的な評価（結果はオンラインで公表されます）。
- 労働者の権利の最も重大な侵害に対処するための、第三者による苦情処理手続き。

詳細は、www.fairlabor.org (英語)でご覧いただけます。

インタビュー

ライアン・マクガリー
ゴア ファブリクス、
バーティカルビジネスユニット、
サプライチェーン&マテリアルズリーダー（アメリカ）



Q: ライアン、あなたはサプライチェーンで長いキャリアを積んできました。社会的責任は、あなたの長期的な判断と日常的な意思決定に、どんな役割を果たしていますか？

ライアン・マクガリー（以下、RM）: 私は常に、今までに出会った人や文化、経済、習慣の理解に努めることで、グローバル市民としての責任に目を向けようとしてきました。こうした経験のおかげで、「市民」としての役割を一層深く理解できました。私たちは、同胞である人類や地球に対する責任として、敬意をもってできる限り状況を改善すべきです。

ゴアは常に、パーパスに導かれた組織でした。私たちは先ごろミッションを見直し、大いなる善のため貢献する——Together, improving life（共に生活を向上させる）という明確なコミットメントを掲げました。サプライチェーンに関わる私たちの仕事への正しい向き合い方として、これは非常に共感できる言葉です。

私たちのビジネスでは、定期的な日常業務の一部に思える決定が瞬間に積み重なって、長期におよび（おそらくは想定外の）結果をもたらすことがあります。広義の社会的なコミットメントを常に意識することで、ささいな決定も市民に対する総合的なコミットメントに確実に沿った形で行うことができます。やがてはそれが、共に生活を向上させるためにサプライヤーや連合体、協会とのパートナーシップを検討する際に、長期的な戦略を改めて重視していくことにつながります。

Q: アパレル企業が社会的責任へのコミットメントや基準を守る上で、今の最大の課題をあげるとすれば、何だと思いますか？

RM: すべてのアパレル企業が、ゴアが創業以来ミッションのひとつにしようとしてきた社会的責任の諸課題に対するコミットメントを、掲げているわけではありません。とはいえ、この問題への関心が高まり、熱心に取り組んでいる企業でさえ、時には速やかな軌道修正を迫られています。

たとえば過去1年間に、世界各地の政府は強制労働の防止に対する制限を強化しました。これは、アパレル業界が独自に実施してきた措置よりはるかに強力な行動であり、業界全体の上流サプライチェーンの透明性が大幅に欠如していることが判明しました。

そのため、業界の多くの関係者は、こうした制限への対応をせまられ、成功の度合いに差はあるものの、速やかにビジネスの方向転換をはかりました。

Q: そうした課題に対処し、未来に備えるために、バーティカルビジネスユニットは何をしていますか？

RM: バーティカルビジネスユニットは、チームとして社会的責任へのコミットメントに乗り出すことで、この課題を乗り切る決意をしました。このコミットメントがリーダーシップチームの重要なトピックになり、公正な労働慣行に関わる計画の推進については、大きな進展を遂げました。

公正労働協会との連携を通じて進展が促され、私たちは、サプライチェーンにおけるベトナムの労働慣行への理解を深め、市民社会組織との協力を計画しようと取り組んでいます。私たちは、他のサプライヤーとの関係にも活用できそうな労働慣行を守っている、緊密な主要サプライヤーグループとのつながりを重視しています。

Q: ライアン、あなたは社会的責任と環境サステナビリティに関わる部門を統括していますが、ご自身はそれよりはるかに幅広い役割を担っています。ゴアが、社会・環境面のコミットメントと基準を守り続けるためには、どんなパートナーシップが必要だと思いますか？

RM: 社会・環境面のコミットメントを維持し改善する上で、デジタルパートナーシップが不可欠になっています。た

とえばデジタルパートナーのおかげで、ゴアのアソシエートと工場経営者の間のコミュニケーションを促し、透明性を高めることができました。工場経営者は、労働者と製品生産の大部分を監督しているため、連携に欠かせない重要なポイントです。

情報収集に関しても改善を行い、時間と資源を節約できています。私たちは、サプライチェーン全体のパートナーシップを通じて、これらを含む取り組みをさらに推進し、デジタルを使いこなせるデータ志向の組織になることを期待しています。

Q: バーティカルビジネスユニットが実施する社会的責任に関する活動や展開のうち、あなたが胸を張って自慢できるものは何ですか？なぜそれが重要なのですか？

RM: 今年は特に、「公正な報酬ブループリント」を作成して推進し、「公正な報酬へのコミットメント声明」を発表したことを、嬉しく思います。おかげで全く新たな次元でパートナーに関わることができ、サプライヤーがどの分野で目標を達成し、どんな点で改善が必要かを可視化できています。

この新たなインサイトから、サプライヤー全体で共有できるベストプラクティスやテクニックに関する興味深い対話が生まれました。私たちのサプライチェーンが業界全体のベースラインと遜色ない水準にあり、大きな修正が必要ないことを示す詳細な情報があること、さらには、引き続き監視、共有、改善が続けられると分かっていることも、心強いものです。

ライアン・マクガリーは、2019年6月にバーティカルビジネスユニットのサプライチェーンリーダー（SITKA® Gear、GORE® Wear、VIEV）としてゴアに入社しました。以来、ビジネスユニット内でマテリアル&イノベーションとシェアードデジタルのアソシエートの指導にも尽力してきました。プロフェッショナルとして30カ国以上を訪れ、ゲームント、ファブリック、アクセサリー、フットウェア業界の100以上のサプライヤーの工場に足を運びました。

機会を探る



ゴアが新たなジャケットブランドを発表、VIEVのAxiomが「毎日を豊かに」

2021年、ファブリクス・ディビジョンのバーティカルビジネスユニット（VBU）は、人と地球を守る新たなタイプのプレミアムジャケットを提供する新たなブランドを設立し、未来を先取りする前向きな発想で問題を解決できることを示しました。

ゴアのDTCビジネスのひとつであるVIEVは、実験精神に富む未来志向のアソシエートの手で発案、構想、設計されました。VIVEという名前は、ゴアの真髓であり共同創業者の故ジェネヴィーヴ（ヴィーヴ）・ゴアにちなんだものです。ヴィーヴは、科学的な先進技術を基盤とするゴアという企業に、情熱を注ぎ魂を傾けました。

VIEVは、防水性と透湿性を備えたアウターウェア用GORE-TEX ファブリクスを、衣料品として欠かせないジャケットにしたものです。さらに、ファブリクスのもうひとつの進化であるGORE-TEX Proも採用しています。これは、防水性のあるメンブレンに伸縮性のあるレイヤーを貼り合わせ、より自由な動きを可能にする特別なストレッチテクノロジーです。

ゴアは、誰もが環境へのインパクトに対し責任を負い、人生を素晴らしいものにすると同時に、消費者ごみをめぐる社会的慣行の見直しを目指すべきだと考えています。そのため、過剰な消費をなくし人生をより良いものにするためにも、VIEVが設立されました。

そこでVIEVは、趣味や仕事などあらゆるシーンで着用できるジャケットをデザインしました。VIEVのコンセプトに基づき、ゴアは、「一つ買えば一つ無料」に代わり「一つ買ってたくさんリサイクル」という考え方を広めたいと願っています。所有するモノは減らし、より豊かな経験をするのです。

詳細は、www.vievlife.com/the-jacket（英語）でご覧いただけます。



北米でファブリクス・ディビジョンの女性をサポート

ゴアは地球を守るだけでなく、世界中のアソシエートを含む人を守る責任も真摯に受け止めています。ゴアの社会へのインパクトを強め、アソシエートのエクスペリエンスを改善するための継続的な取り組みの一環として、ファブリクス・ディビジョン内の多様性・公平性・包摂性 (DE&I) に関わる課題への対処が、2021年の重点分野になりました。



インタビュー

ダニエル・アザルチ
ゴア ファブリクス、
新製品開発エンジニア
(アメリカ)

Q: 二人とも技術系の背景をお持ちですが、この分野は男性比率が高いと思います。ゴアのようなテクノロジー志向の企業で女性として働く経験は、どのようなものですか？

ダニエル・アザルチ (以下、DA): 大学を卒業後すぐゴアに入社した私は、基本的に部署で一番若く、たいていは唯一の女性でした。自分が「よそのもの」だと感じるのは女性だからなのか、それとも、30年以上のキャリアがある他のアソシエートと比べて経験が浅いせいなのか、見極めるのはむずかしいです。

自信をもって発言できるまで時間がかかりましたが、今は、私のアイデアや視点を同僚も尊重してくれます。私が初めてチームに加わった当時は、約15人のうち女性は2人だけでした。今は、同じチームのほぼ50%が女性です！

GROWとは何か？

GROWは、Gore Reaching Out to Womenを略したもので、アソシエートがゴアの一員になるために利用できる多くの多様性・公平性・包摂性 (DE&I) アフィニティネットワークのひとつです。

GROWは、女性を自認する人のための多様で公平でインクルーシブな環境づくりに取り組むアソシエートによって設置され、維持されています。

GROWは、専門能力の開発と個人的な成長を通じた、女性や女性を自認する人のエンパワーメントとエンゲージメントに重点を置くグローバルな取り組みです。



ミッシェル・レッキントン
ゴア ファブリクス、
プロダクトサポート
(アメリカ)

ミッシェル・レッキントン (以下、ML): 会議に参加すると、部屋にいる女性は自分だけということも多く、特に若い頃は気後れしたり、「インポスター症候群」のように自信を失うこともありました。次第に自分を信頼し、自信を持てるようになりました。素晴らしいチームの一員として、長年にわたりテクノロジー分野の男性の同僚からサポートや励ましを受けられて嬉しく思います。

Q: どうして、通常の業務に加えて、GROW工場代表というコミットメントを担うことにしたのですか？

DA: プロジェクトチームで唯一の女性となったので、同じような経験をしているエンタープライズの他の女性とつながりたいと考えて、GROWに参加しました。工場の代表になろうと決めたのは、同じ工場の他のアソシエートが、もし部屋で「たったひとりの」女性という立場にあるなら、勇気を与えられるようなイベントを開催したいと考えたからです。

ML: 私は以前からGROWネットワークに興味があり、工場で行ったイベントに参加した経験があります。当時の工場代表が、私を気づかい連絡してくれたのです。その代表が異動することになり、誰か手伝ってくれる人を探していました。以来、GROWの工場代表を務めています。

Q: 2021年にはファブリクス・ディビジョンで、GROWのどんな活動を主導しましたか？

DA: 昨年は、ファブリクス・ディビジョンのために北米で一連の「リーン・イン・サークル」を開催しました。各工場の代表が、アメリカ国内の全ディビジョンでこの活動を展開しました。

リーン・イン・サークルは、ジェンダーを問わず全アソシエートが参加できる少人数のグループです。定期的に集まってサポートし合い、互いから学んで新たなスキルを習得します。

ファブリクス・ディビジョンのリーン・イン・サークルは、6～8人の異なる部門のアソシエートから構成され、8カ月間、月1回集まりました。このグループを通じて信頼が芽生え、個人的な経験や意見を気軽に打ち明けられました。ファブリクス・ディビジョンの1回目のリーン・イン・サークルには全部で50人のアソシエートが参加しました。2022年初めに次のサークルを立ち上げるのが楽しみです！

サークルの終了後には、参加者から、安全に話し合える場を提供してくれたことへの感謝や、女性と多様性に関するトピックに関わる機会が今後も欲しいというフィードバックが寄せられました。2022年もアソシエートを巻き込んで、イベントを企画するのを楽しみにしています。

リーン・イン・サークルとは？

リーン・イン・サークルは、シェリル・サンドバークが設立した会社Lean Inに由来します。この会社は、企業が、あらゆるアイデンティティの女性がサポートを受け挑戦できるインクルーシブな職場を作るために、教育用の資料を提供しています。詳しくは、 <https://leanin.org/> (英語) でご覧いただけます。

Q: ジェンダー平等を推進するために、ファブリクス・ディビジョンには他にどんな課題や機会がありますか？

ML: ゴアは毎年、アソシエートがTogether, improving life (共に生活を向上させる) というプロミスをどう経験しているか把握するために、カルチャーサーベイ (職場環境に関する調査) を実施しています。この調査は、他のトピックに加えて、多様性と包摂性に関わる個人の経験を共有する場にもなっています。

アメリカのGROW代表は、カルチャーサーベイの結果の要約を見ました。そしてこの機会を利用し、私たちは来年のプログラム策定の参考と指針にするために、自分たちの工場の結果を詳しく検討しました。ファブリクス・ディビジョンの北米地域では、いくつかの分野で男女の経験に大きなギャップがある可能性が示されていることに、気づきました。

GROW代表として、私たちはこのデータに基づき行動を起こす責任は負いません。けれど、ディビジョンのリーダーシップに対して、このトピックを取り上げる責任を感じました。

ファブリクス・ディビジョンのウイメンズ・インクルージョン・カウンスル代表と少人数で面談し、カルチャーサーベイの結果に加えて、このディビジョンでの女性としての私たちの個人的な経験を伝えました。現在は、多様性・公平性・包摂性に関するイニシアチブを活用する方法や、GROWなどのアフィニティネットワークを通じたサポートの提供方法を含めて、ギャップの解消につながる具体的な行動を話し合っています。

ダニエル・アザルチは、4年半ゴアで働き、一般消費者向けファブリクス (COF) とプロフェッショナル向けファブリクス (TOF) 両ビジネスの製品開発プロジェクトを指揮してきました。サプライヤーやカスタマーとともに、サプライチェーン全体に関わるのを楽しんでいます。

4年前からファブリクス・ディビジョンのGROW代表を務めています。ゴアに入社する前は、ドレクセル大学で化学工学を学び、学士号と修士等を取得しました。

ミッシェル・レッキントンは、24年間ゴアの一員として、社内外のカスタマーのガーメント開発を支援してきました。DE&Iに熱心に取り組み、多様な視点の導入はビジネス成果の改善につながると考えています。

彼女は10年以上、エルクミルズ工場のGROW代表を務めてきました。アパレル管理を学び、ゴアに入社する前はプライベートブランドのニットウェアメーカーに勤務していました。

力をあわせて持続可能な未来に向けた変革を推進する

サステナビリティはチームスポーツです。素晴らしい結果を達成する鍵は協働にあります。多くの業界団体、連合、財団の活発なメンバーでありサポーターであるゴア ファブリクス・ディビジョンは、2021年にも多くの活動に貢献しました。また、ファッション・フォー・グッドのアフィリエイト・パートナーになるなど、主な取り組みでのエンゲージメントも拡大しました。



ファッション・フォー・グッドは、連携とコミュニティを通じて可能となったイノベーションのためのグローバルプラットフォームであり、ブランド、リテラー、サプライヤー、非営利団体、イノベーター、資金調達者が集まってファッション業界全体の変化を促進しています。

アフィリエイト・パートナーとして、ファッション・フォー・グッドに参加

科学に基づく持続可能なイノベーションへの強固なコミットメントを支援するために、ファブリクス・ディビジョンは、2020年初めにファッション・フォー・グッドと正式に提携しました。ゴアは、ファッション・フォー・グッドのアフィリエイトパートナーとして、一流のグローバルファッションブランドやメーカーとともに名を連ね、ファッション・フォー・グッドの幅広いネットワークを通じて、イノベーターのスカウトや選考に対する支援に加えて、商品化可能なイノベーションへの優先的なアクセスを手に入れています。

「マテリアルサイエンスの業界リーダーであるファブリクス・ディビジョンを、ファッション・フォー・グッド・イノベーション・プラットフォームの新たなメンバーとして歓迎します。彼らの豊富な専門知識と知見は、イノベーターによる大規模な画期的なソリューションの実現と業界の組織的な変化の推進をサポートする上で、欠かせません」

Katrin Ley
ファッション・フォー・グッド、マネージングディレクター

ゴアは現在、ファッション・フォー・グッドが2021年に立ち上げた2つの基本的なプロジェクトに参加しています。その2つとは、「再生可能なカーボンテキスタイルプロジェクト」と「完全循環型テキスタイルプロジェクトーポリエステル」です。

再生可能なカーボンテキスタイルプロジェクトは、業界の主要プレイヤーから成る先駆的なコンソーシアムをまとめて、ポリヒドロキシアルカノエート (PHA) ポリマーファイバーの開発の推進を目指すイノベーターが提供するソリューションの調査、試験および検証を行うものです。



こうした素材は、化石由来のファイバーに代わる有望な生合成ファイバーであり、ファッションサプライチェーンの炭素排出量を削減できる可能性があります。ゴアはこのプロジェクトの協働的なパートナーとして、アウトプット素材の試験・開発に加えて、技術的知識、財政支援、業界インサイトの提供に参加しています。

完全循環型テキスタイルプロジェクトは、ケミカルリサイクルPETの技術と拡大展開の可能性を検証することを目指しています。すなわち、業界のケミカルリサイクルを推進しこの技術にさらなる資金を動員するために、実施契約と長期供給契約をさらに促すのです。リサイクルポリエステル生地に関わる課題の解決に最適なイノベーションを明確に把握するため、ファッション・フォー・グッドは、ポリエステルのケミカルリサイクル分野の世界中の有望なイノベーターにプロジェクトへの参加を求めています。

詳しくは、www.fashionforgood.com (英語) でご覧いただけます。

「PHAは、テキスタイルに利用できる大きな可能性を秘めた、とても有望なポリマーです。このプロジェクトは、このファイバーの技術開発に貢献する機会をもたらすと同時に、将来の応用の可能性を探るためのプラットフォームでもあります」

Brian Levy
ゴア、オープンイノベーションエンジニア (アメリカ)

「業界の大半のブランドと同じく、PETは私たちのビジネスの鍵を握るファイバーです。私たちは、資源消費量の削減を見据えて、将来的なリサイクルの能力を把握しこれに投資する必要性を認識しています。私たちにとって、このプロジェクトは、ケミカルリサイクルを通じてrPETの在庫をどうやって増やせるか、これらの素材の真の環境負荷はどれくらいか、主な制約は何かといった、循環性の未来をめぐる重要な質問に答えるチャンスです。これにより私たちは、ライフサイクル全体のインパクトを考慮して、責任ある製品設計を行うことができます」

Craig Lindemann
ゴア ファブリクス、サステナビリティ テクノロジスト (アメリカ)



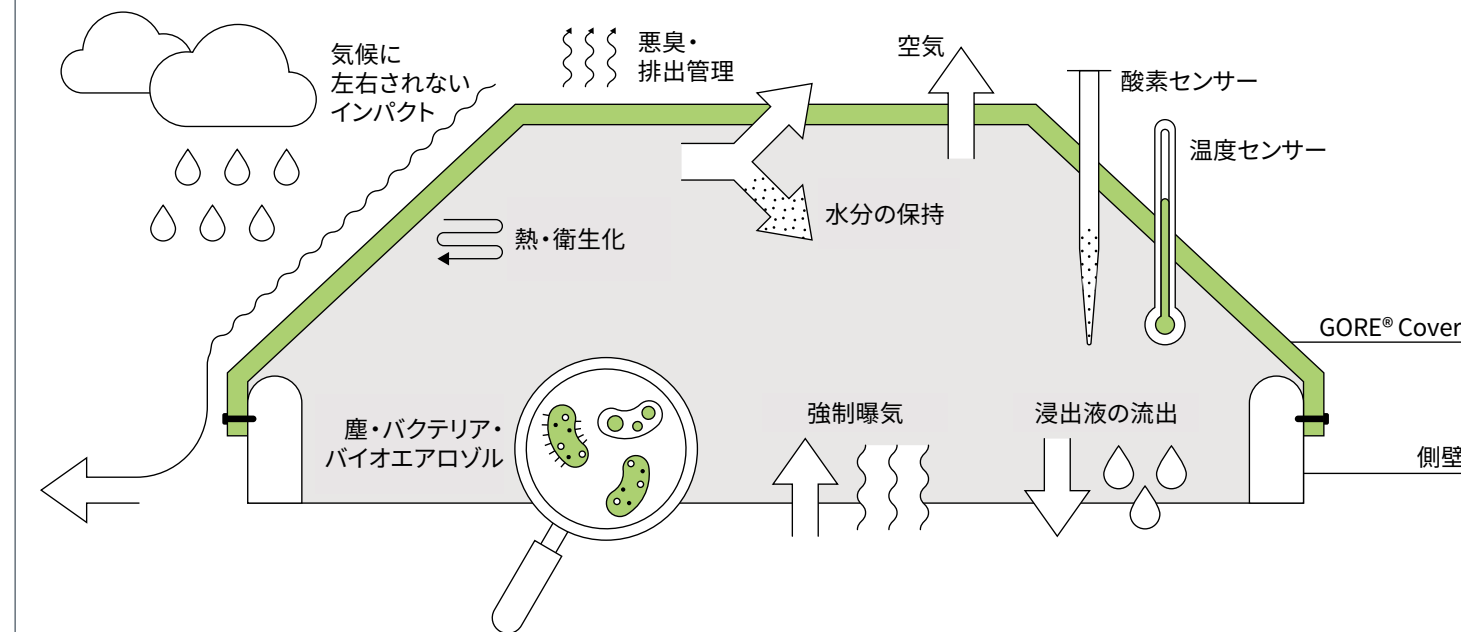
詳細は、www.gore-tex.com/sustainability/partnerships (英語) でご覧いただけます。

欧州コンポストネットワークとゴアが、共通農業政策やコンポストに関してEUとの意見交換会で提案

ゴア ファブリクス・ディビジョンは2021年10月、欧州コンポストネットワーク (ECN) と協力して、農業へのコンポストの持続可能な利用に関わる今後の共通農業政策 (CAP) について、マリア・ノイクル欧州議会議員 (MEP) と意見交換会を開催しました。



GORE® COVER SYSTEMを通じて 高品質コンポスト生産へのニーズに対応



ゴアの招きを受けて、コンポスト部門と農業部門の代表が、バイエルン州バート・アイブリングで行われた政策協議に参加しました。

ECNエグゼクティブディレクターのStefanie Siebertがヨーロッパのバイオ廃棄物・コンポスティング部門について紹介を行った後、ゴアの固形廃棄物処理チームのメンバー、Thomas TerpetschnigとUlf HarigがGORE® Cover System Technologyについて参加者に説明しました。

被覆曝気静的パイル (CASP) の主なコンポーネントとして、GORE® Coverは、世界30カ国の300以上の施設の事業者が、450万トン以上の有機廃棄物を、有機農業グレードを含む高品質なコンポストに変換することを可能にします。

GORE® Cover Technologyは、欧州排出指令に基づき利用可能な最も優れた技術として認められており、ゴアはビジネスを通じて、コンポスティング (堆肥化) を地域社会や民間企業にとってより魅力的な有機廃棄物処理の選択肢にする手助けをしています。

詳しくは以下をご覧ください。

GORE® Cover www.gore.com/products/gore-cover-for-organic-waste-treatment (英語)

欧州コンポストネットワーク (ECN) www.compostnetwork.info (英語)

ECNのS.O.S. SOIL Initiative www.saveorganicsinsoil.org/ (英語)

EU共通農業政策 (CAP) https://ec.europa.eu/info/food-farming-fisheries/key-policies/common-agricultural-policy/new-cap-2023-27_en (英語)

ゴアが2020年に署名したSOS Soil Initiative Save Organics in Soil (SOS — 土壌有機物を救うイニシアチブ) を通じて、ECNは、土壌有機物の重要性と、有機物のリサイクルが土壌の健全性の維持に果たす役割を強調しています。

Maria Noichl議員は、EUの2023～2027年共通農業政策の新たな立法アプローチについて発表しました。ECNとゴアはともに、このアプローチにおける高品質コンポストの活用のメリットを政策立案者が認識し、地球上の生命の持続可能性と健全性にさらに貢献するために、GORE® Coverなどのビジネスソリューションの適用が段階的に進むことを願っています。



Maria Noichl (MEP) と Stefanie Siebert (ECNエグゼクティブディレクター)





W. L. Gore & Associates (ゴア) について

ゴアは、業界に変革をもたらすことで人々の生活の向上に尽力する、グローバルな技術主導型企業です。1958年の創業以来、宇宙空間から世界最高峰の山頂、さらには人間の体内まで、厳しい環境における複雑な技術的課題の解決に寄与してきました。ゴアはチームワークを大切にする企業文化を持つことで知られており、11,000人を超えるアソシエート(社員)を擁し、年間38億ドルの収益を上げています。詳細は <https://www.gore.com/> をご参照ください。

お問い合わせ先

www.gore-tex.com/support/contact-us (英語)

ゴア ファブリクス・ディビジョンについて

ゴアは、防水性と透湿性を備えたゴアテックス ファブリクスによって、40年以上前にアウトウェア業界に革命をもたらし、今なお機能性アパレルをリードするイノベーターであり続けています。ゴアのファブリクス製品は、過酷な環境において、あるいは日常生活においても快適性と保護性能を提供し、着る人が安全で快適により多くのことを達成し経験をすることを可能にします。消費者や業界のニーズを深く理解し、土砂降りの中のハイキングから防衛、消防活動に至るまで、価値ある性能の有利性を備えた製品の開発に取り組んでいます。詳細は、www.gore-tex.com および <https://www.goretexprofessional.com/> をご参照ください。

Together, improving life

© 2022 W. L. Gore & Associates GmbH. GORE-TEX, GUARANTEED TO KEEP YOU DRY, GORE, Sitka, Together, improving life の名称およびデザインは、W. L. Gore & Associatesの商標です。他のすべての商標は、各所有者に帰属します。

